

# 実務経験のある教員等 による授業科目の授業 計画(シラバス2)

## 地域・在宅看護実習Ⅰ

### はじめに

超高齢多死社会の現在、地域特性を活かした地域包括ケアに貢献できる看護職の育成を目指し、対象を生活者として理解し、その人の尊厳ある人生を支える看護実践ができる人材、医療機関をはじめ地域における多様な場でも臨床判断ができる人材の育成が求められている。地域・在宅看護実習は、生活の基盤である地域を理解するとともに、地域で暮らす人々の健康支援を学ぶものである。

地域・在宅看護実習Ⅰでは、地域・在宅看護論Ⅰのフィールドワークを生かし、健康課題をもちながら地域に暮らす人々の様々な生活の場を観察する。更に、人々との関わりを通して日々の生活の中で感じている思いを知り、その人らしく生活するとはどういうことか考える。そして、実習を通して得た学びを、実習後の授業の中で、生活の基盤である地域と暮らしている人々の理解につなげていく。

### 1. 実習目的

健康課題を持ちながら地域に暮らす人々を訪ね、関わりを通して人々の生活について考察する。

### 2. 実習目標

- 1) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々を尊重した関わりをする。
- 2) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の日常生活の場を知り、必要なことについて考える。
- 3) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の生活史・生活様式を知り、意味を考える。
- 4) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の生活を踏まえ、人々の生活に影響していることを考える。
- 5) 看護学生としての自覚をもって行動する。

### 3. 時間数と単位数

1単位 45時間 (1時間=45分)

- ・実習オリエンテーション 2時間 (1コマ)
- ・隣地実習 9時間×4日 (8:30~16:15)
- ・学内実習 7時間×1日 (8:45~15:00)

### 4. 実習場所

訪問看護ステーション (志太・焼津・焼津北・スポット・わかば・寿丸・池ちゃん家)

小規模多機能型居宅介護事業所 (小規模多機能ホーム「池ちゃん家」焼津・西焼津看護多機能ホーム「池ちゃん家」・小規模多機能ホーム「池ちゃん家」藤枝・コミュニティビレッジ下小田)

透析室 (椋原総合病院)

化学療法室 (藤枝市立総合病院)

就労継続支援B型事業所 (社会福祉法人心愛志太第二心愛、社会福祉法人高風会連)

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々を尊重した関わりをする。	
◇ニーズを捉える力・ケアする力	
学習活動	学習内容・学習方法
訪問者としてマナーを守り、ふさわしい行動をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ（髪型・服装）を整えて実習に臨む。</li> <li>・対象者のテリトリーに配慮し、許可を得てから訪問させて頂く。</li> <li>・訪問時間に遅れることがないように、指導者・担当者に事前確認し、行動できるように準備する。</li> <li>・挨拶、言葉遣い、声の大きさ等に留意し、対象者に失礼のない立ち居振る舞いを意識する。</li> </ul>
対象者に向き合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者や実習施設職員の関わり方と地域に暮らす人の反応を見て、適切なコミュニケーション方法を学び表現する。</li> <li>・対象者が安心できるコミュニケーション姿勢をとる。</li> <li>・対象者に対し、自ら挨拶・自己紹介を行い、了解を得て話しかける。</li> </ul>
対象者の反応を捉え、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の発言や非言語的表現も観察し、反応を捉え、対象者の気持ちや考えを察する。</li> <li>・時々状況に合わせて、相手の立場に立って対象者の気持ちを考える。</li> </ul>
対象者に対し、自己の反応を示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者が話しやすいように、反応を伝える。</li> <li>・自分が言いたいことだけを伝えるのではなく、自分の言葉が相手に伝わっているか、対象者の反応をよく観察する。</li> </ul>
対象者の言動を受け止め、気持ちを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者に対して、丁寧な言葉づかいで受け止めている。</li> <li>・相手の立場に立って、自分の言葉で対象者への思いを伝える。</li> <li>・対象者の反応から自己の言動を振り返り、その言動が相手にどう影響したのかを考え表現する。</li> </ul>
実習目標2. 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の日常生活の場を知り、必要なことについて考える	
◇ニーズを捉える力	
対象者がどのように生活しているか、居住環境を観察し、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の生活の現状について否定せず、肯定する態度で観察する。</li> <li>・居住環境を観察し、生活しやすく工夫されている状況について、対象者や家族との会話を通して知る。</li> <li>・対象者の居住空間にある生活用品等を観察する。</li> <li>・生活用品の位置等対象者・家族との会話、または担当者・指導者との会話を通して知り、どのような意味があるか自分なりに考える。</li> </ul>
対象者の日常生活動作・生活行動を知り、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の日常生活動作、手段的日常生活動作について、関わりの中で観察し、対象者や家族との会話、または担当者・指導者との会話を通して知る。</li> <li>・対象者が生活行動の中でこだわっていること等、どのような意味があるか自分なりに考える。</li> </ul>
対象者の生活について自分が考えたことを確認し、関連した情報を集める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活の中で対象者がなにかしている様子を、対象者や家族との会話、または担当者・指導者との会話、質問を通して知る。</li> </ul>

<p>日常生活の場において、必要な事が何か考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で、人々が暮らす日常生活の場にはどのようなものが必要なのか考えられる。</li> <li>・日常生活の場において、生活をしやすくするために必要なことは何か、考えられる。</li> </ul>
<p>実習目標 3. 地域に暮らす人々の生活史・生活様式を知り、意味を考える。</p>	
<p>◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力</p>	
<p>対象者の生活習慣やライフスタイルを知り、意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の一日、1週間の生活行動(仕事含む)について、対象者や家族との会話を通して知る。また、担当者・指導者から情報を得る。</li> <li>・健康維持のために工夫していることについて、対象者や家族との会話を通して知る。</li> <li>・対象者の生活習慣やライフスタイルが対象者に影響していることを考える。</li> </ul>
<p>対象者の生活を支えているものを知り、意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要なサービスや医療等について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・地域に暮らす人の身近な方々との交流の様子について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・対象者の生活を支えているものがもつ意味を考える。</li> </ul>
<p>対象者の趣味や楽しみ、人生観について知り、意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の趣味や楽しみについて、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・日々の生活における家族の中での対象者の役割について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・生活史や人生観について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・対象者の趣味や楽しみ、人生観等が対象者へどのような影響を与えているのかを考える。</li> </ul>
<p>地域に暮らす人々について、生活者としての気持ちや考え方を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題を持ちながら生活する人々の気持ちや考え方について、カンファレンス等で表現する。</li> <li>・他者の意見をよく聞き、自己の考えを深める。</li> </ul>
<p>実習目標 4. 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の生活を踏まえ、人々の生活に影響していることを考える。</p>	
<p>◇振り返る力</p>	
<p>実習の学びについて意見交換し深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスでの意見交換は、メンバーの意見をよく聞き自分の意見も伝えられるように努力する。</li> <li>・カンファレンスが円滑に進行できるように、積極的に参加する。</li> <li>・地域に暮らす人との関わりから考えたことをカンファレンスにおいて他学生と共有する。</li> </ul>
<p>「人々の生活に必要なこと」についてレポートをまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に暮らす人が大切にしていることや信念が、生活にどのような影響を与えているのか考えて表現する。</li> <li>・健康上工夫していることが、生活にどのような影響を与えているのか考えて表現する。</li> </ul>
<p>実習目標 5. 看護学生としての自覚をもって行動する。</p>	

◇看護師としての基本的態度・姿勢	
看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として求められているルールを守り、決められた時間を厳守し約束を守る。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・やむを得ず時間や約束を守ることができない場合は、その旨を報告し、自ら対応を考え責任のある行動をとる。</li> </ul>
あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任をもち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報については、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・実習中は常に教員・指導者に報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・疑問に思った事は、施設職員・教員に必ず確認する。</li> </ul>
主体的な学習姿勢をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・実習中困った事やわからない事があった場合は、自ら教員・指導者に報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、自ら追加学習を進める。</li> <li>・日々の話し合いや意見交換時は、積極的に参加する。</li> </ul>
自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を総括する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・他者への感染予防に責任をもち、手洗い・咳嗽・マスクの着用を徹底する。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 2022年9月26日～30日の5日間

2) 実習計画 実習オリエンテーション

1～4日目 同行実習・地域で暮らす人々への関わり（隣地）

5日目 ・実習グループ毎学びの共有

（テーマ：健康課題を持ちながら地域で暮らす人々にとって必要なことは何か）

・全体での発表（学内）

### 〔実習ローテーション〕

日	時間	場所	実習施設	
1日目	8:30～16:15	臨地	訪問看護ステーション	透析室、化学療法室、就労継続支援B型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所
2日目	8:30～16:15	臨地		透析室、化学療法室、就労継続支援B型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所
3日目	8:30～16:15	臨地	訪問看護ステーション	透析室、化学療法室、就労継続支援B型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所
4日目	8:30～16:15	臨地		透析室、化学療法室、就労継続支援B型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所
5日目	8:45～15:15	学内	学校	

\*2日間ずつ実習場をローテーションする（1施設2～3名程度）。

\*訪問看護ステーションは学生全員必須。透析室他はグループごと実習場が変わる。

## 7. 提出物一覧

- 1) ポートフォリオ
- 2) 実習ファイル (①～④をまとめ、インデックスをつけてファイリングする。

提出は、実習終了日の翌日\*翌日が土日祝祭日の場合は翌週月曜日)

- ① 評価表
- ② ルーブリック
- ③ リポート「鏡磨課題を持ちながら地域で暮らす人々にとって必要なことは何か」(A4)  
\*具体例を挙げて述べる
- ④ 地域に暮らす人々の生活 \*毎日の記録は翌朝指導者が教員に提出する。
- ⑤ 日々録(自己の行動の振り返りや感想) \*毎日の記録は翌朝指導者が教員に提出する。

## 8. 服装と持ち物

服装：ポロシャツ・ジャージズボン・エプロン・白の靴下(天候・汚染の可能性もあるため予備を持つ)・  
運動靴(必要時はカーディガン着用)

持ち物：トートバッグ・アルコールジェル・折り畳み傘・水筒・メモ帳

## 9. 事前準備について

- 1) 既習学習の復習 既習の学習内容を計画的に復習する  
学習したことは学習ファイルに関して実習先で活用できるように工夫する  
\*テキスト：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、看護学概論等  
訪問時のマナー・コミュニケーション法・  
各施設の特性についての事前学習
- 2) 実習オリエンテーションを受ける \*事前に実習要項を熟読しておく

## 地域・在宅看護実習Ⅱ

はじめに

地域・在宅看護実習では、地域に暮らす人々とその家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を理解するものである。地域特性を活かした「地域包括ケア」に貢献できる看護職の育成を目指し、対象を生活者として理解し、その人の尊厳ある人生を支える看護実践ができる人材、医療機関はじめ地域における多様な場でも臨床判断できる人材の育成が求められている。「地域包括ケア」とは、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が包括的に確保されるという考え方である。このしくみを「地域包括ケアシステム」と言い、誰もが“我が事”として捉えていく必要がある。

地域・在宅看護実習Ⅱでは、健康上のニーズを抱えながらも自分らしく地域で暮らし続けるための支援が行えるように、地域で連携する職種の専門性を知り、役割を理解することにより、どのような連携・協働が必要か考えていく。また、地域包括ケアシステムの重要性や必要性を理解したうえで、社会から求められる看護職の役割とは何かを創造的に考えていくことが重要である。

### 1. 実習目的

連携する多職種の専門性を知り、役割を理解する。

地域包括ケアシステムの中で求められる看護職の役割とは何か考える。

### 2. 実習目標

- 1) 自助・互助を推進し、地域住民の生活や健康を守る保健活動について理解する。
- 2) 地域住民の保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援する活動について理解する。
- 3) 地域における療養生活を支えるケアマネジメントの実際を知り、対象者・家族を支える社会資源の活用について理解する。
- 4) 地域包括ケアシステムにおける地域連携室の役割を学び、看護の継続性や多職種との連携・協働について理解する。
- 5) 地域包括ケアシステム構築における看護の役割・機能について考える。
- 6) 看護学生としての自覚をもって行動する。

### 3. 時間数と単位数

2単位 90時間（1時間=45分）

・実習オリエンテーション 2時間

・隣地実習 9時間×8日（8:30～16:15）

・学内実習 8時間×2日（8:45～15:30）

### 4. 実習場所

保健センター（藤枝・焼津）

地域連携室（榛原総合病院・藤枝市立総合病院・甲賀病院・聖稜リハビリテーション病院）

居宅介護支援事業所（焼津市医師会・ケアセンターゆうゆう・愛華の郷・三輪医院・亀寿の郷）

地域包括支援センター（焼津市北部・中部・南部・大井川・藤枝市社協・愛華の郷・亀寿の郷）

## 5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 自助・互助を推進し、地域住民の生活や健康を守る保健活動について理解する。	
◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力・振り返る力	
学習活動	学習内容・学習方法
地域の人々の健康課題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性、事業内容を理解し、保健センターにおける地域保健活動に参加する。</li> <li>・地域保健活動に参加する中で、どのような健康課題があるかについて考える。</li> <li>・我が国の社会状況を踏まえた健康課題と当該地域の健康課題を比較して、地域特有の健康課題や共通した健康課題について考察する。</li> </ul>
地域住民への保健活動を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健活動がどのような法律に基づいて行われているのか、関わる法律について事前学習する。</li> <li>・目的、法的根拠、保健活動の内容や方法を記録に表現する。</li> <li>・地域保健活動（健康相談・健康教育・健康診査・家庭訪問等）に参加し、参加者との対話を通して思いを知る。</li> <li>・活動参加者の特性、反応を記録用紙に具体的に表現し、地域保健活動の役割を考察する。</li> <li>・地域保健活動における保健師の関わりについて学び、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの特徴や教育的関わりについて考察する。</li> </ul>
実習目標2. 地域住民の保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援する活動について理解する。	
◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力・振り返る力	
地域包括支援センターの活動内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該地域の地域包括支援センターの活動について事前学習を行う。</li> <li>・介護予防ケアマネジメント、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、総合相談業務の見学実習に参加する。</li> <li>・参加した活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を、記録用紙に具体的に表現する。</li> <li>・事業所内活動の見学、事業内容の説明から事業の目的・内容について知る。</li> </ul>
地域の現状と課題を知り、対象者・家族の生活の場の特徴やケアシステムを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した活動から、生活する地域の特徴やケアシステムについて考える。</li> <li>・地域包括支援センター内での多職種と連携し、支援することの重要性について考える。</li> </ul>
実習目標3. 地域における療養生活を支えるケアマネジメントの実際を知り、対象者・家族を支える社会資源の活用について学ぶ。	
◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力・振り返る力	
居宅介護支援事業所の活動内容を知り、介護保険制度におけるケアマネジメントについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該地域の居宅介護支援事業所の活動について事前学習を行う。</li> <li>・ケアプラン作成・モニタリング訪問・サービス担当者会議等、要介護認定を受けている対象者・家族への関わりについて、見学実習を行う。</li> <li>・見学した活動の目的、内容、方法、対象者・家族の反応を、記録用紙に具体的に表現する。</li> <li>・対象者・家族との関わりから、調整的役割について考え、表現する。</li> <li>・事業所内活動の見学、事業内容の説明から事業の目的・内容について知る。</li> </ul>



対象者・家族に関わる社会資源を知り、その活用方法・目的を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者・家族の生活を支えるために必要な社会資源について、活用の目的・内容・方法について調べ、記録に表現する。</li> <li>・介護保険サービス内容について事前に調べ、対象者・家族に合わせた活用の目的について知る。</li> </ul>
対象者・家族に関わる関連機関・関連職種との連携や協働の必要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような職種が関わり、どのような連携・協働が行われているのか知り、記録に表現する。</li> <li>・チームの一員として多職種と連携して支援することの重要性を理解する。</li> <li>・連携・協働の実際から、チームの中で看護が担う役割を考察し、カンファレンス等で表現する。</li> </ul>
実習目標 4. 地域包括ケアシステムにおける地域連携室の役割を学び、看護の継続性や多職種との連携・協働について理解する。	
◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力・振り返る力	
病院の地域連携室の活動内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室の役割、活動について事前学習を行う。</li> <li>・退院調整看護師、医療ソーシャルワーカーの関わりの実際についての見学実習を行う。</li> <li>・参加した退院調整会議の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を、記録用紙に具体的に表現する。</li> <li>・病棟看護師との連携や多職種との連携の実際を知り、連携室における看護の役割について考察する。</li> </ul>
病院と生活の場（在宅・施設）をつなぐ視点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院から生活の場（在宅・施設）へ、生活の場から病院へ、切れ目なく看護を提供するために、多職種間でどのように連携すればよいかを考える。</li> <li>・病院から生活の場（在宅・施設）へ、生活の場から病院へ、切れ目なく看護を提供するために、看護師間でどのように連携すればよいかを考える。</li> <li>・生活の場で療養を継続するためには、入院時からどのような支援が必要かを考える。</li> </ul>
地域連携室で行われている意思決定支援について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP 文書の情報共有のために、多職種連携を含めたどのような医療ケア体制がとられているかを学ぶ。</li> <li>・対象者・家族との関わりの実際から、価値対立時の合意形成や対象者・家族双方の意思を反映するためのコミュニケーションスキルについて考える。</li> </ul>
実習目標 5. 地域包括ケアシステム構築における看護の役割・機能について考える。	
◇ニーズを捉える力・意思決定を支える力・協働する力・振り返る力	
地域包括ケアの必要性を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、地域連携室における実習体験を通して、地域包括ケアが求められる背景を理解する。</li> <li>・当該地域における理想の地域包括ケアシステムについて考える。</li> <li>・地域包括ケアシステムの中で看護が担う役割について考察し、カンファレンス、記録で表現する。</li> </ul>
実習目標 6. 看護学生としての自覚をもって行動する。	
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
看護学生としてマナーやルールを意識した行動を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として求められているルールを守り、決められた時間を厳守し約束を守る。</li> </ul>

とる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・やむを得ず時間や約束を守ることができない場合は、その旨を報告し、自ら対応を考え責任のある行動をとる。</li> <li>・実習施設ごとのルールを守り、同行訪問がある場合は、訪問時間や訪問時の集合場所の確認を学生自身で行う。</li> <li>・各施設の実習初日には、記録物の提出場所を確認し、毎朝指定場所に提出する。</li> </ul>
あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任をもち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報については、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・実習中は常に教員・指導者に報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・疑問に思った事は、施設職員・教員に必ず確認する。</li> </ul>
主体的な学習姿勢をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・実習中困った事やわからない事があった場合は、自ら教員・指導者に報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、自ら追加学習を進める。</li> <li>・助言やアドバイスを頂いた内容について更に追及しようと努力する。</li> <li>・日々の話し合いや意見交換時は、積極的に参加する。</li> </ul>
自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・行動履歴チェック表は、毎朝各施設指定場所に提出する。</li> <li>・他者への感染予防に責任をもち、手洗い・含嗽・マスクの着用を徹底する。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> </ul>
常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を明確にして実習に臨み、自己の課題を意識して実習に取り組む。</li> <li>・実習を通して自己の課題改善への取り組みを振り返り、更に新たな自己の課題を明確にする。</li> <li>・日々の実習の取り組み状況や実習目標の達成状況を振り返り、翌日の実習では自己の姿勢・態度を修正して臨む。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 2023年9月27日～10月11日の10日間

2) 実習計画 ・2日間ずつ実習場をローテーションする(1施設3名程度)。

・保健センター、地域連携室、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを4ローテーションする。

・5日目、10日目は学びの共有とする。

【実習ローテーション】

日	時間	場所	実習場所			
事前	2時間	学内	学校(実習オリエンテーション)			
1日目	9時間	隣地	保健センター	地域連携室	居宅介護支援 事業所	地域包括支援セ ンター
2日目	9時間	隣地				
3日目	9時間	隣地	地域包括支援セ ンター	保健センター	地域連携室	居宅介護支援事 業所
4日目	9時間	隣地				
5日目	8時間	学内	学校(学びの共有)			
6日目	9時間	隣地	居宅介護支援事 業所	地域包括支援セ ンター	保健センター	地域連携室
7日目	9時間	隣地				
8日目	9時間	隣地	地域連携室	居宅介護支援事 業所	地域包括支援セ ンター	保健センター
9日目	9時間	隣地				
10日目	8時間	隣地	学校(面接・学びの会)			

7. 提出物一覧

最終記録は下記の順番でファイリングし、インデックスを添付する。

- 1) 地域・在宅看護実習評価表
- 2) ルーブリック
- 3) 地域・在宅看護実習総括レポート  
「地域包括ケアシステムのなかで看護が担う役割とは何か、多職種連携の重要性を含めて考察する」
- 4) ①保健センター日々録  
②地域包括支援センター日々録  
③居宅介護支援事業所日々録  
④地域連携室日々録

8. 服装と持ち物

服装：ポロシャツ・ジャージズボン・エプロン・白の靴下(天候・汚染の可能性もあるため予備を持つ)、  
運動靴(必要時はカーティガン着用)

\*一部地域包括支援センターは、白いブラウスと黒いズボン、黒い靴を用意する。

持ち物：トートバッグ・アルコールジェル・折り畳み傘・水筒・メモ帳

9. 事前準備について

- 1) 既習学習の復習 既習の学習内容を計画的に復習する(疾病予防・地域・在宅看護論Ⅰ・看護学概論)。ポートフォリオを作成し、実習先で活用できるように工夫する。  
\*テキスト：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、看護学概論等 各施設の特性についての事前学習
- 2) 実習施設毎の学習
  - ・保健所と保健センターの機能・役割、事業内容
  - ・関連する社会保障制度等(地域保健法・健康増進法・母子保健法・介護保険法等)
  - ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の機能・役割・従事する職種
  - ・地域連携室の機能と役割、退院調整看護師の役割

# 基礎看護実習 I

はじめに

地域で暮らす人々の中には、健康課題を抱えながらもその人なりの暮らしがあり営みがある。それらの方々を支えるために看護職をはじめ多くの職種が携わり支援している。現在看護職には、多様なあらゆる場で活躍できる看護師の人材が求められている。様々な状況に対応するためには、対人関係能力や状況判断力、看護実践力といった能力が必要になってくる。基礎看護実習ではその土台となる基礎的能力を身につけていく。

基礎看護実習 I は、急性期病院での初めての実習である。看護は、患者への関心から始まり、患者という「その人」を捉えながら、その方の健康支援のために関わり続けることが大切である。学生は、一人の患者を受け持ちながら、その中で患者の状況や思いに気づき、そこから患者に必要な看護について考え、必要な日常生活援助を実践する。そして、患者を支えるチームの一員として、自己の経験を振り返り、自己を見つめることで、看護者として必要な知識・技術・態度を身につけていく。また、学生には対象に援助することの責任や重みを感じる一方で、看護をすることの楽しさや魅力も感じてもらいたい。そして、これらの経験を通して、将来の目標に向かう意志がより強まることを願っている。

## 1. 実習目的

生活者である患者への関心と気づきを基に、健康を障害されたことによる影響を考え、原理・原則に基づいた日常生活援助を実践する能力を身につける。また、実習の様々な体験を通して、看護者としての自己を成長させる姿勢を養う。

## 2. 実習目標

- 1) 患者に向き合い、患者の立場に配慮した関わりをする。
- 2) 患者という「その人」を捉える。
- 3) 患者理解から、今「その人」に必要な援助に気づける。
- 4) 患者に必要な援助の気づきから、患者にとって安全で安楽な日常生活援助を計画する。
- 5) 計画に基づき、患者にとって安全で安楽な日常生活援助を実施する。
- 6) チームで看護をするために必要なことについて明らかにする。
- 7) 経験から自己の課題に気づき、成長のための改善点を明らかにする。
- 8) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間(1時間=45分)

・全体オリエンテーション: 2 時間      ・臨地実習: 88 時間

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

## 5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者のことを中心に考えて向き合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の対象である患者に関心を持ち、関わる。</li> <li>・体験可能な援助については目的を持って参加する。</li> <li>・患者の状況や体調に配慮した上で関わる。</li> <li>・対話の場面では、患者の意思を尊重した態度を示す。</li> <li>・言葉遣いだけでなく、態度、表情など、患者との関わりの中で意識する。</li> <li>・指導者や教員、看護師の関わりを参考にして学ぶ。</li> <li>・関わりで不安になったり困った時には、教員や指導者に相談したり、カンファレンスでテーマに取り上げるなどして、課題解決をする。</li> </ul>
②患者の言動の意味を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の言動を肯定的に受け止め、患者の言動の意味や思いを考え、「看護活動記録」「フリーシート」の記録用紙に表現する。</li> <li>・患者の言動に対して、患者の気持ちや立場を考えて、自分の思いを患者に伝える。</li> </ul>
③患者がどのように生活しているのか、療養環境を観察し、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療養環境や入院生活の実際を知り、気づいたことなどを「看護活動記録」「フリーシート」の記録用紙に表現する。</li> <li>・知り得た情報について、患者の立場に立ちその意味を考える。</li> </ul>
④患者の全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の入院前のこと・ライフプロセス（過去）、今（現在）、これから（退院後のこと）など関心を持って話を聞く。</li> <li>・今行われている看護や必要と思われる看護を「全体像」用紙に表現する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子などを話す。</li> <li>・「全体像」には「私の捉えた患者について」表や絵など工夫してわかりやすく記述する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> </ul>
⑤患者の身体状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を活用し、受け持ち患者に関連する必要な情報が何かを明らかにし、「観察の視点」について計画する。</li> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからないことは調べて、ポートフォリオに学習の足跡を残す。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にす。</li> <li>・患者に関わる際には、常に患者の全身状態の変化がないかを意識して、観察する。</li> <li>・観察は五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える。その場で気になった情報については、さらに詳しく反応を捉える。</li> <li>・患者の反応を単に「ある」「なし」ではなく、状態の程度や変化などについても捉える。</li> <li>・捉えた事実は、「看護活動記録」「フリーシート」「患者検温表」の記録用紙に表現する。</li> <li>・看護活動記録では、「主観的情報」と「客観的情報」を区別して表現する。</li> <li>・患者の病態に変化がないか関心を持って訪室する。</li> </ul>

<p>⑥患者の身体的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実 (情報・結果)に自分の主観は含めず、見た事、聞いたことをありのままに捉え、判断したと区別して「看護活動記録」に表現する。</li> <li>・患者と関わる中で、患者が日常生活においてどのようなことに苦痛や困難を感じ、どのような援助が必要であるのか、患者の現在の状態から考える。</li> <li>・患者の症状のメカニズムや原因についてわからないことを調べ、ポートフォリオに入れる。</li> <li>・患者の反応から、今起きていることや今後起こりうることを解釈・判断する。</li> <li>・解釈・判断する際には、根拠となる知識を用いて考える。</li> <li>・検査の結果を確認し、患者の病態の捉えの参考にする。</li> </ul>
<p>⑦入院環境が患者に及ぼす影響を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者との関わりから、患者が入院したことによる影響について患者の立場に立って考える。</li> <li>・入院したことによる影響について、「フリーシート」や「看護活動記録」用紙に表現する。</li> </ul>
<p>◇ケアする力</p>	
<p>学習活動</p>	<p>学習内容と学習方法</p>
<p>①患者にとって安全な援助を計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助で使用可能な物品や場所について事前に確認する。</li> <li>・予定された援助については、患者の安全に留意し、危険の及ばないように、患者の状況をふまえ、安全を考慮した援助計画を立案する。</li> <li>・患者の状況を想定しながら、「看護援助の内容」「援助目的」「必要物品」「援助方法・援助手順」、「安全の視点」を「援助計画」用紙に具体的に書く。</li> <li>・援助の事前には、必要物品の準備から片付けまでの一連の工程についてシミュレーションをし、安全に配慮すべき部分のイメージをする。</li> <li>・援助の前には、自ら指導者や教員に提示し、援助計画の確認や助言を求める。</li> </ul>
<p>②患者にとって安楽な援助を計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定された援助については、患者に苦痛や不快感を与えないように、患者の状況をふまえ、患者の安楽に配慮した援助計画を立案する。</li> <li>・援助計画では、物品の配置や立ち位置など具体的なイメージができるように視覚的な工夫をする。</li> <li>・患者の状況を想定しながら、「看護援助の内容」「援助目的」「必要物品」「援助方法・援助手順」「安楽の視点」を「援助計画」用紙に具体的に書く。</li> <li>・援助の事前には、必要物品の準備から片付けまでの一連の工程についてシミュレーションをし、安楽に配慮すべき部分のイメージをする。</li> <li>・事前にシミュレーションをし、物品の配置や方法などイメージしておく。</li> <li>・援助の前には、自ら指導者や教員に提示し、援助計画の確認や助言を求める。</li> </ul>
<p>③患者にとって安全な援助を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>・実施直前にも患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。</li> <li>・患者の状況に応じた安全を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>・計画上の安全の視点を意識して援助を実施する。</li> </ul>
<p>④患者にとって安楽な援助を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。</li> <li>・患者の状況に応じた安楽を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>・計画上の安楽の視点を意識して援助を実施する。</li> </ul>

⑤援助中は患者の意思の確認をしながら実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は患者の意思や反応を確認しながら行う。</li> <li>・援助後にも患者の状態の変化や効果を捉えるために、声かけや観察をする。</li> </ul>
⑥実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">       患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか        実施結果の原因・要因は何であったのか        より良い援助にするためにはどうすればよいと考えるか     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正点や改善点があれば計画を修正し、次の援助に活かすようにする。</li> <li>・患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護を継続するために必要なことは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟では、どのような体制で看護が行われ、どのようにして看護の質を維持しているのかを体験やカンファレンスから考える。</li> <li>・カンファレンス後、学びや自身の考えを「カンファレンス」用紙に考えをまとめる。</li> </ul>
◇意思決定を支える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者に関わる際には、患者の意思や希望を事前に確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に事前に目的(患者にとって援助の必要性)について説明し、了承を得た上で実施する。</li> <li>・援助方法について、患者の意思や希望があればできるだけそれを取り入れるようにする。</li> <li>・援助で患者の協力が必要な時には、事前にそのことについて説明し、患者から協力を得られるように調整する。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
①自己の成長のために、経験から自己の課題に気づき改善に向けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の機会に活かすために、自己の援助を振り返る。</li> <li>・自己の看護実践を改善していくために、教員や指導者など他者の助言を積極的に活かしていく。</li> <li>・ルーブリックを日々活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、課題を明らかにした上で翌日以降の実習で課題に取り組む。</li> <li>・実習8日目には、必ずルーブリックを用いて中間評価し、達成できていることと現状の課題を明らかにする。</li> <li>・日々実習を通しての気づきや学びを体験(エピソード)を踏まえてまとめる。</li> <li>・「看護を語る会」では患者への看護実践の経験から「私の捉えた思きについて」「看護の学び」について発表し、意見交換する。</li> <li>・実習中に見えた自己の成長と課題について「個人面接」「総括表」「成長-エントリー」で明らかにし、今後に向けた取り組みについて明確にする。</li> </ul>

◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められているかを考えて行動する(身なり、接遇、挨拶など)。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・社会人としてのルールを守り、その場でふさわしい判断と対応を心がけ、誠実に責任ある行動をとる。</li> <li>・判断に迷った場合や状況で困った時には、曖昧にせず教員や指導者に相談する。</li> <li>・交通手段の方法は事前に病院事に情報をまとめ教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・記録物は他者の目に触れず、紛失がないように管理を適切に行う。</li> <li>・報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>・感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人だけの学びを優先せず、グループ全体を意識した行動を取る。</li> <li>・メンバー同士協力し合い、助け合う。</li> <li>・カンファレンスにおいては、グループで司会者を順番に決め、司会者役割、メンバー役割を考え、お互いに学び合う姿勢を持つ。</li> <li>・自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、お互いに学びを共有し合い、深めていく。</li> </ul>
⑤患者や看護の理解が深まるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・わからない部分は、積極的に助言を求め、受けた助言を活かしていく。</li> </ul>



## 6. 実習スケジュール

日数	実習場所	時間	実習内容
12月	学内	2	事前オリエンテーション
1	臨地	10	講話 → 病棟へ移動後、病棟オリエンテーション、病院内の見学 受け持ち患者の決定、情報収集
2	臨地	9	患者の状態観察、日常生活の捉え、 <u>ビジョン・ゴール</u> の相談
3	臨地	9	患者の状態観察、日常生活の捉え、 <u>環境整備</u>
4	臨地	9	患者の状態観察、日常生活の捉え、 <u>環境整備</u>
5	臨地	8	教員と指導者に実習や援助について相談 ビジョン・ゴールと私の捉えた患者と目指す看護について(発表)
6	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり、 <u>環境整備</u> (以後毎日)
7	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり
8	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり(最良をめざす)
9	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり(最良をめざす)
10	臨地	7	学びの共有、個人面接

\*7時間: 8:30~14:45

\*8時間: 8:30~15:30

\*9時間: 8:30~16:15

## 7. カンファレンスについて

- ・司会は原則学生が行う。司会は日替わりで交代する。
- ・グループで予定を調整し、カンファレンス時間を決める。昼食後に指導者と教員に時間・場所・テーマを伝える。
- ・カンファレンスがない日であっても、グループで希望があれば実施してよい。その時は必ず指導者と教員に伝える。
- ・カンファレンスは、学生同士だけでなく、教員・指導者も交えて学びが深まるように進める。
- ・カンファレンス中、学生はメモをせず、他者の意見を聴くこと、自身の考えを伝え、相互に学び合う。
- ・カンファレンス終了後には、学びや自身の考えをまとめる。

## 8. 看護技術について ※ 学生全員に体験させたい技術

既習の看護技術:  環境整備・ ベッドメイキング(シーツ交換)

清潔援助、移乗・移動援助、体位変換、食事援助、排泄援助

バイタルサインの測定・ フィジカルアセスメント

看護過程展開技術(情報収集、分析)

感染予防

与薬(講義のみ)

## 9. 提出物一覧

- 1) 記録一式
- 2) ポートフォリオ
- 3) メモ帳
- 4) 実習日誌
- 5) 青ファイル: 経験録
- 6) 赤ファイル: ビジョン・ゴール、総括、実習目標シート、実習状況の記録

## 10. 事前準備について

- 1) 看護技術練習 ・空き時間を活用して、計画的に練習をする。
- 2) 既習学習の復習 ・既習の学習内容を、計画的に復習する。  
・学習したことは、ポートフォリオ(学習ファイル)に綴じ、実習先で活用できるように工夫する。
- 3) 病院の実習オリエンテーションを事前に教員から受ける。
- 4) 実習担当教員から事前にオリエンテーションを受ける。 \*再度実習要項を熟読しておく。
- 5) 体調管理に留意する。

## 基礎看護実習Ⅱ

### はじめに

基礎看護実習Ⅰでは、生活者である患者への関心と気づきを基に、健康を障害されたことによる影響を考慮しながら、原理・原則に基づいた日常生活援助を実施した。

今回の基礎看護実習Ⅱでは、基礎看護実習Ⅰでの学びや経験を基に、患者の必要かつ意味のある情報を意図的に捉えることにより、患者という「その人」の理解を深め、“患者に必要な看護を考える”思考を深めることをねらいとする。そのためにも、学生は患者の日常生活に視点をおきながらも、併せて患者の人生という時間軸から患者の健康障害がもたらす様々な影響について捉え、考えていく力を養う。また、看護援助においては、看護技術の安全・安楽についての原則を踏まえながらも、援助の必要性や根拠を明確にし、その患者に適した援助を実施していく。さらに、学生は医療チームの一員としての自覚を高めると共に他職種との連携の必要性についても理解を深める。そして、これらの過程を通し、学生は看護者としての自己を客観的に見つめ、そこから自己の課題と成長について考える機会とする。

### 1. 実習目的

情報のアセスメントに基づき生活者としての患者理解を深め、根拠に基づき患者が必要としている看護を明らかにし、そこから患者に適した看護を実践する能力を養う。また、実習の様々な体験を通して、看護者としての自己成長を促すための姿勢を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 身体的・心理的・社会的側面から、生活者としての患者を理解する。
- 2) アセスメントに基づいて、患者の看護上の問題を見出す。
- 3) 日々の援助を、看護の思考を用いて根拠を持って実践する。
- 4) 実施した援助結果について評価し、次の実施に活かす。
- 5) 医療チームの一員として、他職種との連携や看護者として必要な役割について考える。
- 6) 看護者として自己の在り様を振り返り、自己成長に向けた努力をする。
- 7) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間(1時間=45分)

・全体オリエンテーション: 2時間      ・臨地実習: 88時間

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の生活者の視点も含めて全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の入院前の生活や暮らし、ライフプロセス、今（現在）、退院後のことなど関心を持って話を聞き、患者に必要と思われる看護を「患者の全体像」として捉え、表現する。</li> <li>・「全体像」には「私の捉えた患者について」表や絵など工夫してわかりやすく記述する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子など話を聞く。</li> </ul>
②患者の身体状態を多角的に捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の疾患に伴う病態や治療について自己学習し、今までの経過や状態について理解する。調べてもわからない時は、教員や指導者、他職種に質問し理解に努める。</li> <li>・患者の疾患に伴う看護について調べ、どのような観察の視点や看護があるのか調べ、担当患者の実践に活かす。</li> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからないことは調べて、ポートフォリオに学習の足跡を残す。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にす。</li> <li>・観察は五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える。その場で気になった情報については、さらに詳しく反応を捉える。</li> <li>・捉えた事実は、「看護活動記録」「フリーシート」「患者検温表」の記録用紙に表現する。</li> <li>・看護活動記録では、「主観的情報」と「客観的情報」を区別して表現し、「解釈・判断」では根拠に基づいて思考する。</li> </ul>
③患者の情報を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者理解を深めるために、ゴードンの枠組みを活用して、「情報」用紙に、系統的に情報を整理する。</li> <li>・ゴードンの枠組みの整理が曖昧な場合は、アセスメントガイドを参考にする。</li> </ul>
④患者の身体的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実（情報・結果）に自分の主観は含めず、見た事、聞いたことをありのままに捉え、判断したことと区別して「看護活動記録（日々録）」に表現する。</li> <li>・患者と関わる中で、患者が日常生活においてどのようなことに苦痛や困難を感じ、どのような援助が必要であるのか、患者の現在の状態から考える。</li> <li>・患者の症状のメカニズムや原因についてわからないことを調べ、ポートフォリオに入れる。</li> <li>・患者の反応から、今起きていること（患者の健康課題）・その原因・その影響から起こりうること（リスク）を解釈・判断する。</li> <li>・解釈・判断する際には、根拠となる知識をテキスト等用いて考える。</li> <li>・検査の結果を確認し、患者の病態の捉えの参考にする。</li> <li>・患者の身体的状態について、「病態関連図」として明らかにし、発表する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
⑤患者の心理・社会的状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理・社会的側面の情報収集については、興味本位ではなく患者に意図が伝わるように話を聞き、相手に不快な思いを抱かせないように配慮する。</li> <li>・プライバシーに関わり環境への配慮が必要と考えられる場合には、病室ではない静かな場所です話をするなど、環境に配慮する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、今までの患者の生活の様子など積極的に話を聞く。</li> <li>・ご家族からの情報を得る機会がない場合は、プライマリー看護師や電子カルテなどから情報を得る。</li> </ul>
⑥患者の心理・社会的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの健康管理や健康意識、これまでの生活背景や社会背景、今後どのような生活を送っていききたいと望んでいるのか、健康状態からや加齢の影響などを考慮しながら、現在の状態や思い、今後の生活について考え表現する。</li> <li>・これまでどのような役割を担っていたのかを知り、今後の役割の変化や影響について考え表現する。また、入院生活での患者役割が果たせているか考え、表現する。</li> <li>・患者にとっての重要他者（キーパーソン）や家族背景を知り、退院に向けた患者のサポートシステム（サポート体制）の退院後の生活への影響について考え、表現する。</li> </ul>
⑦日々患者の状態の変化を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状況は時々で変化するため、患者の経過を意識し、訪室のたびに患者の全身状態の変化がないかを継続的に観察する。</li> <li>・患者に違和感や異変、状態の悪化を感じたら、速やかに報告する。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者に適した援助計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に必要なと考えた援助については「実習計画表」用紙に記載する。</li> <li>・援助の優先度を考え、援助計画を立案する。判断に困った時は、自分の考えを基に教員や指導者に相談する。</li> <li>・一般的な援助計画ではなく、患者の状況をふまえ、患者にとっての安全性・安楽性・自立性を考慮した、具体的な方法や留意点を記述した援助計画を考える。</li> <li>・事前にシミュレーションをし、物品の配置や方法などイメージしておく。</li> <li>・援助の前には、自ら指導者や教員に計画表を用いて、援助方法について説明する。</li> </ul>
②患者の状況から援助の実施を判断し、必要に応じて再計画（修正・変更）をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の当日には患者の状況を確認し、援助計画の修正や時間の変更を調整する。</li> <li>・実習グループの予定を随時確認し、それぞれが円滑に援助を実施できるように調整し合う。</li> <li>・前日や当日の朝には患者の予定を確認し、援助計画の参考にする。</li> </ul>
③安全な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>・援助の原理・原則を意識して安全な援助とするが、患者の状況に合わせて判断し、患者の危険を回避するように援助する。</li> <li>・患者への援助時は、常に危機意識を持って援助する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
④安楽な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。</li> <li>・援助の原理・原則から患者の安楽性を意識して援助をするが、患者の状況に合わせて患者の好みや希望を取り入れながら実施する。</li> <li>・事前計画や打ち合わせを活かし、患者の満足につながるような援助をめざす。</li> <li>・患者と関わる時には、患者の反応に留意しながら、患者に苦痛や不快が生じていないかを確認する。</li> </ul>
⑤援助時の患者の反応を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は患者の意思や反応を確認しながら行う。</li> <li>・援助後は患者の状態変化や効果を捉えるために、声かけや観察をする。</li> </ul>
⑥実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか</li> <li>・実施結果の原因・要因は何であったのか</li> <li>・より良い援助にするためにはどうすればよいと考えるか</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正点や改善点があれば計画を修正し、次の援助に活かすようにする。</li> <li>・患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①チームの一員として報告・連絡・相談する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護チームの一員として報告すべき内容や情報共有すべき内容は何かを考え、伝達内容を精選した上で報告する。ただし、憤れないうちは単独で報告せず、指導者や教員に事前に確認を得た上で行う。</li> <li>・患者に急変や緊急性を伴う事案が生じた場合には、速やかに報告・連絡・相談をする。</li> <li>・看護チーム内の申し送り、カンファレンス、カルテなどから、常に最新の患者や家族に関する情報を得るように努力する。</li> </ul>
②患者に関わる他職種の仕事や目的について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に関わる他職種にどのような職種がいるのかを実習を通して認識する。</li> <li>・患者に直接関わる職種に関しては、どのような支援をしているのかを知り、その役割や目的について考える。</li> </ul>
◇意志決定を支える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者や家族の願いや希望を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族との関わりを通して、病気や治療、今後の生活などに対する願いや希望を知る。</li> <li>・患者や家族の思いや希望を共有し、学生としてできることを考える。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
①自己の経験から、自己を見つめ、より良い成長のために行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の様々な経験から、自己の思考や行動の傾向を見つめ、改善すべき点や伸ばす点を明らかにする。</li> <li>・困った時は1人で抱え込まず、グループメンバーや教員、指導者に相談する。</li> <li>・教員や指導者からの指導やアドバイスに対してはその意味を考え、今後の実践に活かす。</li> <li>・実習では失敗を恐れず、患者と関わることを大切にし、患者を優先した行動を心がける。</li> <li>・ルーブリックを日々活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、課題を確認する。</li> <li>・見学や体験した技術については、「経験録」に日時を記載する。</li> </ul>

◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められているかを考えて行動する(身なり、接遇、挨拶など)。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて時間を意識した行動をする。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・社会人としてのルールを守り、その場でふさわしい判断と対応を心がけ、誠実に責任のある行動をとる。</li> <li>・判断に迷った場合や状況で困った時、わからない時に、曖昧にせず教員や指導者に必ず相談する。</li> <li>・病院リーダーは、交通手段の方法を病棟かつ病院ごとに整理・記入し、教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報や管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・記録物は他者の目に触れず、紛失がないよう適切に自己管理を行う。</li> <li>・報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の健康管理を適切に行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>・感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>・実習中はストレスがかかりやすいため、自己の情緒面など精神面のコントロールや対処にも努める。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中は、グループメンバーの行動計画を作成し、患者の状況に合わせて予定を調整する。</li> <li>・グループメンバーは、それぞれのメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>・グループメンバーは、チームとして互いを協力し合ったり、メンバーが悩んでいたたり困っていたりしていた時には相互に助け合う。</li> <li>・カンファレンスではテーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。そこから、カンファレンスでの学びは、今後の実習に活かすようにする。</li> </ul>
⑤患者や看護の理解が深まるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・実習では患者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>・患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・わからないことは助言を求め、受けた助言を活かす。また、記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>





# 基礎看護実習Ⅲ

## はじめに

基礎看護実習Ⅱでは、情報のアセスメントに基づき生活者としての患者理解を深め、根拠に基づき必要な看護を明らかにし、そこから患者に適した看護を実践することをねらいとした。

今回の基礎看護実習Ⅲでは、生活者としての患者の退院支援のために、患者の全体を早期に捉え、看護過程に基づいた、患者の課題解決に向けた看護実践能力を養う。また、学生は患者との関わりを通して、患者・家族の願いや希望を知り、それを叶えるために病棟のチームの一員として自覚した行動をする。そして、学生は自己のさらなる成長のために課題解決に向け取り組み、自己の看護観を培う機会とする。

## 1. 実習目的

様々な視点から患者の全体を捉え、看護の思考から必要な看護を見出し、個別性のある看護を実践する能力を養う。

## 2. 実習目標

- 1) 多角的な視点から患者を捉え、既習の知識を活用しながら、その人に必要な看護を明らかにする。
- 2) 患者理解に基づき、個別性のある看護計画を立案し、援助の実施、評価・修正を行う。
- 3) 日々変化する患者の状態や状況を捉え、根拠を持って看護を実施する。
- 4) 病棟のチームの一員として役割意識を持ち、チームに合わせた行動をする。
- 5) 看護者として自己を客観視し、自己の課題改善と成長に向けて行動する。
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間(1時間=45分)

・全体オリエンテーション:2時間      ・臨地実習:88時間

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者という「その人」がどのような人なのか考え、患者の思いや考えを尊重する姿勢で関わる。</li> <li>・患者の発達課題や価値観、信念、強みなど関わりから捉えた患者について表現する。</li> <li>・「全体像」には「私の捉えた患者について」表や絵など工夫してわかりやすく記述する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子などを話を聞く。</li> </ul>
②患者の身体状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の疾患に伴う病態や治療について自己学習し、今までの経過や状態について理解する。調べてもわからない時には、指導者や教員、他職種に質問し理解に努める。</li> <li>・患者の疾患に伴う看護について調べ、どのような観察の視点や看護があるのか調べ、患者の実践に活かす。</li> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからないことは調べて、ポートフォリオに学習の足跡を残す。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にします。</li> <li>・観察は五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える。客観的に判断するためにも状態の程度や変化について具体的に捉える。患者の容体で気になった場合は、流さずさらに詳しく反応を捉える。</li> <li>・捉えた事実は、観察結果として「看護活動記録」「患者検温表」の記録用紙に表現する。</li> <li>・「フリーシート」は、検査データや患者との関わりで知り得た情報や他職種からの情報、援助で受けたアドバイスなど、その日の記録として大切にしたいことを表現する。</li> </ul>
③患者の身体的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンの枠組みの整理が曖昧な場合は、アセスメントガイドを参考にする。</li> <li>・患者の入院前のこと・ライフプロセス（過去）、今（現在）、これから（退院後のこと）など関心を持って話を聞き、ゴードンの枠組みを活用して、系統的に情報を記録用紙に整理する。</li> <li>・情報から、患者に起きていること・原因・今後の影響（成り行き）について根拠に基づき、解釈・分析し、どのような看護問題があるのか明らかにする。</li> </ul>
④患者の心理・社会的状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者本人から情報が得られにくい場合には、電子カルテやプライマリー看護師、医療相談員、退院支援看護師などに主体的に関わり情報を得るようにする。</li> <li>・心理面については、本人との対話が必要となるため、受容や傾聴する姿勢を大切にしながらコミュニケーションをする。</li> <li>・プライバシーに関わり環境に配慮が必要と考えられる場合は、病室ではない静かな場所です話をするなど、環境に配慮する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、今までの患者の生活の様子などを積極的に話を聞く。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
⑤患者の心理的・社会的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンの枠組みの整理が曖昧な場合は、アセスメントガイドを参考にする。</li> <li>・患者の心理的・社会的側面について、ゴードンの枠組みを活用して、系統的に情報を記録用紙に整理する。</li> <li>・患者の健康障害やそれに伴う治療などから、どのように心理的・社会的側面に影響をもたらしているかを考え、そこからどのような看護問題があるのか明らかにする。</li> <li>・これまでの健康管理や健康意識、これまでの生活背景や社会背景、今後どのような生活を送っていきたいと望んでいるのか、病気の受け止めや理解はどうか、今後の生活についてどうしたい、どうなりたいと考えているのかなど、情報から考え表現する。</li> <li>・今までの発達課題での役割遂行状態や健康障害や入院による役割への影響、入院生活中の患者役割の状態など、情報から考え表現する。</li> <li>・患者にとっての重要他者(キーパーソン)や家族背景を知り、退院に向けた患者のサポートシステム(サポート体制)の退院後の生活への影響について考え、どのような退院支援が必要になるのか考え表現する。</li> </ul>
⑥患者に必要な看護を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者のアセスメント(情報に基づく解釈・分析)から、患者に必要な看護を明らかにする。</li> <li>・看護問題を表現する場合は、看護診断を用いる必要は無いが、原因・要因を踏まえて表現する。</li> </ul>
⑦日々患者の状態の変化を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状況は時々で変化するため、患者の経過を意識し、訪室のたびに患者の全身状態の変化がないかを継続的に観察する。</li> <li>・患者に違和感や異変、状態の悪化を感じたら、速やかに報告する。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の個別性に合った看護計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に必要なと考えた看護や援助については「看護計画」「援助計画」用紙に記載する。</li> <li>・「看護計画を」立案する際には、患者の健康段階を踏まえ、優先順位の高く実践可能なものとなるように、事前に指導者や教員に相談する。</li> <li>・「看護計画」では、実施可能で患者の個別性を考慮した、O-P-T-P-E-P について考え計画する。</li> <li>・「援助計画」では、基本的な原理・原則を踏まえながら患者の状況や状態を考慮し、患者に適した援助計画になるように、具体的な方法や留意点を考え記述する。</li> <li>・援助の前には事前にシミュレーションをし、物品の配置や方法などイメージしておく。</li> <li>・病棟の物品等でわからない時には、指導者に確認したり相談したりする。</li> <li>・援助の前には、自ら指導者や教員に計画表を用いて、援助方法について説明する。</li> </ul>
②患者の状況や状態から援助の実施を判断し、必要に応じて再計画(修正・変更)をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の当日には患者の状況や状態を確認し、必要に応じて援助計画の修正や変更をする。</li> <li>・患者の予定に合わせて時間の変更の必要性があれば調整する。</li> <li>・実習グループの予定を随時確認し、それぞれが円滑に援助を実施できるように調整し合う。</li> <li>・前日の帰りや当日の朝には患者の予定を確認し、援助計画の参考にする。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
③患者にとって安全な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>・患者の状況や状態に応じた安全を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>・援助の原理・原則を意識して安全な援助をめざすが、患者の状況や状態に合わせて危険を回避する方法で実施する。</li> <li>・患者と関わる時には、常に危機意識を持ち、患者の危険を予測しながら援助する。</li> </ul>
④患者にとって安楽な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。</li> <li>・患者の状況や状態に配慮し、患者に苦痛や不快が生じていないかを確認しながら援助を実施する。</li> <li>・事前計画や打ち合わせを活かし、患者の希望を取り入れながら患者の満足度につながるように援助する。</li> </ul>
⑤実施時の患者の反応を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は患者の意思や反応を確認したり、観察したりしながら行う。</li> <li>・援助後にも患者の状態の変化や効果を捉えるために、声かけや観察をする。</li> </ul>
⑥実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施後の教員と指導者との振り返りをする前に、患者の反応を思い返し、援助について自己の思考を整理し、自己の考えを伝えられるようにする。</li> <li>・援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか</li> <li>・実施結果の原因・要因は何であったのか</li> <li>・より良い援助にするためにはどうすればよいと考えるか</li> </ul> </li> <li>・修正点や改善点があれば計画を修正し、次の援助に活かすようにする。</li> <li>・患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者に関わる他職種の特長を理解し、そこから看護の役割について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に関わる職種を把握し、どのような専門性や役割があるのか考える。</li> <li>・医療チームの一員として、看護の役割はどのようなものであるかを考える。</li> <li>・患者の理解や援助をする上で他職種への相談や助言を得たい時には、まずは指導者に相談し、そこから他職種と調整し相談する。</li> </ul>
②看護チームの一員として行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟オリエンテーションから、病棟のスケジュール（援助や処置、カンファレンス時間、報告時間など）を把握し、それに合わせた計画をする。</li> <li>・看護チーム内の申し送り、カンファレンス、カルテなどから、常に最新の患者や家族に関する情報を得るように努力する。</li> <li>・患者に急変や緊急性を伴う事案が生じた場合には、適時性を考慮して速やかに報告・連絡・相談をする。</li> <li>・実施した援助結果について午前と午後には報告し、情報共有をする。報告内容として迷った時には、必ず教員や指導者に相談した上で、担当看護師に報告する。</li> <li>・患者の計画で予定したことは責任を持って実施する必要があるが、患者の状況や状態により急遽予定の変更や中止になった場合には、必ず担当看護師に理由を説明し報告する。</li> </ul>

◇意志決定を支える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者や家族の願いや希望を看護チームに提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族との関わりを通して、病気や治療、今後の生活などに対する願いや希望を知る。</li> <li>・患者や家族の思いや希望を共有し、学生としてできることを考える。</li> <li>・患者や家族の願いや希望などを聞いた場合には、担当看護師に報告し、病棟のチームとして情報共有する。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
①自己の経験から、自己の課題や傾向を捉え、より良い成長のために行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の様々な経験から、自己の思考や行動の傾向を見つめ、改善すべき点や伸ばす点を明らかにする。教員や指導者など他者の助言を積極的に活かしていく。</li> <li>・困った時は1人で抱え込まず、グループメンバーや教員、指導者に相談する。</li> <li>・教員や指導者からの指導やアドバイスに対してはその意味を考え、今後の実践に活かす。</li> <li>・実習では失敗を恐れず、患者と関わることを大切に、患者を優先した行動を心がける。</li> <li>・ルーブリックを日々活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、課題を確認する。</li> <li>・「看護を語る会」では患者や家族への関わりや看護実践を通して、学んだことや看護の意味や価値について、自己の考えをまとめ発表する。</li> <li>・見学や体験した技術については、「経験録」に日時を記載する。</li> </ul>
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められているかを考えて行動する(身なり、接遇、挨拶など)。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて時間を意識した行動をする。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・社会人としてのルールを守り、その場でふさわしい判断と対応を心がけ、責任のある行動をする。</li> <li>・判断に迷った場合や状況で困った時、わからない時に、曖昧にせず教員や指導者に必ず相談する。</li> <li>・病院リーダーは、交通手段の方法を病棟かつ病院ごとに整理・記入し、教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・電子カルテや記録物の取り扱いに留意し、適切な方法で管理する。</li> <li>・報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>・感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
④ 実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中は、グループメンバーの行動計画を作成し、患者の状況に合わせて予定を調整する。</li> <li>・グループメンバーは、それぞれのメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>・グループメンバー、グループのチームとして援助を協力し合ったり、メンバーが悩んでいた時には相互に助け合う。</li> <li>・カンファレンスではテーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。そこから、グループとしての考えをまとめ、今後の実習に活かせるようにする。</li> <li>・カンファレンスでは建設的なカンファレンスを行い、そこでの学びを実習に活かせるようにする。</li> </ul>
⑤ 患者や看護の理解が深まるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・実習では患者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>・患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・わからないことは助言を求め、受けた助言を活かす。また、記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>

## 6. 実習スケジュール

1月	学内	2	事前オリエンテーション
1	臨地	9	病棟オリエンテーション、個人面接、受け持ち患者の選定、コミュニケーション
2	臨地	9	患者の状態観察、日常生活の捉え、ビジョン・ゴールの相談
3	臨地	9	患者に必要な看護について(発表) 多角的に患者を捉えなおす
4	臨地	9	患者の状態観察、日常生活援助の <del>実施</del> 、環境整備(原則毎日実施)
5	臨地	9	患者の状態観察、日常生活援助の <del>実施</del>
6	臨地	9	患者の看護問題(看護問題リスト含む)と看護計画(発表)
7	臨地	9	より良い看護実践と評価
8	臨地	9	より良い看護実践と評価
9	臨地	9	より良い看護実践と評価
10	臨地	7	看護を語る会、個人面接

\*7時間 8:30~15:30

\*9時間:8:30~16:15

## 7. カンファレンスについて

- ・司会は原則学生が行う。司会は日替わりで交代する。
- ・グループで予定を調整し、カンファレンス時間を決める。昼食後に指導者と教員に時間・場所・テーマを伝える。
- ・カンファレンスがない日であっても、グループで希望があれば実施してよい。その時は必ず指導者と教員に伝える。
- ・カンファレンスは、学生同士だけでなく、教員・指導者も交えて学びが深まるように進める。
- ・カンファレンス中、学生はメモをせず、他者の意見を聴くこと、自身の考えを伝え、相互に学び合う。
- ・カンファレンス終了後には、学びや自身の考えをまとめる。

## 8. 提出物一覧

- 1) 記録一式
- 2) ポートフォリオ
- 3) メモ帳
- 4) 実習日誌
- 5) 青ファイル: 経験録
- 6) 赤ファイル: ビジョン・ゴール、総括、実習目標シート、実習状況の記録

## 9. 事前準備について

- 1) 看護技術練習 ・空き時間を活用して、計画的に練習をする。
- 2) 既習学習の復習 ・既習の学習内容を、計画的に復習する。  
・学習したことは、ポートフォリオ(学習ファイル)に綴じ、実習先で活用できるように工夫する。
- 3) 病院の実習オリエンテーションを事前に教員から受ける。
- 4) 実習担当教員から事前にオリエンテーションを受ける。 \*再度実習要項を熟読しておく。
- 5) 体調管理に留意する。

# 成人看護実習

## はじめに

成人看護実習は、看護過程実習Ⅰ、看護過程実習Ⅱと積み重ねられてきた基礎的な能力を深め、発展させて看護援助することを目的とする。成人期は、青年期・壮年期・向老期と、人の一生の中の多くの部分を占めており、また最も役割の変化が大きい時期でもある。患者の全体像や信念・健康観を重要視しながら、身体面・心理面・社会面を統合し、成人期にある人として社会復帰を目標に、自律かつ自立できるよう援助する能力を養う。また身体機能障害のアセスメント力を高め、患者の状況に応じた看護、各発達段階を踏まえた看護、患者の家族も含めた看護の実践を行う。

## 1. 実習目的

社会的役割を担い、成人期にある人を統合された全体として認識し、成長・発達・適応を促し、最適健康の実現に向けた看護の実践を行う。

## 2. 実習目標

- 1) 多角的な視点で患者を捉え、患者に起きている健康問題を解決するために必要な看護を実践・評価する。
- 2) 日々変化する患者の状態や状況を捉え、根拠を持って看護を実践する。
- 3) 患者を、個別的・社会的存在として認識し、その人の信念・価値観を尊重した関わりをする。
- 4) 看護実践を通して、自己の成人看護観を深める。
- 5) 看護者として自己の在り様を振り返り、自己成長していけるよう努力する。
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 時間数と単位数

90 時間 (2 単位) … オリエンテーション 1.5 時間  
7.5 時間 × 11 日  
6 時間 × 1 日

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榎原総合病院



## 5. 実習目標と学習内容、学習方法

学習活動	評価規準	学習内容と学習方法
◇ニーズを捉える力		
1. 患者の全体像を捉える	①患者を多角的に捉えている ②知識を活用した情報収集をしている ③日々変化する患者の情報を捉えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>各病棟の特徴と成人期の発達段階や課題について事前学習を行う。</li> <li>これまでの病棟実習での経験や既習の知識を元に、様々な情報から患者の身体的側面、心理的側面、社会的側面をとらえる。</li> <li>現在の患者の身体状態を理解するために、学習した一般的な病態生理や治療に関する知識を活用する。</li> <li>現在の患者の全体を捉えるために、必要な過去の情報も得る。</li> <li>得た情報は毎日記録物やPFに表し、情報の整理を行う。そこから患者にとって必要な情報を見極め、さらに情報を追加していく。</li> <li>目的を持った情報収集を行い、情報収集の手続きも明確にする。</li> <li>コミュニケーションスキルを活用しながら、情報収集を行う。</li> <li>必要に応じて多職種からの情報を得る。</li> <li>その時々々の患者の状態や変化を適切な方法を用いて捉える。</li> <li>患者の疾病からの成り行きを考えた観察を行う。</li> <li>毎日の記録物やPFを使いながら、捉えた患者の全体像を「受け持ち患者を理解する」の用紙にまとめ、実習3日目に発表する。</li> </ul>
2. 必要な看護援助を考えている	①患者に必要な看護を、根拠を明確にして考えている ②成人看護観について表現している	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な看護を考えるために、既習の知識を使って患者のアセスメントを行う。</li> <li>主症状や原疾患から主要カテゴリーを考え、ロイ看護論のカテゴリーを用いてアセスメントを行う。</li> <li>情報をありのままの現象として捉え、既習の知識と照らし合わせ、正常と異常を捉える。</li> <li>身体面だけでなく、入院前の生活や役割の変化、患者の価値観なども考慮する。</li> <li>知識を活用しながら妥当性ある成り行きを予測し、潜在的な問題についても紙面にまとめて表現する。</li> <li>患者の問題点にばかりに注目するのではなく、正常な状態や強みも捉える。患者の強みを活かせるように考え、紙面にまとめて表現する。</li> <li>看護介入がなされない場合はどのような成り行きとなるかも考え、紙面にまとめて表現する。</li> <li>受け持ち患者の「状態や状況から成人期の特徴を表現し、その看護について自分の考えを最終のレポートに記述する。</li> <li>受け持ち患者が老年期の場合は、患者の成人性に注目し、その看護について最終レポートに表現する。</li> </ul>
3. 必要な看護援助のため	①患者が到達する状態を明確にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に最新の患者の状態を把握し、看護援助の計画に活かす。</li> <li>看護計画の立案、長期目標・短期目標については、既習の知識を活用する。</li> </ul>

<p>の準備をする</p>	<p>②目標達成を意識し、患者の状況に合わせた看護計画を立案している</p> <p>③日々の看護援助の目的を明確にしている</p> <p>④患者に合わせた日々の看護援助を考えている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態をふまえ、問題だけでなく患者の強みにも着目し、長期目標・短期目標を考える。</li> <li>・長期目標と短期目標の関係性を意識しながら設定する。</li> <li>・優先順位をふまえたその人に必要な看護を考える。</li> <li>・受け持ち患者に必要な看護とその根拠、長期目標、短期目標については、『その人に必要な看護とその理由』用紙にまとめる。</li> <li>・受け持ち患者において、必要と考えた看護のうち優先順位が高い看護計画を立案する。とりに上げる看護援助については、実習指導者や教員と相談し決定する。</li> <li>・『看護計画用紙』に立案する看護援助が決定したら、速やかに用紙に立案し、実施・評価していけるようにする。</li> <li>・看護計画は『看護計画用紙』に記載し、実施結果・評価・修正内容を示す。修正・変更した日付を記入し、変化がわかるようにする。</li> <li>・期待される結果を明確にし、患者の状態や看護チームで継続的に実施することをふまえ、具体的に計画・立案する。</li> <li>・立案した看護計画については、毎日の看護実践で実施していく。</li> <li>・日々の看護援助は、目的を明確化し具体的に計画する。</li> <li>・患者の理解に基づき、安全・安楽・自立・自律を考慮し、患者に合った看護援助を考える。</li> <li>・日々の看護援助については、必要時実習指導者や教員に相談しアドバイスを求める。</li> <li>・日々の看護援助の計画は実習指導者や教員に提示できるように工夫する。</li> </ul>
---------------	--	---

<p>ケアする力</p>		
<p>4. 患者に必要な看護援助を実施する</p>	<p>①患者理解に基づいた安全、安楽、自立、自律を含むその人に合わせた方法で看護援助を実施している</p> <p>②計画した看護援助を患者の反応を観察しながら実践している</p> <p>③看護実践の結果を振り返り、援助の影</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助を実施する前には、常に患者の最新の状態や状況を把握し、援助が可能であるか判断する。</li> <li>・援助実施前には、事前に援助計画（目的・必要物品・方法・留意点）について教員や指導者に説明し助言を得る。</li> <li>・実施前に、計画の予定時間や状況が合わないと判断した場合は、指導者や教員に相談し、計画の変更や修正をする。</li> <li>・援助の前には、必ず患者に目的や方法を伝え、同意を得る。</li> <li>・患者に必要な援助を安全・安楽・自立・自律を意識し、患者に合わせた方法で実施する。</li> <li>・事前の計画や打ち合わせをした方法を基に実施するが、その場の患者の状況に合わせて、より良い方法に変更したり修正したりする。</li> <li>・援助中・援助後は、患者の状態が変化しやすいため、適宜必要な声かけや観察、判断をする。</li> <li>・援助後は、必ず患者の反応からその援助の影響や効果についてリフレクティブサイクルなどを用いて振り返り、実習ノートに残す。</li> <li>・援助後は、自ら指導者や教員に声をかけ共に振り返りをする。</li> </ul>

	響や効果について評価し、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りによる学びや示唆は、その後の患者の看護実践に活かすようにする。</li> <li>・看護計画用紙に立案した援助については、看護計画用紙を用いて、患者の援助結果を評価し、結果が不十分な場合は計画を修正し、次の計画や援に活かす。</li> <li>・その日の体験の中で、新たな知見や発見、気づき、印象に残ったことなどがあれば、必ずその日のうちに自己の経験・看護の学びとして、実習ノートに残す。</li> </ul>
◇意思決定を支える力		
5. 患者を常に尊重し、患者との関係性を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>①常に患者を尊重した行動をとっている</li> <li>②患者の状況や状態に合わせて関わっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者を一人の人間として尊重した関わりをする。</li> <li>・常に患者に関心を向け続け、患者の思いを理解しようと傾聴するように努める。</li> <li>・患者との関わり際には、コミュニケーション技術を活用する。</li> <li>・患者の想いや考えと自らが理解している患者の心理とに相違がないか確かめる努力をし、患者の理解を深める。</li> <li>・患者のわがみや価値観を理解するように努め、その理解を関わりに反映する。</li> <li>・患者―看護師関係を形成できるよう、意識して患者と関わる。</li> <li>・実習ノートを活用し、日々の患者との関わりを振り返り次に活かす。</li> </ul>
◇振り返る力		
6. 看護者としての自己のあり様を振り返り、自己の姿勢を修正する努力をする	①看護者としてのあり様を振り返り、自己の傾向や課題を明確にし、より良い状態を目指して行動している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前には、ゴールシートを活用し、本実習での自己の目標を明確にする。</li> <li>・日々ルーブリックを確認することで、実習の達成度や到達度を確認し、目標達成のために必要な具体的な取り組みを見いだす。</li> <li>・日々の看護体験を実習ノートに記録し、体験の意義や価値を考える。</li> <li>・実習を通して、他者の意見や助言に耳を傾け、自己成長のために自己を知ることや見つめることも大切にする。</li> <li>・実習終了後、自己の目標の達成度を評価し、看護者としての成長や課題を明確にする。</li> </ul>
◇協働する力 ② ③ ◇看護師としての基本的態度・姿勢 ① ④		
7. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する	①看護学生としての自覚を持ち責任ある行動をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、礼儀、清潔さ、謙虚さ、挨拶、責任感など、他者から看護学生として求められる社会的なルールやマナーを意識した行動をとる。</li> <li>・病院や病棟のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。不足があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。</li> <li>・記録物の提出期限は守る。守れない場合は自己の行動を振り返り、行動修正する。</li> <li>・実習に必要な準備を整えて実習に臨む。</li> <li>・必要な学習を判断し、主体的に学習する。</li> <li>・実習中は自ら疑問を持ち、解決のための自己学習を深めるとともに</li> </ul>

		<p>に、学習不足と感じたことに対しては自主的に追加学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの学びを得るために、困り事や疑問を他者に相談し、自らアドバイスを求める努力をする。</li> </ul>
	②よりよい看護を行うため、看護チームと情報を共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の健康状態をよりよくしていくために必要な情報を主体的に収集し、何を報告・連絡・相談するのか判断する。</li> <li>・内容に応じて、適時性を考慮し、適切な人に、適切な専門用語を用いて報告・連絡・相談をする。</li> <li>・看護チーム内の申し送り、カンファレンス、カルテなどから常に最新の患者や家族に関する情報を得るように努力する。</li> <li>・知り得た情報については、看護者として適切に管理する。個人情報等の守秘義務を遵守する。</li> <li>・同職種連携だけでなく、多職種との連携を意識し、情報共有や協働のための行動を考え、表現・実施する。</li> <li>・共有した情報を日々の看護実践に活かす。</li> </ul>
	③よりよい看護を行うため、他者と協力している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定している援助については担当看護師やメンバーと事前に調整する。</li> <li>・主体的に問題解決行動がとれるよう、様々な疑問について追求し、理解が深められるようにする。</li> <li>・自分から積極的にアドバイスを求める。</li> <li>・アドバイス内容の意味や意図を理解し、自分の考えを整理する。</li> <li>・グループメンバー内での自分の役割を意識した行動をとる。</li> <li>・グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、協力・調整をする。</li> <li>・看護の視点を広げ、学びを深めるために、積極的にグループメンバーとディスカッションをする。</li> </ul>
	④よりよい看護を行うために、心身ともに安定した状態で実習している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活習慣を整え、体調管理を心がける。</li> <li>・自己の心理面についても安定を心がけ、看護学生としてのあり様を意識し、調整しながら実習を継続する。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、予防接種を含めた適切な行動をとる。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

### 1) 実習期間

12日間（実習カレンダー参照）

### 2) 実習予定

日	時間数	主な実習内容	カンファレンス
1	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院挨拶、病棟挨拶</li> <li>・個人面接：GOALシートをもとに実習指導者と担当教員と本実習における個人目標を確認する。</li> <li>・病棟オリエンテーション、物品確認</li> <li>・受け持ち患者決定、ご挨拶</li> <li>・患者の理解を深めていく</li> </ul>	病態説明
2	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護援助の見学、看護実践・振り返り</li> <li>・患者の全体像を捉える活動</li> </ul>	
3	7.5	<p>学びの整理日</p> <p>AM：「受け持ち患者を理解する」発表会</p> <p>PM：患者の理解を深める活動</p>	AM (教員司会)
4	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護援助の見学、看護実践・振り返り</li> <li>・患者理解、必要な看護を明確にする活動</li> </ul>	学生テーマ
5	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護援助の見学、看護実践</li> <li>・患者理解、必要な看護を明確にする活動</li> </ul>	
6	7.5	<p>学びの整理日</p> <p>AM：受け持ち患者に必要な看護について発表</p> <p>PM：ルーブリック表を活用した中間評価面談、指導</p> <p>患者の理解を深める、必要な看護を明確にする活動</p>	AM (教員司会)
7	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に合わせた看護実践・振り返り</li> <li>・最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動</li> </ul>	学生テーマ
8	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に合わせた看護実践・振り返り</li> <li>・最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動</li> </ul>	
9	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に合わせた看護実践・振り返り</li> <li>・最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動</li> </ul>	学生テーマ
10	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に合わせた看護実践・振り返り</li> <li>・最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動</li> </ul>	学生テーマ
11	7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に合わせた看護実践・振り返り</li> <li>・最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動</li> </ul>	
12	6 15:20 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院挨拶、病棟挨拶、患者様へ挨拶</li> <li>・個人面接：実習指導者と担当教員と本実習を振り返り、個人目標を評価する。今後の課題を明確化する。</li> <li>・学びの会：経験したことを具体的に示しながら、学びを共有し、明確化する。</li> <li>・物品確認、清掃</li> </ul>	学びの会 (学生司会)

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術経験録を参照し、これまでの自己の経験や到達度を把握する。本実習を行う病棟の特徴や受け持ち患者の状況をふまえ、どのような看護技術が習得できそうか考え実習指導者や教員と相談する。目的意識をもって主体的に実施していくよう努める。

## 8. 提出物一覧

- 1) 実習ノート
- 2) 実習ファイル(①～⑥をまとめ、インデックスを付けファイリングする)
  - ① 評価表
  - ② ルーブリック
  - ③ レポート「成人看護観を踏まえたその人に合わせた看護を实践するうえで大切なこと」(A4)
  - ④ 「受け持ち患者を理解する」(A3)
  - ⑤ 分析用紙主要カテゴリー、心理社会的様式(A4)
  - ⑥ 「患者に必要な看護とその理由」(A3)
  - ⑦ 看護計画用紙
- 3) ポートフォリオ
- 4) 看護技術経験録
- 5) 個人の目標

## 9. 記録に関する約束事

### 1) 実習ノート

- ・1日の行動目標、行動計画、行動の目的を明確化する。
- ・毎日の行動、看護実践の振り返りをし、考えをまとめる。
- ・日々の受け持ち患者の状態をアセスメントし、最新の情報に合わせた看護を見出すために活用する。
- ・日々の看護援助の計画を考える。(ルーズリーフなどを使用してもよい。その際はPFへ挟む)
- ・ノートにはページ数を記入する。

※毎日活用し、病棟へ持参する。

※実習時間内は、病棟で指定された場所に置き 指導時に提示する。

指導してほしい部分をすぐに提示できるよう工夫する。

※必要時、プロセスレコードとしても使用する

左ページ	余白を作る	右ページ	余白を作る
※自由に使って考えをまとめる、行動計画、アセスメント、日々の振り返りは必ず記録する。	※教員・指導者からのコメントを記録します。 ※コメントに対しての追記、観たことなどを記載する。		

2) ポートフォリオ

- ・事前学習、追加学習をファイリングする。
- ・実習ノートで思考した内容と関連する学習内容は、付箋などで関連性を他者に提示できるようにしておく。
- ・ファイリングした資料にページ数を記入する。(右下隅の余白に記入する)

※実習時間内は、実習ノートとともに、病棟指定の場所に置いておく。

※指導をうける際には実習ノートとともに提示する。

3) ループリック

- ・毎日、「基準」の空欄部分に、自己の達成度を振り返った日付を記載する。
- ・援助を振り返る際、実習指導者または担当教員と一部ループリックを使用して自己の到達度を評価し、強み、課題を明確化し、翌日からの実習計画に活かす。
- ・6日目の中間評価では全体を評価し、自己の課題を明確にし、後半の実習に活かす。
- ・看護実践力とのつながりを意識して評価を行う。

4) 「受け持ち患者を理解する」(A3)

- ・患者の全体像を理解するために使用する。
- ・実習3日目午前に行うカンファレンスで、この用紙を提示しながら受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。

5) 分析用紙 (A4)

- ・主要カテゴリーを指導者・教員に確認の上決定し、心理社会的側面を分析し、看護上の問題を抽出する。
- ・分析したものはできるだけ早く指導者・教員に提示する。(途中でも提示していく)
- ・アセスメントしたものは、主体的に提出し必要な指導を受けられるよう行動する。
- ・患者の状態について修正追加をし続け、患者理解を深めていく。

6) 「患者に必要な看護とその理由」(A3)

- ・アセスメントの結果抽出された問題を全て記載し、整理統合・順位付けする。
- ・患者の看護上の問題と原因、それに対する援助を記載する。
- ・実習6日目午前に行うカンファレンスで使用する。提示しながら患者の問題とその看護を発表する。

7) 看護計画用紙 (A3)

- ・患者に必要な看護とその理由から、優先度の高い看護計画を立案し、用紙に記入する。
- ・実習6日目午前に行うカンファレンスで使用する。提示しながら患者の問題とその看護を発表する。立案以降は実施の結果・評価を行い、問題解決に向けてより良い看護としていく。

8) レポート「成人看護観を踏まえたその人に合わせた看護を実践するうえで大切なこと」(A4)

- ・実習を終え、実習目的に照らし合わせ学んだことをレポートにまとめる。
- ・実習体験に基づいてレポートする。
- ・実習最終日の翌日に、その他の実習記録物と合わせて実習ファイルに挟み提出する。

## 老年看護実習Ⅱ

### はじめに

老年期に生きる人は、ライフサイクルの最終段階にあり、人生を統合させる時期である。老年期は老化に伴って諸機能が低下し心身ともに衰えていくという特徴があり、長年の生活体験や人生経験により、身体的・心理的・社会的に個人差が大きい。

老年看護学においては、高齢者の特徴、老化や加齢現象により起こる高齢者特有の健康問題をふまえ老化現象を科学的に捉え、円熟された生活者としての個々の生活過程を理解・尊重して、その人らしい生活ができるように支援することが求められている。この実習では老年期の特徴をふまえて高齢者が自立した生活ができるようになるための看護を習得する。

### 1. 実習目的

健康障害が急性の段階で医療を受ける高齢者や家族への看護の実際を学ぶ。高齢者が健康上の問題を解決・予防しながら、一人の生活者として自立した生活ができるよう看護する基礎的能力を養う。また、高齢者の長年培ってきた生活を尊重する看護の精神を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 高齢者のそれぞれの健康段階と起こりやすい健康問題について理解する。
- 2) 老年期の生活が維持向上できるような看護の方法を、日常生活援助を通して理解する。
- 3) 高齢者の心情、状況、気持ちを思いやり、尊重した態度で関わる。
- 4) 高齢者の看護実践の場面を振り返り、自己の老年看護観を表現する。
- 5) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

90 時間          2 単位

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院      焼津市立総合病院      榛原総合病院

### 5. 対象学生

3 年次



## 6. 実習内容・実習方法

1. ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容・方法
①対象の健康障害の種類・経過、症状、治療・処置について記述、発言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の症状の現れ方、薬剤、疾患の特徴など事前学習する。</li> <li>・健康障害の種類とその経過、症状を関連させて考え、全体像に記載する。</li> <li>・現在の健康段階を、高齢者の特徴を踏まえて捉える。</li> <li>・優先的に得たい情報を考える。</li> <li>・医師からの病態説明により対象の病状、経過、治療・処置などについて明確にする。わからないことはその場で質問する。</li> </ul>
②加齢による変化に伴う健康問題について記述、発言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に起こりやすい健康障害を視点に入れ情報収集をする。</li> <li>・老化に伴う生理的な機能低下や入院が及ぼす影響をふまえて日常生活行動の様子を観察し、家庭での日常生活の様子を情報収集する。</li> <li>・機能低下の側面だけでなく、現在、行えていること、効果的に活用できそうな機能や能力に注目する。</li> </ul>
③入院に伴う心理社会面の影響について記述、発言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期にある人の特徴として身体面が心理社会面に及ぼす影響を考える。</li> <li>・対象の今までの生活の様子や考え方、価値観、生きてきた過程が入院によってどのように影響するのかを学ぶ。</li> <li>・入院によって家族と離れ、環境が変化することによって対象の心理面・社会面にどのように影響するのかを学ぶ。</li> <li>・入院による環境の変化から新しい人間関係の適応状態を学ぶ。</li> <li>・入院・健康障害・治療に対する対象、家族の思いを考えて、対象の家族を含めた全体像を捉える。可能な場合家族とコミュニケーションをとり、家族の思いを聴く。</li> <li>・家族情報や重要他者、サポートシステムの状況等について情報収集する。</li> </ul>
④対象者が今までに生きてきた過程を知り、持っている強みについて記述、発言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者のライフプロセスを情報として得ながら、対象者が何を大事にして生きてきたのか思いを聴く。</li> <li>・対象者のライフプロセスから対象者の発達課題の達成状況を考えて表現する。(老年期だけでなく成人期にも目を向け、どのように課題を達成してきたか考え、併せて表現する)</li> <li>・対象者の持っている強みを表現する。</li> </ul>
⑤高齢者の特性をふまえて、収集した情報を分析・判断する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の現れている健康状態を分析するだけでなく、老化に伴う機能低下や治療・処置に伴う二次的障害のリスクを捉え、予防的視点をもって現在の状態を維持向上できる看護の方向を考える。</li> <li>・対象の状況や特性から因子を考える際は、カテゴリー枠を越えた複数の因子を捉える。</li> </ul>
⑥情報・分析・判断を総合的に関連させて問題点や援助の必要性を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徴候や症状、危険因子が何によって起きているのかを分析・判断して問題点や援助の必要性、看護の焦点をあげる。</li> </ul>
⑦対象の病態・ニーズに適した優先順位を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全、安楽、自立、予防、ニーズの観点から優先すべき看護上の問題点を決定する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体像や関連図からその整理・統合の方向をつかむ。</li> </ul>
⑧対象のADLの拡大、二次的障害の予防や家庭生活への復帰をめざした目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の目標を意識し、その対象が実現可能で具体的である長期目標・短期目標を設定する。</li> <li>・対象の退院後の生活、家族の思い、考えを考慮した目標を設定する。</li> </ul>
⑨達成可能であり個別性のある期待される結果を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の問題を解決または現状を維持・改善した状態を、今後の予測を持って結果にする。</li> <li>・設定する際に、健康状態、総合的予後、適応レベル、人的・物的資源を考慮し、目指す結果を対象と共有する。</li> </ul>
⑩対象の強みを活かし、自立を促し、残存機能が維持・向上できる計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待される結果を達成するにはどのような強みを活かしたO-P、T-P、E-Pが必要か考える。</li> <li>・対象の参加と自立が促せるような具体策を取り入れて計画立案する。</li> <li>・家族の支援や参加、社会資源を活用する具体策を取り入れて立案する。</li> <li>・対象や家族のねがいをふまえた看護計画となっている。</li> </ul>
2. ケアする力	
学習活動	学習内容・方法
①残存機能をふまえ強みを活かし自立に向けた日常生活援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の残存機能や日常生活行動、これまでの生活習慣をふまえ、見出した看護上の問題と関連させて援助を実施する。</li> <li>・退院に向けて必要な日常生活について考え、援助を実施していく。</li> </ul>
②対象に合わせた安全な看護援助を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の個性、その日の対象の状態・状況に合わせて実施する。</li> <li>・援助実施の際は目的、根拠、留意点を明確にし、看護行為の流れや起こりうる成果をイメージして実施する。</li> <li>・原理原則を踏まえて安全に看護援助を実施する。</li> </ul>
③対象の反応を確かめながら安楽に配慮した看護援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中の対象の様子を確かめながら援助を実施する。</li> <li>・言語的コミュニケーションがとりにくい対象でも、表情やしぐさから意思や反応を確かめながら援助を実施する。</li> </ul>
④対象の特徴や状態に合わせたコミュニケーションを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化や健康障害（視力・聴力低下、認知症等）をふまえて、老眼鏡や補聴器、文字盤等の使用など、対象者に適した方法を考慮したコミュニケーションをとる。</li> <li>・対象のおかれている状況、健康障害による身体的影響を常に考え、一方的にならないコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションの意欲の変化・場の様子を考え、非言語的コミュニケーション（身振り、手振り、表情、視線の合わせ方、タッチング等）を取り入れて関わる。</li> <li>・場面を振り返りコミュニケーション方法を検討していく。</li> </ul>
⑤対象の人格を尊重した態度・言動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象が安心して、自己の思いを表出できる雰囲気をつくり、関わっていく。</li> <li>・今までの人生背景から培われた価値観を尊重した関わりを考えていく。</li> <li>・自立することだけにとらわれず、高齢者の依存心を理解した関わりを考えていく。</li> <li>・対象との関わりで困ったときはカンファレンスや指導者にアドバイスを求めながら関わる。</li> </ul>

⑥対象の自尊心や依存心を考慮した関わりをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象が安心して、自己の思いを表出できる雰囲気をつくり、関わっていく。</li> <li>・今までの人生背景から培われてきた価値観を尊重した関わりを考えていく。</li> <li>・自立することだけにとらわれず、高齢者の依存心を理解した関わりを考えていく。</li> <li>・対象との関わりで困ったときはカンファレンスや指導者にアドバイスを求めながら関わる。</li> </ul>
-------------------------	--

### 3. 協働する力

学習活動	学習内容・方法
①主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者や教員に自ら積極的にアドバイスをもらうよう行動する。アドバイスをそのまま行うだけでなく、本質を理解してその後に活かすよう努力する。</li> <li>・困ったことや悩んだことをカンファレンスで話し合い、建設的に解決する。</li> <li>・実習目標や自己の課題を意識してカンファレンスに参加する。</li> <li>・学生間で互いの体験やアドバイスを共有し、さらに上の学びとなるよう努力する。</li> </ul>
②より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いにメンバー、リーダーの役割を考え、学生間の連絡・調整をする。</li> <li>・適切な時間や内容を考慮して、指導者・スタッフへの報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・対象を囲む多職種は何かを把握し、自ら関わることで専門的な示唆を得るとともに、看護学生だからこそこできることを考え実施する。</li> <li>・対象に関与する組織横断的なチーム活動に参加し、情報共有に努める。</li> </ul>

### 4. 意思決定を支える力

学習活動	学習内容・方法
①対象の意思や希望を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の前には説明し、対象が受ける援助について理解してもらう。</li> <li>・対象自らが、援助に対する意思を伝えられるよう支援する。</li> <li>・検査、治療、今後の方針など、対象がその人らしい選択ができるよう支援する。</li> </ul>

### 5. 振り返る力

学習活動	学習内容・方法
①対象の反応から看護実践の結果をとらえ、評価、修正する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S情報とO情報の両面から結果をとらえ、事実を明確に記述する。</li> <li>・家族の反応にも注目して結果をとらえる。</li> <li>・期待される結果の指標を用いて、成果の達成度を判断する。</li> <li>・対象の状況によっては、目標の見直しや期待される結果の修正を行う。</li> <li>・計画の追加や修正には、対象の持つ強みや利用可能な資源を活用して展開する。</li> </ul>
②実践からの具体的場面を通して自己の老年看護観を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象との看護実践を振り返り、老年者をどのようにとらえ、どのような看護が大切であるかを述べる。老年看護実習Ⅰの老年観を土台にして発展させる。</li> <li>・老年看護観について学生カンファレンスで話し合う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を通じた具体的な場面を通して老年看護観につなげて考えられる。</li> <li>・日々の援助を振り返り自分の言葉で表現する。</li> </ul>
③常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中、常に自己の行動を振り返り、客観的に自分をみる努力をする。</li> <li>・振り返った内容から次にどうするかを考え、主体的に行動へ移す。</li> <li>・自己の課題を意識して目標に向かった行動修正をしていく。</li> <li>・ルーブリックの自己評価を行い、日々の実習で取り組むべき課題を明らかにする。</li> </ul>

6. 看護者としての基本的態度・姿勢

学習活動	学習内容・方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護を提供する者としてふさわしい服装や身だしなみに心がける。</li> <li>・対象者・家族、施設の職員に対する挨拶や礼儀を忘れないようにする。</li> <li>・対人関係に及ぼす影響の観点で表情、言葉遣い、立ち振る舞いを考える。</li> <li>・実習場の決まりや時間を守ることを理解して行動する。</li> </ul>
②あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報やプライバシーを遵守する倫理観を持ち、行動する。</li> <li>・「高齢者のための通連原則」に基づき、自己の看護を見直す。</li> <li>・老化や障害が原因で取り除けないこと、本人の意思を明確につかむことが難しいといった状況から、日々の援助のなかでジレンマがおきやすいことを知る。自分の中に生じたジレンマは他者に相談して気持ちを整理する。</li> <li>・高齢者が自ら意思を表明できるように、あるいは彼らのニーズや希望を代弁することを通して、高齢者の権利が守られるよう支援する。</li> </ul>
③より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なスタンダードプリコーションを行い、自己の感染予防を行う。</li> <li>・高齢者の特徴を踏まえ、自己も環境の一部である認識で関わる。</li> <li>・心身共に安定した状態で実習できるように生活を整え、体調不良のときは早めに教員、指導者に報告・連絡・相談をする。</li> </ul>

## 7. 実習の動き

1) 実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画

日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時間	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.0	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
実習場所	院内実習(リハビリテーション)	病棟実習①	②	③	④ 午後 患者紹介	⑤	⑥	⑦ 看護計画発表	⑧	⑨	⑩	⑪

<実習時間>

8:30～17:00 実習

(15:00～15:30 カンファレンス その日のスケジュールに合わせて時間変更可能)

\*実習7日目のみ 8:30～15:30

3) カンファレンス

①時間厳守で開始する。

②テーマに関しては、実習行動目標や実際の関わりで困ったことなど話し合い、学びを共有し深める。  
(昼休みに打ち合わせしておく)

③テーマが決定したら、事前に指導者と教員に伝えておく。

8. 看護技術の到達と実施

実習病棟、担当患者で学べる看護技術に積極的に取り組む。

9. 提出物一覧

1) 実習記録は次の順序でファイルし、インデックスをつけて提出する。

① 実習評価表

② ルーブリック

③ レポート「高齢者への看護実践を通して捉えた自己の老年看護観」

④ 全体像

⑤ 日々録

⑥ 看護上の問題一覧

⑦ 看護計画

2) 実習ポートフォリオ

3) 赤・青ファイル

※記録の最終提出は実習最終日の翌日 8:40 とする。(時間厳守)

10. 老年看護実習Ⅱ予定表

日数	実習内容	注意事項	カンファレンス	
1	病棟オリエンテーション 物品確認 個人面接 受け持ち患者への挨拶 看護援助見学や情報収集	*15 時以降はカンファレンス、ルーブリック評価、朝日の計画立案、記録の整理を行う。		
2	看護援助見学や看護実践		教員単位	
3	看護実践			
4	午前：看護実践 午後：担当患者のプレゼンテーション 学びの整理		情報の分析はすべてのカテゴリーに関して行う。 重点的に分析する部分は教員と相談して決める。 カンファレンスは自分たちが学んでいる課題、困っている問題をテーマに話し合う。時間・場所は責任を持って調整し、進行は学生が行う。 7日目は、これまでの看護実践も踏まえながら、看護計画をより個別性にあつたもの、実践可能なものにしていく。	教員単位
5	看護実践		教員単位	
6	看護実践			
7	午前：看護計画の発表 午後：アドバイスをもちに看護計画を練る (15:30 実習終了)		教員単位	
8	看護実践 評価・修正・修正後実施	計画を立てることで満足してしまわず、評価・修正することで更に個別性のある計画にする。		
9	看護実践 評価・修正・修正後実施		教員単位	
10	看護実践 評価・修正・修正後実施		教員単位	
11	看護実践 評価・修正・修正後実施			
12	個人面接 学びの会	事前に病棟師長の都合を伺い、時間を調整する。	教員単位	
指定日	実習記録：8時40分提出（時間厳守）			

\*カンファレンスは、教員単位と記載してある部分以外は、必要に応じて病棟で実施してもよい。

# 母性看護実習

## はじめに

母性看護学は、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の概念を基に「女性の生涯発達と健康」について学んでいく学問である。学内では、女性のライフサイクル全般を通し、身体・心理・社会的側面から女性の健康を捉えている。臨地実習では、地域で暮らす人々が医療を受ける場を訪れ、ライフサイクル各期の女性が抱える健康課題について知り、そこで行われている医療や看護の実際について体験を通し、学びを深めていく。限られた時間での実習となるため、妊娠・分娩・産褥期の母子と家族に対する援助、その中でも褥婦と新生児に対する援助を中心とした学びを深めていく。

学生は、マタニティサイクルにある人や新生児などと触れ合う体験が少なく、実習で初めて体験することが多い。母性看護実習では、その新鮮な体験を大切に、看護として意味付け、学びとしていく。

## 1. 実習目的

女性のライフサイクル各期において看護を必要とする対象について理解を深める。特にマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥期）にある母子およびその家族に対して必要とされる看護を実践する能力を養う。

## 2. 実習目標

- 1) 妊娠期における正常経過を理解し、妊婦健康診査の意義について考える。
- 2) 分娩期における看護の必要性を理解する。
- 3) 産褥期における正常経過をふまえ、褥婦に対する看護の必要性について理解する。
- 4) 新生児の生理的経過を理解し、新生児の看護の原則に基づいた援助の必要性について理解する。
- 5) 母性看護における保健指導の重要性を認識し、広く継続看護の必要性について考える。
- 6) 地域における医療、母子保健の実際を知り、看護の役割について考える。
- 7) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 時間数と単位数

90 時間 = 2 単位

母性看護実習オリエンテーション（1.5 時間）、観察・技術習得に向けた学習（1.5 時間）  
病棟・外来実習（60 時間）、助産院実習（6 時間）、診療所実習（7.5 時間）、  
中間：学びの整理日（6 時間）、最終日：ラベルワーク（7.5 時間）

## 4. 実習場所

- ・ 焼津市立総合病院（3A 病棟）、藤枝市立総合病院（4A 病棟）
- ・ 助産院（くさの助産院、ほほえみハウス）
- ・ 診療所（鈴木レディースクリニック、いしかわレディースクリニック、前田産科婦人科医院）

## 5. 実習目標と学習内容および学習方法

目標1. 妊娠期における正常経過を理解し、妊婦健康診査の意義を考える	
学習活動	学習内容・方法
1) 受け持ち妊婦の現在の健康状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち妊婦の妊娠経過や現在の健康状態を、妊婦健康診査の結果(母子手帳)カルテ、看護者との関わりなどから情報収集する。収集した情報についてポートフォリオを活用し、正常な妊娠経過であるのか、また今後に影響する因子についても思考していく。</li> <li>・医師の診察を見学し可能であれば胎児の状態の説明を受ける。</li> </ul>
2) 母子の健康増進における妊婦健康診査の必要性を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦の生理的・心理的变化の既習知識をふまえ、受け持ち妊婦の身体的状況と照らし合わせながら情報収集をする。</li> <li>・実習日は妊婦健康診査の実際の様子を観察するだけでなく、妊婦とのコミュニケーションから、妊婦の心理について考察する。</li> <li>・母子の異常の早期発見や母子の健康増進に対する看護者のかかわり、妊婦の言動から妊婦を捉え、妊婦健康診査の意義について考える。</li> </ul>
目標2. 分娩期における看護の必要性を理解する	
学習活動	学習内容・方法
1) 産婦の情報・分娩経過から分娩期の母子の健康状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩の正常経過、分娩期にある産婦の生理的変化や心理的变化について学習し、分娩期の母子の健康状態を知る。</li> <li>・初日のオリエンテーションで分娩室の構造、母子の安全を守るための準備などの説明を受ける。</li> <li>・分娩台の騎乗、分娩時の体位を体験し、分娩時の産婦への配慮(安全・羞恥心)について考える。</li> <li>・機会があれば分娩第1期または第2期にある産婦の様子(表情・呼吸法の実際など)を指導者や助産師とともに見学し、そこで行われている援助の実際を知る。</li> <li>・分娩が見学できない学生はカンファレンスを通し、学びの共有をする。視聴覚教材を活用し分娩期の実際を知る。</li> </ul>
2) 分娩期に必要な看護について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩期にある産婦、家族への関わりから分娩期の看護、看護者の役割について表現する。</li> <li>・分娩期の見学など実際に産婦と関われないときは、受け持ち産婦の分娩に対する思いなどを聞き、必要な看護について考えていく。視聴覚教材を使用し産婦の心理・看護を思考していく。</li> </ul>
目標3. 産褥期における正常経過をふまえ、褥婦に対する看護の必要性について理解する	
学習活動	学習内容・方法
1) 産褥経過のアセスメントに必要な情報収集をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として正常な経過をたどる事例を受け持つ。</li> <li>・産褥経過のアセスメントに必要な情報収集を、カルテや母子手帳だけでなく、褥婦の訴え、症状の観察を適切な看護技術を活用し、意図的</li> </ul>



	<p>に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠、分娩、産褥経過の中で今後に影響する必要な情報収集を意図的に行う。</li> </ul>
2) 対象の退行性変化を捉え復古に必要な看護を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ポートフォリオを用いて、全身の変化や復古現象を適切な方法で観察する。</li> <li>・栄養・活動休息・排泄などのカテゴリーの情報が、どのように復古に影響するのか関連付けてアセスメントしていく。</li> <li>・観察・アセスメントの結果をふまえ復古を促進するための援助について考える。</li> <li>・観察は指導者、教員とともにを行い、観察したことをアセスメントし報告する。</li> <li>・観察の計画・結果・評価は日々の記録の中で表していく。</li> </ul>
3) 対象の進行性変化を捉え必要な看護について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ポートフォリオを用いて、授乳前後の乳房、乳頭の観察を行う</li> <li>・進行性変化の観察には、母親の身体面（酸化・栄養・休息など）や心理面の情報も関連付けていく。</li> <li>・母乳栄養の利点、乳汁分泌を促進するための援助、授乳方法、搾乳方法について既習学習や追加学習を活かして、実際にどのように行われているか観察するとともに積極的に体験していく。授乳の援助は個別性があるため、指導者、教員とともに行っていく。なぜその援助がされているか思考する。</li> <li>・褥婦の退院後の生活における授乳方法を予測し援助の必要性とその内容を考えることができるように助言を受ける。</li> <li>・母子別室の場合、授乳室では他の褥婦も授乳している。他の褥婦の授乳の様子、乳房の状態の観察から個別性のある援助の必要性を学ぶ。</li> </ul>
4) 対象の心理・社会面を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥婦の心理的特徴、母子相互作用、親と子のきずな、褥婦の家族およびサポートシステムについての学習をもとに、心理社会的適応様式（自己概念・役割機能・相互依存）について情報を捉えていく。</li> </ul>
5) 考察した結果をもとに、必要な援助を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜそれを行うのか根拠を明確にする。</li> <li>・産褥日数や褥婦の状態に合わせた、実行可能な具体的援助を考える。</li> </ul>
6) 実践した結果と褥婦の生理的变化と照らし合わせ、個別的な情報をふまえながら、看護としてどういう意味があるのか考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々録を用いながら、実践した結果（自分の行動や看護師の行動）にはどんな意味があるのかを考える。</li> <li>・一般的な生理的特徴や日々の変化を捉え、知識や情報を活用し思考していく。</li> <li>・日々の変化が激しいため計画通りに実践できないこともあるが、その都度修正、変更、補足をしていく。</li> <li>・実践した結果をもとに、翌日の目標、計画について指導者、教員より助言を受け立案する。</li> </ul>

7) 母性意識を促進するための援助について表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子相互作用、親と子のきずな、母親役割、母子関係の成立過程、産褥期の心理的变化についての学習をもとに、母親の声掛け、表情、児の様子を観察する。</li> <li>・母子の接触の場に積極的に参加をする。</li> <li>・母と子、母子と看護師の関わり合いの場立ち会い、母子相互作用を促進させるための看護師の役割について考え表現する。</li> </ul>
----------------------------	---

目標4. 新生児の生理的経過を理解し新生児看護の原則に基づいた援助の必要性について理解する

学習活動	学習内容・方法
1) 母体の妊娠・分娩経過の中で新生児の子宮外適応に影響している要因を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として正常な経過をたどる新生児を受け持つ。</li> <li>・現在生後何日目でどのような状態かを電子カルテだけでなく、観察や測定など適切な方法で意図的な情報収集をする。</li> <li>・母体の妊娠、分娩経過の中で新生児の子宮外適応に影響する必要な情報を意図的に収集する。</li> </ul>
2) 新生児の子宮外生活への適応状態を看護の原則に基づき観察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ポートフォリオを活用し、観察を行う。</li> <li>・一般の生理的経過やそのメカニズム、正常値、検査値などをもとに全身の観察を行う。</li> <li>・観察は指導者、教員とともにを行い、観察したことをアセスメントし報告する。</li> </ul>
3) 観察した結果を、新生児の生理的経過と個別的な経過と合わせ、正常な経過をたどっているか判断する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察した結果を、一般的な経過、受け持ちの児の個別的な経過と比較しながら考える。</li> <li>・母体の妊娠経過や分娩経過が今の児にどのように影響しているか察して思考していく。</li> <li>・観察の計画、結果、評価は日々の記録の中で表していく。</li> <li>・観察した結果をもとに、翌日の目標、計画について指導者、教員より助言を受け立案する。</li> </ul>
4) 新生児の子宮外生活への適応が、速やかにいくための援助の必要性を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の看護の原則（安全・保温・感染予防）に基づいて観察、処置を行う。機会があれば出生時の児の取り扱い（アプガースコア採点、顔拭き、識別、体重測定、奇形・分娩外傷・皮膚の観察、成熟度の観察、臍処置など）を指導者とともにを行い、どのような根拠でその診察が行われているか考えていく。</li> <li>・光線療法中、保育器取替中の児の症例があれば見学し、看護の必要性について学ぶ機会とする。</li> </ul>

目標5. 妊娠・分娩・産褥期における保健指導の重要性を認識し、広く継続看護の必要性について理解する

学習活動	学習内容・方法
1) 妊娠・分娩・産褥期における保健指導の必要性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来における指導（個別指導、栄養指導、母親学級、1か月健診など）、病棟における指導（沐浴指導、調乳指導、退院指導など）の見学、参</li> </ul>

考察する。	加することで、母性看護における保健指導の必要性を考え表現する。
2) 地域における母子保健活動の場としての助産所の活動を学び、看護の役割を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産所でのさまざまな活動を知り、地域における母子保健活動の実際を学ぶ。</li> <li>・助産所での妊婦健康診査、分娩見学、母親学級、産後の指導、新生児の沐浴、家族への支援、助産師としての地域における母子保健活動の実際を見学、体験する。</li> <li>・開業助産師としての想いや、助産所を分娩場所として選ぶ対象の想いなどを知る。</li> </ul>
3) 妊娠・分娩・産褥期における継続看護の必要性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来実習、病棟実習、助産院実習、講義で学習した母子保健事業と臨床実習での学びを結び付け、母性看護における継続看護の必要性について考える。</li> </ul>

目標6. 地域における医療、母子保健の実際を知り、看護の役割について考える

学習活動	学習内容・方法
1) 思春期・成人期・更年期にある女性がどのようなニーズで診療所を訪れているのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前に思春期、成人期、更年期にある女性の健康問題とその看護について学習をする。</li> <li>・診療所内の案内を受け、診療所全体の雰囲気を知る。</li> <li>・主に外来での診療を見学し、どのような人々がどのような目的で訪れているのか知る。</li> <li>・診療の補助業務を可能な範囲で看護師と共に行う。</li> <li>・診療所を訪れる女性の心理面について考える。</li> </ul>
2) 地域における診療所での医療・看護の役割について表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所で行われている医療、看護の実際を知る。</li> <li>・外来時間以外は、病棟の授乳室や新生児室などで看護を見学する。</li> <li>・診療所の医師、看護師と患者との関わりに目を向け、その場で行われている看護について表現する。</li> <li>・一次医療を担う診療所の地域での位置づけ、役割を考える。</li> <li>・地域に暮らす人々にとっての診療所やそこで働く看護師の役割について考え表現する。</li> </ul>

目標7. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢をもち行動する

学習活動	学習内容・学習方法
1) 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として求められている規範を意識した行動をとる。</li> <li>・身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるか考え行動する。</li> <li>・記録物やレポートの提出期限、提出方法を守る。</li> <li>・新生児室や分娩室への出入りには特に感染予防に留意する。学年章は外し、髪は垂れてこないようにしっかり止める。</li> </ul>
2) あらゆる人々の尊厳と権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者及び家族の尊厳と権利を守り、看護学生として知り得た個人情報</li> </ul>

<p>を守り、看護学生として責任をもち誠意ある行動をとる。</p>	<p><u>報については守秘義務を厳守する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として受け持ち褥婦、新生児に対する責任と自覚をもち、最善の看護援助に向けて努力し続ける。</li> <li>・健康障害のある患者とは違うため訪室の仕方も考える。</li> </ul>
<p>3) 主体的な学習姿勢をもち、他者と相互に高め合う努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な準備を整えて実習に臨む。</li> <li>・実習中の追加学習を大切にし、ポートフォリオにしていく。</li> <li>・実習中不明な点は放置せず、自ら解決していく姿勢をもつ。</li> <li>・尊にアドバイスを求めるだけでなく自らの考えを述べる。</li> <li>・病室、新生児室、外來、助産院、診療所と学びの場が広いため、グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、情報共有、協力、調整していく。</li> <li>・グループメンバー内での自己の役割を意識した行動をとる。</li> <li>・日々のカンファレンス、テーマカンファレンスなど学生主体で運営し、建設的に進めていく。</li> </ul>
<p>4) より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任をもって情報を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟のスケジュールやスタッフの動きを把握し、状況を見ながら報告する。</li> <li>・知り得た情報をチームで共有する必要性を理解し、報告、連絡、相談する。</li> <li>・いつ誰に何を報告・相談するのか考え、情報を共有する必要があるかアセスメントして行う。</li> <li>・必要な連絡や相談は学生間でも連携をとり行う。</li> <li>・指導者、教員への報告や相談は適切な時期に行う。</li> </ul>
<p>5) より良い看護を行うために、自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の生活習慣を察え自己の体調管理を心掛ける。</li> <li>・自身の心理面についても安定を心掛け、看護学生として自己の有り様を調整しながら実習を継続する。</li> <li>・新生児室、授乳室、分娩室への出入りには特に感染予防に留意する。体調によっては入室を控えたり、実習中止になる場合もある。</li> <li>・体調不良の場合には、早めに連絡、相談をするなど、適切な判断や行動をとる。</li> <li>・看護学生として他者への感染予防に責任をもち、予防接種を含め適切な行動をとる。</li> </ul>
<p>6) 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの実習や学びを振り返り、自己の課題や目標を明確にする。</li> <li>・実習目的や目標とともに自己の課題、目標を常に意識し、主体的に取り組む。</li> <li>・実習中適宜実習目的、目標に対する自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的な取り組みを見出す。</li> <li>・強みや良い面も振り返り、自己の成長を自覚していく。</li> </ul>

## 6. 実習の動き（各実習場所での展開）

1) 実習期間 12 日間：（実習カレンダー参照）

2) 実習計画

日	時間数	実習内容・場所	カンファレンスなど	備考
1	7.5	個人面接 病棟・外来オリエンテーション	病棟、外来実習オリエンテーションを受ける	実習に臨むにあたり自己の課題・目標を確認する。
2	7.5	臨地実習①	ショートカンファレンス	臨地実習①～④はそれぞれの場所でローテーションしながら実習を行う。
3	7.5	臨地実習②		
4	7.5	臨地実習③		
5	7.5	臨地実習④		
6	6	学びの整理日 (8:45～15:45)	全体像・関連図の検討 個人面接（学内）	助言を受けながら、実習で体験したことが看護としてどのような意味をもつのかを整理する。
7	6	助産院実習 (9:00～16:00)	1日の振り返り（各助産院）	1日の実習を大切に主体的に学ぶ。
8	7.5	臨地実習⑤	ショートカンファレンス	臨地実習⑤～⑧はそれぞれの場所でローテーションしながら実習を行う。
9	7.5	臨地実習⑥		
10	7.5	臨地実習⑦		
11	7.5	臨地実習⑧ (学びの会)	テーマカンファレンス 個人面接	個人面接を行い、自己の目標達成と今後の課題を明確にする。
12	7.5	実習のまとめ (ラベルワーク)	ラベルワークと発表（学内）	

\* 実習予定はグループごと異なるため、実習予定表を実習前に配布する。

\* 診療所の実習は、各グループで1日1人から2人で実習する。

実習先及び実習日は実習クールによって異なるため、詳細は別途配布の予定表参照。

\* 助産院実習は、5～7日と実習クールによって異なる。日程は実習カレンダー及び実習グループごとの予定表参照。

\* 実習12日日は、学内でグループ間の学びを共有するため、ラベルワークを行い発表する。

## 3) 実習内容

### (1) 妊婦の看護（外来実習）

1人の妊婦（できれば妊娠後期の妊婦）を受け持ち、受付から会計まで行動を共にし、実習目標に沿って学習する。

### (2) 産婦の看護（分娩室実習） \*対象者がいる時に随時見学に入る

①実習初日に分娩台の扱い、物品の配置、分娩の記録などのオリエンテーションを受ける。

②原則として正常な経過をたどると予測される産婦につかせてもらう。

(帝王切開術に入らせていただくこともある)

③新鮮な感想を残しておくため、分娩見学後に感じたことを、レポートに記述する。

\*レポート形式：A4、1枚 表紙をつける

④レポートは、分娩見学の翌日に提出する。

### (3) 褥婦の看護〈褥室実習〉

①原則として正常な経過をたどる褥婦を受け持ち、実習目標に沿って学習する。

②子宮復古状態や乳房の観察は指導者と共に行い、不明な時や異常を観察した時は必ず指導者の確認を求める。

### (4) 新生児の看護〈新生児実習〉

①1人の新生児を受け持ち、個々のチェックリストをもとに観察を行う。

②母と子の関わりから母子一体での看護についても学んでいく。

③沐浴・ドライテクニックを実施するときは、必ず指導者・教員のもとで行う。(1回実施する)

④新生児は状態が変化しやすいため、指導者への報告・連絡は密にする。

### (5) 助産院実習〈ほほえみハウス・くさの助産院〉

①公共交通機関を利用する。

ほほえみハウス：JR掛川駅下車南口 タクシーでワンメーターなので乗り合わせが望ましい

くさの助産院：JR草薙駅下車 バスもあるが混んでいる 徒歩で2区間

②各自昼食を持参する。

③9:00に全員そろって実習場に入り挨拶をする。

④服装：学校指定のポロシャツ、エプロン、華美でないジャージ、スリッパ持参

髪型は病棟実習に準じる

⑤何を学ぶか自ら考え行動し、助産院で体験できることを大切に、主体的に実習をする。

### (6) 診療所実習〈鈴木レディースクリニック・いしかわレディースクリニック・前田産科婦人科医院〉

①公共交通機関を利用する。

自転車やバイクを使用する場合、駐車場所を当日確認する。

各診療所への行き方は、事前に確認をし、実習時間に遅れることがないようにする。

②服装：ユニフォーム、ナースシューズ 更衣の場所は当日確認をする。

③各自昼食を持参する。

④実習開始時間8:30のため余裕をもって全員そろって実習場に入り挨拶をする。

⑤地域にある診療所での外来診療の実際を見学させていただき、訪れる人々のニーズを知り、診療所での医療・看護の実際を学ぶ。

⑥外来診療時間以外は、病棟の授乳室や新生児室などでの看護を見学する。

⑦診療の補助業務(診察台や内診台への誘導、血圧測定、腹囲子宮底測定など)を看護師とともに  
行う。

- ⑧何を学ぶか自ら考え行動し、診療所実習での学びを大切にし、主体的に実習をする。
- ⑨実習終了前に医師または看護師の方と学びの振り返りを行う。
- ⑩診療所実習中は、緊急の患者対応時も一緒に動き見学などをしていく。

(7) ラベルワークについて

- ①目的：母性看護実習で学んだことについて、グループメンバーとの対話を通して考えることで、母性看護で大切なことは何かを明確にし、実習での学びのまとめとする。また、ワークを通してメンバー間での学びの共有を図る。
- ②テーマ：「母性看護で大切なこと」
- ③当日速やかに開始できるように、ラベルの内容は予め考えておく。
- ④用紙：指定の記録用紙に桃色のラベルを貼りグループで検討した「タイトル」を記入する。  
白色は模造紙に貼り、黄色は教員に提出する。

7. 看護技術の到達項目と学び方

母性看護では、沐浴、子宮底測定、授乳指導、乳房管理、新生児の身体計測、新生児の毛細管採血、保育器の取り扱いなど母性特有の看護技術が多いため、主体的に見学や体験をする。

☆可能な限り到達したい技術：「指導のもとで沐浴が実施できる」

8. 提出物一覧

1) 以下の順序で記録物をファイルし、③～⑮にインデックスをつけて提出する。

- ①表紙
- ②評価表
- ③総括表
- ④GOALシート
- ⑤ループリック評価表
- ⑥ラベルワーク用紙
- ⑦外来実習記録
- ⑧助産院実習記録
- ⑨診療所実習記録
- ⑩全体像記録用紙（褥婦）
- ⑪関連図記録用紙（褥婦）
- ⑫日々の実習記録用紙（褥婦）
- ⑬関連図記録用紙（新生児）
- ⑭日々の実習記録用紙（新生児）
- ⑮分娩見学レポート

2) 実習中のポートフォリオ

# 小児看護実習

## はじめに

子どもは大人への成長発達の過程にあり、自らの持てる力と適切な環境との相互作用の中で発達課題を達成しながら成熟に向けて常に成長する存在である。

小児看護は子どもとその家族が社会との繋がりの中で身体的、精神的、社会的な存在として、それぞれの健康レベルに応じて健やかな成長発達が遂げられるよう、最善の利益を守ることを目的としている。子どもたちの成長発達は、日常の生活である育てる人々の環境が大きく影響を与えているため、実際に子どもたちと関わる臨地実習での学びの意義は大きい。

講義では、子どものより良い成長発達を促すための環境因子についての知識と、保育や看護に必要な技術を学習してきた。これらをもとに、健康な子どもの成長発達とそれを促す関わりについて保育園実習を行い、「これからの未来を担う子どもたち」を育む者としての考えを深める。次に健康障害を持つ子どもの看護について病棟実習を行う。疾病や治療が生活や成長発達に及ぼす影響を理解し、問題が最小限にとどめられるよう子どもとその家族に対して適切な援助を実施する。これらの経験を踏まえ、健康・不健康を問わず子どもがよりよく育つために必要なことを見出し、子ども観・小児看護観を深める。

## 1. 実習目的

小児各期の特殊性を理解し、小児看護に必要な能力を養う

## 2. 実習目標

- 1) 小児の成長発達と影響因子を理解する
- 2) それぞれの小児にふさわしい環境について理解し、整える
- 3) それぞれの小児期の特徴や家族の状況を踏まえて関係を築く
- 4) 患児とその家族に対する看護の必要性を理解し援助する
- 5) 小児看護実践を基に小児観、看護観を深める
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する

## 3. 時間数と単位数

90 時間 2 単位

(4 月各論オリ 1.5h 保育園現地オリ 1.5h 保育園実習 22.5h 病棟実習 52.5h 学内 12h)

## 4. 実習場所

保育園実習：藤枝市 前島保育園・みわ保育園

焼津市 旭町保育園・石津保育園・小川保育園

病棟実習：藤枝市立総合病院 4B 病棟

焼津市立総合病院 3B 病棟



## 5. 実習内容・実習方法

実習目標1 子どもの成長発達と影響因子を理解する	
学習活動	実習内容と学習方法
① 乳幼児の発達段階を考察する  *保育園実習	子どもの成長発達や発達課題(デンバー、遠城寺評価表)基本的生活習慣の獲得について事前学習し、対象の発達段階に適した関わり方についてイメージする。様々な場における生活の様子や自身の関わりに対する反応を観察し、年齢による特徴や個人差、月齢差、個別性など子どもの発達段階について実際の様子を観察記録し、それを基に既習の知識に照らし考察する。
② 乳幼児の成長発達を促す要因を考察する  *保育園実習	子どもの成長発達や発達課題、成長を促す因子等について事前学習する。各発達段階における保育士や看護師の関わりに対する子どもの反応の様子、あらゆる刺激と反応について実際に観察し、成長発達を促す要因について気付いた事の意味について知識を活用して考察する。
③ 患児の入院前の発達段階を捉える	既習学習を活用し、受け持ち患児の成長発達の理解に必要な情報に着眼する。入院前の健康な段階の生活の様子、発達段階などの情報をカルテ、家族、チーム、患児などから適した方法を選択して情報収集する。収集した情報を成長、発達段階、家族機能などについてアセスメントする。収集した情報をもとに全体像を表し、入院前の様子を捉える。 →実習目標4-①②に繋げる。
④ 患児の疾患や治療による成長発達への影響を捉える	現在の患児の疾患、症状、治療などを自己学習により理解する。そして、入院や疾病前後の情報収集と照合し、成長発達への影響をアセスメントし、 <u>事実に基づいて全体を捉えていく</u> 。情報の追加や指導、助言、カンファレンスを活用してアセスメントを深め追加修正し、具体的な影響を捉える。
実習目標2 子どもにふさわしい環境について理解し、整える	
① 子どもに必要な生活環境を整えながら、ふさわしい環境について考察する  *保育園実習	事故防止、感染防止、成長発達の促しについて事前学習する。様々な場における発達段階に適した生活環境や発達を促す生活環境、安全を守る生活環境などについて意識的に観察する。 <u>事故防止、感染防止などの観点からも常に環境整備を心掛け実施する</u> 。この経験をもとに子どもに必要な環境について考察する。
② 患児にとっての危険を踏まえ、安全な環境を整える	小児病棟の安全管理について既習学習し、病棟オリエンテーション、同行実習などを踏まえて、病児にとっての安全な環境を理解する。理解をもとに受け持ち患児にとっての危険とは何かを健康障害や発達段階を含めてアセスメントする。患児にとっての安全な環境を考え、計画的に環境整備や生活援助、治療などの場面を整える。また、実践を振り返り、必要に応じて安全の視点から計画を評価修正する。
③ 患児にとっての安寧な環境を理解し安楽を提供する	受け持ち患児の発達段階、入院前の様子と現在の様子などの情報からアセスメントし、患児の表情や反応を観察し、不安感、不快感、生活のし難さなど患児の安楽を妨げる要因について理解する。保育園実習での経験を活かし、

	<p>患児の状況に合わせて自身の態度や姿勢、雰囲気などコミュニケーションや関わりを工夫し、患児の生活リズム、関わりのタイミングなどに配慮する。必要に応じて安楽の視点から援助計画を評価し、追加修正する。</p>
④ NICU の看護に必要な環境について考察する	<p>新生児、低出生体重児の身体的特徴を理解し、NICU の看護について事前学習する。</p> <p>看護の原則(感染予防、保温、栄養、安静)ディベロップメンタルケアなどの実際を見学、観察し、患児や家族に対する看護の実際を学ぶ。母子を中心として継続看護、地域連携、多職種連携などの必要性も含め、様々な視点で看護の必要性を理解する。</p>
<p><b>実習目標 3 子どもの発達段階の特徴や家族の状況を踏まえた関係を築く</b></p>	
① 発達途上にある乳幼児の年齢や背景、状況に応じて関わる  *保育実習	<p>子どもとの発達段階に応じたコミュニケーション方法、姿勢、社会性や遊びの発達などについて事前学習する。</p> <p>保育士や看護師の関わりを参考にし、自ら積極的に子どもと関わり、子どもの反応を確認しながら安心して過ごせるよう、状況に応じて工夫する。判断に困った場合などは指導者に相談し、より良い方法を検討しながら関わる。</p>
② 疾患や治療による影響を理解し、児の最善の利益を尊重した関わりをする	<p>受け持ち患児の疾患や治療の状況について情報収集やアセスメントをもとに理解する。(実習目標 4-②参考) 患児の意志や情緒を尊重しながらも、患児の疾病回復や成長発達に向け看護の必要性や方法の工夫を計画する(実習目標 4-③参考)。計画に基づいて看護援助を実施する。援助中も患児の反応を観察し、ふさわしい関わりをする。経験を通して、<u>患児にとっての最善の利益について、その考え方を学び理解を深める</u>(実習目標 5-②へ)。</p>
③ 信頼関係が築けるよう、患児の状況にふさわしい安心できるコミュニケーションを図る	<p>現在の患児の状況を理解し、援助に必要なコミュニケーションの工夫を理解する。必要に応じ遊びや学習、<u>プレパレーション、ディストラクションなどを計画的に実施する</u>。児の発達段階と意志を尊重し、ふさわしい姿勢、表現、反応など患児との関わりについて自己を振り返りながら深めていく。</p>
④ 患児家族の状況を理解し、ふさわしい関わりをする	<p>患児の疾病、入院によって家族に起こった変化について情報収集し、影響をアセスメントする。家族の状況を理解し、患児の症状改善や健康回復、家族看護の継続などに向けて必要な支援や関わりを明らかにする。そして、現在の家族の状況にふさわしい関わりを行う。</p>
<p><b>実習目標 4 患児とその家族に対する看護の必要性を理解し援助する</b></p>	
① 患児の現在とその後の健康状態について捉える	<p>受け持ち患児の成長発達、健康状態について患児、家族との関わりや病棟の看護の様子、カルテなどから情報収集する。収集した情報について PF やノートなどに学習し、身体的(疾病や治療の因果関係や関連データの理解を含め)、情緒的、社会性や発達段階について現在の状況を考察し患児の健康状態に関する理解を深める。</p>
② 疾病や疾患による	<p>受け持ち患児の疾病や症状のメカニズムを学習し、現在の患児の身体的状況</p>

様々な影響を理解し、看護の必要性をアセスメントする	と照らし合わせながら情報収集する。実際の情報をもとに身体的影響、成長発達への影響、生活への影響などを考察し今後に予測されることなど <u>看護の必要性や方向性を明らかにする。</u>
③ 根拠を持って具体的な看護を計画する。	分析をもとに看護の必要性と具体的な看護方法を計画する。その計画には受け持ち患児や家族への影響を踏まえた安全性、安楽性、適時性・自立性・個別性を踏まえる。
④ 計画を踏まえながら患児に適した看護を実践する。	実施前の患児の状況を情報収集、確認し計画した援助実践が可能か否か、必要に応じて、実施方法の修正、実施時間の修正など、今現在の患児に合わせた看護実践に向けて確認しながら実施する。(状況によっては指導者や教員に相談し、助言、協力を求める)
⑤ 患児家族に対する看護の必要性を理解し実施する。	患児の疾病や入院などの状況によって、家族がどのように影響を受けているのか、家族の意志や状況について情報収集し背景なども踏まえて、アセスメントする。それをもとに看護の必要性(看護問題やリスク)を踏まえた援助を行う。(＝看護学生として行動に根拠がある。) 社会資源などの活用についてはチームの計画や実践の様子から理解を深める機会とする。
⑥ 実施した看護の結果を捉え評価しながら実施する。	看護援助は計画的に行うものだが、計画的実施の反応や遭遇した場面、場面での対応が求められる。患児や家族の反応(S,O情報＝「結果」)を捉え、反応から自身の立てた計画や実施中の言動を振り返り、次の関わりがより良く実施できるよう活かす。
<b>実習目標 5 看護実践を通して子ども観、看護観を深める</b>	
① 子どもの関わりから自身の小児観の深まりを明らかにする。 *保育園実習	子どもの特性や社会における子どもの役割などについて事前学習する。保育園実習での乳幼児との実際の関わりやカンファレンスなどを基に子どもに対する理解や考え方、価値観などがどのように変化したのか、または変化しなかったのか、経緯を含めその時点での考えを明らかにする。
② 健康障害を持った子どもの看護をもとに、小児看護観の深まりを明らかにする。	小児病棟で患児とその家族に関わった経験を基に、看護師としての役割や責任、患児や家族、看護チームや他職種との関わり方を含めた「私が考える小児看護」を明らかにする。 <u>その際、自身の考えの参考になった既習学習、理論など知識の裏づけ、根拠を明示する。</u>
③ 小児看護について自己の意志を表し深める。	保育園実習での乳幼児との関わりから得た子ども観に加え、健康障害のある子どもとその家族との関わりから、健康不健康を問わず、 <u>子どもの権利を尊重した看護者としての自己の意見、考えを明らかにする。</u>
<b>実習目標 6 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する</b>	
① 看護学生としてマナ	看護を学ぶ成人学習者として求められている社会的なルールやマナーを守

<p>…やルールを意識した行動をとる。</p>	<p>る。時間、身だしなみ、接遇など実習生としてふさわしい振る舞いや行動をとる。また、保育園や実習病棟など実習施設でのルールにあわせて行動する。不足があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。</p>
<p>② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。</p>	<p>対象の患者、家族のみならず、自身が関わる人々について、看護学生として知り得た個人的事柄については、守秘義務を遵守する。また、患者や家族の訴えに耳を傾け、発達段階や背景を踏まえながら理解する。そして看護学生として健康や生命、意思の重さを理解し、身体的、精神的苦痛、生活のし難さ、成長発達のし難さなどに配慮した行動をする。また、学生間、多職種間においても自他の違いを認めながら意見交換し、理解を深める。</p>
<p>③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。</p>	<p>自身のなりたい看護師像を目指し「自己の課題と目標」を意識しながら学習に取り組む。実習に必要な知識や技術は事前学習し実習に臨む。<u>実習中に経験した事の意味について自ら理解を深め、探求する。</u>日々の気づき、学習したことは学生間のカンファレンスやラベルワークでは、積極的に参加し、自らの考えを広げる機会とする。実習中はチームメンバーと場、時間、状況を共有し互いに歩み寄り学習が深まるよう関わり、学び合う。</p>
<p>④ より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。</p>	<p>患児・家族の健康や成長発達、QOLの維持向上に向けて必要な情報を収集し、報告・連絡・相談する。情報は看護チームや保健医療福祉の専門職間で共有されるため適切な専門用語を用いて表現する。また、看護に必要な情報を申し送りやカンファレンス、カルテなどから情報共有し、<u>常に最新の情報を得て、看護援助に活かす。</u>その際、看護師として知り得た情報を適切に管理する。患児、家族の個人情報の守秘義務を遵守する。</p>
<p>⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。</p>	<p>看護援助の実施に限らず、学習や技術練習、カンファレンス等もよりよい看護実践のための重要で貴重な時間であるため時間管理し計画的に進める。実習中は疲労やストレスもあるが、他者に心配や迷惑をかけないよう看護学生として自己の心身の健康管理を行う。必要に応じてメンバーや指導者、教員に相談し、必要な休養や対策をしつつ安定した状態で実習する。</p>
<p>⑥ 常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。</p>	<p>看護師として働く者になるため、また自身が一人の人間として成長できるよう常に目標をもって実習に臨み、自己の価値観、看護観を深めていく。そのため看護実践や他者との関わり、学習の仕方、生活の仕方など様々な感じた事、気づいた事を謙虚に振り返り、自身の学びとして成長の糧とする。</p>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画

日程	実習内容	実習方法	時間	場所	服装	提出物
1～3	健康な乳幼児の成長発達 ※3日目保育園実習の学び 「乳幼児の発達段階や基本的生活習慣の獲得のための支援について」	臨地実習	7.5×3	保育園	ポロシャツ ジャージ エプロン	・日々の実習記録 ・学習ノート ・ループリック評価表
4	個人面接 輸液管理の演習、NICU 実習の学習	個人面接 学内演習	4.5	学内	/	・「子ども観」レポート
5	同行実習 病棟リエンターション 受け持ち患者決定	臨地実習 同行実習	7.5×6	病棟	実習着 エプロン	・ポートフォリオ ・病棟実習記録 ・学習ノート
6～10	看護の実践	臨地実習				・ループリック評価表
11	NICUの看護 実習のまとめ	臨地実習 学びの会	7.5	病棟	実習着	・ポートフォリオ ・病棟実習記録
12	個人面接 小児実習のまとめ ラベルワーク	学内実習 個人面接	7.5	学内	/	・学習ノート ・ループリック評価表

### <学内日の実習目的と内容>

実習4日目：健康な乳幼児への関わりを基にした理解と「小児観」について自己の意見を深める。

- ① 個別に面接を行い、保育園実習での学びをふまえた小児看護実習に向けての「自己の課題、目標」などを確認する。
- ② 病棟実習に向けて輸液準備と管理、NICUの看護（DVD視聴）、外来看護について学習する。

実習12日目：小児看護実習での学びを意見交換、共有し既習学習などを踏まえた「小児看護観」を深める。

- ① 小児看護実習で自己の目標達成と今後の課題目標について個別に面接。
- ② 「小児看護において大切なこと」をテーマにラベルワーク・発表。
- ③ 意見交換をもとに実習記録のまとめ、翌日提出。

## 7. 看護技術の到達と実施

到達度Ⅰ：単独で出来る Ⅱ：指導のもとで実施できる Ⅲ：学内演習で出来る Ⅳ：知識として解る

	技術項目	到達度	実習方法と留意点
環境	病床環境	I	日々のケアの中で計画的に実施する。
	基本的ベッドメイキング	I	シーツ交換日などに合わせて実施する。

食事	食事介助 食事摂取のアセスメント 栄養状態アセスメント 疾病に応じた食事介助の指導 個別性を反映した食生活改善計画	I I II II II	栄養状態は成長の様子と合わせてアセスメントする。(身体計測値・血液検査データ・発達の指数計算等) 治療や症状に応じた食事摂取の観察と介助の必要性のアセスメントをもとにした介助の実施。 食事指導の必要性をアセスメントし、応じて食事介助や生活習慣としての食事の指導を指導者やチームと検討して行う。
排泄	自然排便を促す 排尿を促す ポータブルトイレの介助	I I II	乳幼児ではあまり実施されることがない援助だが、必要に応じて、トイレやおまるでの排泄を促す。
活動と休息	車いす移送 睡眠状況のアセスメント ベッドから車椅子への移送 安静保持の援助	I I II II	小児実習での移送は行動の制限や点滴やドレーンなどのチューブ管理も合わせて行うことが多いので、指導者と共に実施する。 子どもの睡眠や休息は、症状や治療、環境変化などによって影響される。睡眠は安静や休息の観点からも必要となるため生活リズムや家族状況などにも配慮してアセスメントをもとに計画的に実施する。
清潔	手足足浴時の観察 洗髪時の観察 口腔ケア時の観察 身だしなみの観察 点滴等のない臥床患者の寝衣交換 入浴介助 顔部洗浄 臥床患者の全身清拭 臥床患者の洗髪 口腔ケア 点滴のある患者の寝衣交換 沐浴	I I I I I II II II II II II	乳幼児の清潔援助は基本を応用し、安全で短時間で実施することが求められる。実施は家族とも協力して行うが、観察の必要点とポイントはあらかじめ計画し実施する。 清潔介助の実施は必ず指導者や教員と共に行う。実施は安全性や安楽性はもろろん、プライバシーの保護や児と家族の協力などを求められるよう言葉かけを十分にし、安心してできるように配慮する。
与薬	点滴静脈内注射の輸液管理 輸液ポンプの基本的操作ができる 経皮・外用薬の予約方法がわかる 静脈内注射の実施方法がわかる 薬理作用を踏まえた静脈内注射の危険性がわかる。その他予薬の項目	III III IV IV IV	病棟実習の安全管理の中で看護師に同行し、点滴静脈内輸液・経口与薬・吸入薬・その他の与薬の看護援助を一緒に見学、または実施する。与薬は患者確認・指示量確認・薬品確認・与薬方法確認など細心の注意をしながら実施することを確認する。輸液セットの準備、輸液ポンプ操作については、各自練習する。

症状・生体機能	バイタルサインズ測定 一般状態の変化に気づくことができる 系統的な症状の観察 バイタルサインズ・身体計測等からのアセスメント	I I II II	計測前には、対象となる患児の一般的正常値、最近の測定結果、測定器具の選択測定方法などを確認しておく。 症状や治療に応じた随伴症状の有無など、観察項目については事前に学習したことを指導者や教員に相談し、模範を持って実施する。これを基にアセスメントする。
感染対策	標準防護策に基づく手洗いの実施 必要な防護用具の装着 使用した器具の感染防止の取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い	I II II II	小児病棟での感染防止対策を遵守すること。自己の健康管理は十分に行い、手洗いやゴム手袋、エプロン、マスク等を適切に使用する。感染の危険がある体液付着物（便・尿・唾液・吐物等）の取扱いは、指導者や教員とともに実施する。
安全対策	患者認識防止対策の実施 患者の特性に適した療養環境の調整 患者の特性に適した転倒転落防止対策	I II II	小児病棟での安全対策を遵守すること。 子どもの行動は予測不可能で危険回避行動も未発達なため、常に観察を行い安全のための確認と環境整備を怠らない。
安楽確保	患者の状態に合わせた安楽な姿勢保持 患者の安楽促進のケア	II II	活動制限などがストレスの原因とならないよう、範囲内での気分転換活動を考慮する。また、子どもの行動を観察し個々の楽な姿勢・体位を考慮する。

## 8. 提出物一覧

- 1) 小児看護実習評価表
- 2) 「私が考える小児看護について」
- 3) 「患者の全体像を捉えよう」
- 4) 4つの視点の分析用紙
- 5) 援助計画
- 6) 「子ども観」※保育園実習での学び
- 7) 保育園実習記録（3日間の記録）
- 8) ラベル台紙
- 9) ポートフォリオ
- 10) 学習ノート

※1)～8)は紙ファイルに綴じ、インデックスを貼付し提出する。

## 9. その他

- 1) 事前検査について

保育園実習前に検便検査（細菌検査）を実施するので、事前の指示を確認し提出する。

- 2) 保育園臨地オリエンテーションについて

①4月17日（月）14:00～15:30、各保育園にて現地オリエンテーションを実施する。

②交通手段等は各自事前に確認する。（タクシーの乗り合わせは可能）

- ③実習要項・筆記用具・上靴を持参し実際の保育園での実習の仕方について確認する。
- ④終了後は代表者が学校に報告を入れる。
- ⑤食物アレルギーがある学生は、自ら申し出て給食を辞退し、弁当持参の旨を報告する。保育園で用意されるおやつに関しては、自己で判断する。
- ⑥オリエンテーションも実習時間に含まれている。看護学生としてのマナーとルールを順守し、保育園及び周辺の皆様への影響を考え行動する。

### 3) 小児実習で使用するエプロンについて

- ①学校で用意した小児看護実習用のエプロンを使用する。
- ②保育園用、小児病棟用のエプロンをそれぞれ使用する。
- ③エプロン貸し出し時は、使用簿に氏名を記載し各自責任をもって管理する。
- ④エプロンには、名札 (10×15 cm位の白地生地) に黒ペンで、ひらがな、フルネーム、子どもが読みやすい字で名前を書くを縫い付ける (アイロン接着はしない)。
- ⑤実習終了後は、洗濯、アイロンがけを済ませ、次回実習生が使用できるよう速やかに返却し、使用簿に記入する。
- ⑥グループリーダーは、エプロン返却後使用簿を実習担当教員に提出する。

### 4) 保育園実習について

- ①実習記録は翌日に指導者へ提出する。※実習記録は、後日郵送で学校に届き、教員から返却される。
- ②実習最終日の記録、子ども観は全てクリアファイルに入れ、実習4日目に担当教員へ提出する。
- ③保育園実習中は、学生自ら保育士に声をかけ、困ったこと、気づいたこと、気になることについて質問し、保育士からアドバイスを得られるように行動する。日々の体験をその日のうちに意味づけできるよう、アドバイスをもとに、日々の実習の振り返りを行い、翌日の実習につなげる。
- ④保育園まで車で送迎してもらう学生は、保育園側と相談し、保育園や周辺の皆様に迷惑にならないよう送迎車の駐停車場所と安全に十分配慮すること。

### 5) 実習記録は楷書で、読みやすい文字の大きさ、濃さ、間隔で記入する。誤字脱字に注意する。

### 6) 咳嗽、手洗いは勿論、各自でマスクを用意し感染予防対策を行う。

### 7) 体調不良時は、実習場へ向かう前に担当教員に連絡し相談する。

### 8) ルーブリック評価は、毎日実施する。状況に応じて、指導者や教員と修正点などについて相談して取り組む。

### 9) カンファレンス、学びの会は学生で連絡調整し、司会進行する。

### 10) 小児実習中はユニフォームの学年章を外す。



## 精神看護実習

はじめに

精神看護実習では、病院に入院している精神障がいをもつ人の理解に基づき、その人の生きにくさに気づき、その人にあった関わりを実践することを学ぶ。さらに、地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の思いを知り、その支援と役割を学ぶ。

精神保健医療福祉は、施設中心の医療から地域支援に重点を置いた施策へ変化し、精神障がいをもつ人の生活の場は、病院施設から地域での生活へと変わろうとしている。しかし、いまだに施設中心という現実もある。なぜ、地域での生活に移行し難いのかを考え、精神障がいを持つ人が置かれている現実の環境について理解を深めたい。そしてそのうえで、地域に戻り生活し続けるための支援について考えてほしい。

日々の生活の中で精神障がいを持つ人と接することはあまり無いのかもしれない。そのため、実習に臨むにあたって戸惑いや不安を感じる者もいるであろう。そういう自分自身の感情を手掛かりとして自分自身と向き合い、ケアの道具としての自己の特徴や傾向を知る機会としてほしい。また、自分自身が他者に与える影響を考えながら関わり、その関わる相手の言動の意味を様々な視点で理解しようと試みることで、信頼関係の構築につながるということを体験してほしい。人が人を理解するという意味を深めていくことを期待する。

### 1. 実習目的

精神に障がいをもつ人およびその家族との関わりを通してその人を知り、こころを病むことにより生じる日常生活や対人関係の困難さを理解する。さらに人間関係を基盤とする患者ケアを実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

### 2. 実習目標

- 1) 精神に障がいがある人に関心を持ち、全体としてのその人を理解する。
- 2) 精神に障がいがある人が、その人らしく生活していくために必要な看護を考え、実践する。
- 3) 精神に障がいがある人との関わりを通して、自己理解を深める。
- 4) 精神科看護の特异性を理解する。
- 5) 地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の想いを知り、地域で暮らすための支援と役割について理解を深める。
- 6) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

90 時間 2 単位

実習オリエンテーション 1.5 時間、病棟実習 67.5 時間

デイケア実習 7.5 時間、就労継続支援 B 型事業所実習 7.5 時間、学内実習 6 時間

### 4. 実習場所

- ・病棟実習：藤枝市立病院 3 階病棟、4 階病棟（藤枝 5-1 石川町 2-9-8 Tel054-641-3788）  
焼津市立病院 療養病棟（焼津市東牛 48 番地 Tel054-628-9125）
- ・精神科デイケア：藤枝市立病院 デイケア、焼津市立病院 デイケア（実習病院に併設）
- ・就労継続支援 B 型事業所：社会福祉法人高風会 漣（さざなみ） 焼津市三ヶ名 1582 Tel054-626-8902  
社会福祉法人高風会 院（あかつき） 焼津市大覚寺三丁目 1 番地の 2  
Tel054-620-9202

## 5. 実習内容・実習方法

学習目標 1 精神に障がいのある人に関心をもち、全体としてのその人を理解する。	
学習活動	学習内容・学習方法
① 受け持ち患者の生帯歴、生活歴を捉え、現在の患者の言動の意図を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として1名の患者を受け持つ。</li> <li>・事前学習を基に必要な情報を考える。ポートフォリオを作成し随時学習していく。</li> <li>・受け持ち患者の誕生から現在までのライフイベント、生帯歴に関する情報を収集する。その情報をもとに、現在の患者の言動が意味することをアセスメントする。</li> </ul>
② 受け持ち患者の身体的、心理・社会的側面を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を活用した意図的な情報収集をし、身体的・心理的・社会的側面など多角的に、患者の知識を活用し現状を理解する。</li> <li>・現在起きていることについては、知識や事実をもとにその類型を明らかにする。また、予測されることも明確にする。</li> <li>・心理的・社会的側面については、表情・しぐさ・意欲の有無・人付き合いなど非言語的コミュニケーションの観察から得られる情報を活用する。</li> <li>・患者と直接関わるだけでなく、患者と他者との関わり場面を観察し情報を得る。</li> <li>・患者の入院前、受け持つまでの様子などについては、必要時、実習指導員や関係スタッフへ情報を求める。</li> <li>・特許保護福祉士、作業療法士など他職と関わり、対象の理解を深めていくように努める。</li> </ul>
③ 受け持ち患者の発達課題の達成状況を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリクソン、ピアジェなどの発達課題を参考にし、患者の発達課題の達成度をアセスメントする。</li> <li>・現在の発達課題の課題の達成状況と前段階の発達課題の関連を考える。</li> <li>・これまでの発達課題の達成状況をもちに、患者の現在の言動の意図を考える。</li> <li>・発達課題の達成状況のアセスメントを生帯歴の観察にもつなげる。</li> <li>・発達課題の理解を患者との関わり（看護実践）に活かしていく。</li> </ul>
④ 受け持ち患者の持てる力（強み）を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護する上での着眼点」の活用を活用し、患者の生活上の困難や持てる力（強み）を見出す。</li> <li>・作業療法や病棟内活動、生活習慣、コミュニケーション、対人関係など、その人の健康な面や阿羅漢な面を考える。特に、結果として「できる」「できない」という視点だけでなく、部分であってもできているところへ健康な部分に目を向ける。</li> <li>・患者の持てる力（強み）を看護実践に活かしていく。</li> </ul>
⑤ 受け持ち患者のサポートシステムの状況を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者を支援する存在、キーパーソン、支援者との関係についてアセスメントし、サポートシステムの状況を捉える。</li> <li>・支援者（家族）の役割に立ち、支援者の考えや思いについて考える。</li> <li>・テーマカンファレンスでの気づきを活かす。</li> </ul>

実習目標2 精神に障がいのある人がその人らしく生活していくために必要な看護を考え、実践する。	
学習活動	学習内容・学習方法
① 患者の理解をもとに、看護の方向性と必要な看護を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「必要と考える援助、用語を使用し、患者の理解、患者本人の意向を踏まえ、世話を明確にして、長期目標、およびその人に必要な援助を考える。</li> <li>・患者の状況を踏まえ、看護援助の優先順位を決定する。</li> <li>・長期目標は短期的方針も踏まえ、現実的な方向性を見出す。</li> <li>・ストレングスモデルやエンパワメント、リカバリーの考え方に基づいて看護援助を考える。</li> <li>・学生が実施できる援助だけではなく、その患者が必要としている支援・援助を考える。</li> <li>・スタッフカンファレンスで自分が考えた援助や関わりについて発表する。</li> <li>・スタッフカンファレンスでは、看護師と患者の関わりについて意見を交換し、看護目標、援助計画に活かす。</li> <li>・長期目標の設定や必要な看護を考える際は、精神科デイケアや就労継続支援事業所における体験や学びを活かす。</li> </ul>
② 「その人らしさ」や持てる力（強み）を活かした援助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の援助や学内的活動において、自分が捉えた「その人らしさ」や患者の「持てる力（強み）」を活かして実践する。</li> <li>・状況によって、患者の意向を尊重し意思決定を支援していく。</li> <li>・エンパワメントを意識して関わる。</li> <li>・スタッフカンファレンスでの気づきを活かした関わりや援助を行う。</li> <li>・常に患者の理解や観望や価値をもとに根拠をもって目的設定や援助を行う。</li> <li>・患者の最新の状況や状況を把握し、援助が可能なかを判断する。必要であれば、状況に応じて援助内容・方法を工夫する。</li> <li>・日々の看護実践コンパスでは、必要時、実習指導者、府内スタッフ、教員に相談してアドバイスを求める。</li> </ul>
③ 患者の反応から自己の看護援助の妥当性を評価し、次に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践時の患者の反応を捉え、その反応から自己の看護援助の目的・内容・方法の妥当性を評価する。</li> <li>・PDCA: Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返して看護実践を段階的により良くしていく。</li> <li>・その日の体験の中で、新たな知見や発見、気づき、印象に残ったことなどあれば、必ずその日のうちに記録に残し整理していく。</li> <li>・実習2日目、8日目、9日目にプロセスレコードにより患者との関係性、関わりを評価する。</li> </ul>
実習目標3 精神に障がいのある人との関わりを通して、自己理解を深める。	
学習活動	学習方法
① 患者の言動の真意を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の振り返りやプロセスレコードを活用し、対象の生活環境や生活、症状などもふまえて患者の言動の真意をその人の立場から考える。</li> <li>・対象の言動を解釈する際、自己の価値観で決め付けた、努力をする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、その人を取り巻く環境や状況から、対象の思いを考える。</li> <li>・対象との関わりにおいて、自分が考えたことを念頭に置きながら、患者の思いや考えを確かめる努力をする。</li> <li>・日々の振り返りやプロセスレコード、プロセスレコードカンファレンスなどを活用し、対象の言動の意味を捉え入る。</li> </ul>
② 自己の在り様や関わりが相手に与える影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が関わるということ、自己の立ち居振る舞いや在り様などが、対象にどのような影響を与えているか考える。</li> <li>・プロセスレコードや毎日の振り返りを活用し、以下の時点で自己について考察する。 *ケアの道具として自分の在り方 *媒介として自己の感情</li> <li>・自己洞察による気づきは、プロセスレコード内に記録し整理する。必要時、行跡修正していく努力をする。</li> <li>・プロセスレコードカンファレンスを行い、患者に対してどのような影響を与えているかという視点で振り返る。</li> </ul>
③ 対象と関わる際の自己の感情に留意することを通して、自己の傾向を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象との関わり場面を再構成（プロセスレコード）し振り返ることで、コミュニケーションの様式や相手の捉え方、価値観等の傾向を知り深める。</li> <li>・プロセスレコードカンファレンスを通して、自己の傾向に気づくだけでなく、グループメンバーの考え、意見から新たな気づきを得る。</li> <li>・自己の傾向を知り看護者としての強みや課題を明確にし、実践意思に整理する。</li> </ul>
④ 対象とより良い関係を築くために、自己洞察による気づきを関わりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の傾向と患者の傾向に照らし、葛藤的関わりを特定し実践する。</li> <li>・実際に関わった結果を振り返り、さらに次の関わりにつなげる（PDCAサイクルを大回しする）</li> <li>・必要時、実習指導者、所属スタッフ、教員に相談しアドバイスを求める。</li> </ul>
実習目標 4 精神科看護の特殊性を理解する。	
学習活動	学習方法
① 患者が受けている治療や看護の意義を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習を活用し、どのような治療を受けているか情報収集する。</li> <li>・精神科で用いられる代表的な治療（精神療法、薬物療法、作業療法など）について学習し、P-Fにまとめ、学習した内容を毎日の患者の観察や看護実践につなげる。</li> <li>・看護師がどのような目的・方法で援助しているかを確認する。</li> <li>・行われる治療が精神障がいを持つ人にとって、また、受け持ち態様によってどのような意味や意義があるのかを考察する 考察は、実習記録に記録する</li> </ul>

<p>① 患者が安全に安心して医療を受けられる環境について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に見たこと、聞いたこと、体験したことが、どのような法律や制度によるものか、その目的、意義は何か考え、記録し整理する。 (入院形態・経済面・就労支援 等)</li> <li>・精神科病院における行動制限の実態を捉える</li> <li>・患者において、なぜ行動制限が必要なのかを考える。また、精神科病院における行動制限の意味を既習の知識を活用して考え、記録し整理する。</li> <li>・テーマカンファレンスでの気づきや学びを活かし、精神科病院における安全、安心な環境とは何かについて考察し、レポートにまとめる。</li> </ul>
<p>② 看護部の患者に対する関りの意図を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者および外来の患者に看護部がどのように関わっているかを知る。それぞれの看護部の関わり方の違いに着目する。</li> <li>・などそのような関わり方を考える。また、その意図が不明な場合は看護部に確認し、そこから自分の関わりにつなげていく。</li> </ul>

実習目標 5 地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の想いを知り、地域で暮らす為の支援の方法と役割について理解を深める。

学習活動	学習方法
<p>① 地域で生活する精神に障がいをもつ人の想いを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間であるが積極的に利用者の方と関わり、関係性を築く努力をする。</li> <li>・プログラムや作業を共に行ない、関わりの中から利用者の方々の日常の生活の様子や生活の中での関り、想い、願いなどを捉える。</li> <li>・関わりから得た情報をもとに、既習の知識を活用して利用者の方々の心理をアセスメントする。場合によってアセスメントによる推測にとまらず、利用者の方々に確認できるとよい。</li> <li>・必要時、施設のスタッフの方に報告や相談をし、アドバイスを求める。</li> </ul>
<p>② 地域で生活する精神に障がいをもつ人にとってのデイケアおよび就労継続支援事業所の役割を考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科デイケア、就労支援に関する内容は事前に学習し、P.F.にまとめる。</li> <li>・精神科デイケア、就労継続支援事業所での体験、利用者の方々と関わりによって得られた情報、既習の知識に基づき、/精神に障がいをもつ人にとって各施設はどのような意味があるのか、必要性、重要性、役割について考察する。</li> </ul>
<p>③ 精神に障がいをもつ人が地域で生活するために必要な支援を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障がいをもつ人が地域で暮らすための法や制度、サービスについて学習し、P.F.にまとめる。</li> <li>・既習の知識や利用者の方々からの情報、施設のスタッフの方からのオリエンテーションなどから、家族以外の支援のあり方や方法を考える。他の習得で学んだ内容も関連して考えると良い。</li> <li>・各施設での実習体験のみならず、既習の法や制度などの知識を活用して考える。</li> <li>・カンファレンスを活用し、思考を発展させ、自己の考えをレポートにまとめる。</li> </ul>

実習目標6 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢をもち行動する。	
学習活動	学習内容・学習方法
① 看護学生としての自覚をもち責任ある行動をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、礼儀、清潔さ、謙虚さ、挨拶、責任感など、他者から看護学生として求められる社会的なルールやマナーを意識した行動をとる。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。</li> <li>・不足があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。</li> <li>・実習に必要な準備を怠らないうちに臨む。</li> <li>・必要な学習を把握し、主体的に学習する。</li> <li>・実習中は自ら疑問を持ち、解決するための追加学習をする。</li> <li>・より多くの学びを得るために、困りごとや疑問を他者に相談し自らアドバイスを求める。</li> </ul>
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者を一人の人として、その人の生きてきた人生や価値観を尊重して関わる。</li> <li>・その人の気持ちや思いに耳を傾け、価値観を尊重して人間関係を築く努力をする。</li> <li>・相手の話をしっかりと聞き、その人にとっての意味を考え、自己決定を支えることを意識する。</li> <li>・患者および家族のみならず、看護学生として関わる全ての人について知りえた個人的事項について守秘義務を守る。</li> <li>・看護者として自分自身の考えや意見を持てる努力をする。その際には自分の価値観や考えに拘りすぎず、かつ相手の意見・関心だけに委ねてしまわないよう心がける。</li> </ul>
③ より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサイン測定値や症状的観察の内容だけでなく、関わり方や方法、知覚の反応がどのような意味を持つのか、情報の意味を考えて報告する。</li> <li>・看護学生のみで留めてよい情報か否かを考え医療チームの一員としての責任を意識して、情報の共有に分かる。</li> <li>・看護職だけでなく他職種の方とも積極的に情報交換を行う。</li> <li>・他職種の方に情報を求める場合は、何のためにどのような情報を得るのか明確にし、相手の立場に立って関わるタイミングや表現方法を考える。</li> <li>・申し送りやカンファレンス、コンサルなどを活用し情報に必要最低限の情報を常に得て、看護援助に活かす。看護学生として知りえた情報は責任を持って適切に管理する。</li> <li>・常に患者の反応や自分の行動を振り返り、疑問・問題を解決せず積極的に他者に意見を求め、実践に活かす。</li> </ul>
④ より良い看護を行うため、他者と協同する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループメンバー内での自分の役割を意識した行動をとる。</li> <li>・グループメンバー間でコミュニケーションをとり、協力、調整、連携する。</li> <li>・学生間でのカンファレンスやラウンドワーク、話し合いなどに積極的に参加し、自らの考えを伝える機会としていく。また、他者からの学びを大切にす。</li> </ul>

<p>⑨ より良い看護を行うためには、心身ともに安定した状態で実習を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体調や傾向を理解し、常に自己の健康に留意することで心身とも安定した状態で実習を継続できるように努める。</li> <li>・精神科病棟の特徴を踏まえ、看護学生として他者への感染予防に責任を持ち、予防接種を含めた適切な行動をとる。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動が取れるよう、必要に応じて実習指導者や教員に報告・連絡・相談をする。</li> </ul>
<p>⑩ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートシートを活用し、看護者としての自己の目標を明確にする。</li> <li>・目標マップを活用し、実習目標の到達度を確認する。目標達成のために必要な具体的な取り組みを見出し、自分を成長させていくための努力をする。</li> <li>・他者との関わりや看護実践、学習や生活の仕方など、日々気づいたこと考えたことを振り返り、その意味や価値を考え記録し、整理する。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 12日間

2) 実習内容 患者1名を受け持ち、関わりを丁寧に振り返る。そのプロセスを繰り返すことで患者の理解を深める。さらに、精神科デイケア、就労継続支援事業所などの施設実習を行うことで、精神障がいを持ちながら地域で生活をする現状や支援を理解する。それらを統合し、社会復帰を視野に入れつつ、現在の受け持ち患者に必要な看護を考え、その人らしさを意識した看護を実践する。

### 3) 実習計画

日数	実習場所	時間	内容	学生カンファレンス	備考
4日	学内	1.5	精神看護実習オリエンテーション		
1	病棟①	7.5	個人面接・病歴、病歴のオリエンテーション 精神患者との関わり、受け持ち患者決定・情報収集	初日に感じたことを共有する	事前学習PP同覧
2	病棟②	7.5	患者と関わり理解を深める		日々の記録なし
3	病棟③	7.5	患者と関わり理解を深める	「テーマ」 患者の支援者の理解 と必要な看護	プロセスレコード 提出 日々の記録同覧
4	施設①	7.5	精神科デイケア実習 プログラムに沿って実習する	1日を取り返し、 学びを共有する	ボロシャツ ジャージ 名札着用
5	施設②	7.5	就労継続支援B型事業所実習 事業所の活動に沿って実習する	1日を取り返し、 学びを共有する	ボロシャツ ジャージ 名札着用・上靴着用
6	病棟④	7.5	看護の実践	} プロセスレ コードカン ファレンス	日々の記録なし
7	病棟⑤	7.5	看護の実践・病棟スタッフカンファレンスでの発表		プロセスレコード 提出
8	病棟⑥	7.5	看護の実践・病棟スタッフカンファレンスでの発表	「テーマ」 患者が安全で安心す る環境とは？	実習ノート・PP同覧
9	病棟⑦	7.5	看護の実践・病棟スタッフカンファレンスでの発表		日々の記録なし
10	病棟⑧	7.5	看護の実践・学びの会	実習全体を通しての 学びを共有する	プロセスレコード 提出
11	病棟⑨	7.5	ラベルワーク、ラベルワーク発表会(病棟)		病棟内でワークする
12	学内	6	個人面接・学びの整理 8:45~15:45		実習体験を意味づ け、学びや課題を明 確化する。

\* 実習4日目・5日目：2グループに別れ、精神科デイケア、就労継続支援B型事業所で実習を行う。

実習4日目、5日目にグループ毎反転する。



7. 看護技術の到達項目と学び方

到達度 1：単独でできる 2：指導の下で実施できる 4：知識としてわかる

看護技術	技術項目	到達度	実習方法と留意点
環境	病室探検をつくる	1	患者の状態に合わせて、患者と一緒に行う。
	基本的ベッドメイキング	1	または、患者の理解を得て行う。
食事	食事介助	1	精神症状によって必要量の摂取ができない患者に対して介助方法を考
	食事摂取状況・行動のアセスメント	1	え実施する。(拒食・過食)
	栄養状態アセスメント	2	口腔内の状態や咀嚼・嚥下状態を観察し、嚥食予兆の声掛けをする。
	疾病に応じた食事内容の調整	2	多飲患者の脱水データを検出し、飲水行動と身体状態の観察を指導の下
	経路食・ペースの指導からの変換 がわかる 患者の食生活上の改善点が変わる	4	で行う。 患者の身体・心理・社会的側面からアセスメントし、患者の食生活上の 問題点および改善点を明らかにする。必要時、援助を行う。
排泄	排便を促す	1	腹部の観察、排便方法、トイレ歩行の回数・所要時間などを観察し、食
	排尿を促す	1	事・水分摂取の量や活動量、抗精神薬などの使用状態の観察等から、 現在の排泄状態を把握する。必要時、排便を促す援助を行う。
	失禁をしている患者のケアがで きる	2	失禁の原因をアセスメントし、明らかにする。患者の精神症状、自立度 に合わせて援助する。
活動と休 息	患者の歩行・移動介助	1	パーキンソニズムや振戦の発症、精神症状による歩行の不安定さをアセス
	入眠・睡眠を認識した中の活動援 助	1	メントし、転倒しないよう援助を行う。 薬物や薬物療法の影響も踏まえ、十分な休息がとれるように活動と休息
	体操制限による苦痛の軽減	2	のバランスをアセスメントし援助する。
清潔	入浴前・中・後の観察ができる	1	入浴中の観察や援助は患者の許可を得る。
		1	入浴前に必要なものを準備できるを観察し、必要時（指導）行う。入浴の 所要時間と入浴後の状態を観察し、どの程度自立して清潔にできたのか をアセスメントする。精神症状やこだわり・ペースでもアセスメントし、 不十分なところを援助する計画を立て、患者の同意のもので行う。プ ライマーに留意する。
	口腔ケアを通して患者の観察がで きる	1	患者の口腔ケアを観察し、唇は、口腔内（舌根・歯肉）の状態、ケアの 自立度（こだわり）等をアセスメントし、必要時援助する。
	身だしなみを整える援助	1	季節に応じた衣服の選択、清潔感、更衣前後、履脱手順などを観察し、 必要時援助する。その際、患者の精神症状、精神薬等を踏まえ、患者の 意向を見えながら援助する。
呼吸・循環 を整える 技術	結核感染のアセスメントの視点が わかる	4	既知歴、服薬中の抗結核薬に特異的伝染、抗結核薬副作用全般におけ る副作用の知識を活用し、循環機能をアセスメントする。
褥瘡 管理技術	褥瘡発生の危険のアセスメント	1	予防やこだわり、精神症状による患者の褥瘡の危険をアセスメントす る。

看護技術	技術項目	到達度	実習方法と留意点
与薬の技術	経口薬の服用後の観察ができる	2	薬剤の種類・効果・服用方法（口腔内崩壊錠や水薬が処方されている根拠を含む）を自ら調べる。臨床的な内服の確認の仕方、工夫を指導の下実施する。  精神科で扱う薬剤の多くは経口薬である。管理の必要性を理解し、管理の実際を見学する。
	経口薬の種類と服用方法がわかる	4	
	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	4	
	薬液等の管理方法がわかる		
病状・身体機能管理技術	バイタルサインが正確に測定できる	1	毎日の申し送り、診療記録、患者との関わりなどから、一般状態の観察を行い、その変化の有無をアセスメントする。身体の異常を知覚し、適切に伝えることができない患者もいる為、十分な観察を行う必要がある。  病状の変化は、患者の活動の変化に現れる。また、過去〜現在の経過を把握しなくては状態の変化に気づくことができない。実習指導者を受け持ち看護師へ病状の報告を行うとともに、これまでの様子はどうだったのか、経過について確認する。
	患者の一般状態の変化に気づくことができる	1	
	系統的な症状の観察ができる	2	
	バイタルサイン・一般状態、病人から患者の状態をアセスメントできる	2	
感染予防の対策	スタンダード・プリコーションに基づく手洗いの実施ができる	1	閉鎖された病室での感染症の発生の危険性を理解し、自らが感染源や感染の媒介体にならないように行動する。コホの感染予防が行動に写る。  病院、施設の感染予防対策に準じて行動する。  鏡類などの（爪切りなど）は、病棟から患者へ貸し出し、使用後は感染のルールに準じた方法で洗浄、消毒する。（内容は看護評の許可を得る）
	必要の防護用具の装備ができる	2	
	使用した器具の感度防止の取り扱いができる	2	
安全管理の対応	インシデント・アクシデントが発生した場合、速やかに報告できる	1	自分が加害者、または被害者となる出来事（リスクを含む）は、実習指導者または教員に速やかに報告し、患者と自分の安全を守り、安心できる環境を作る。  病院によって食事を配膳するが、患者の氏名を読み上げ本人であることを確認し確認する。  与薬時/患者の確認は指図の下で行う。  自傷他害行為の危険のある患者への対応をオリエンテーションにて説明を受ける。  食器時の窒息のリスクをアセスメントして観察する。  転倒の危険がある患者に対して、安全に歩行できるように嚮導の下介助する。
	患者を認識しないための防止対策を実施できる	1	
	患者の機能や行動特性に合わせて薬投環境を安全に整えることができる	2	
	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷防止対策	2	
安楽確保の技術	患者の安楽を促進するためのケアができる	2	その患者にとっての安楽は何かについてアセスメントし、援助していく。必要時、実習指導者や看護スタッフにアドバイスを求める。  看護観測は計画、実施、評価、修正を繰り返しながら、精神的安楽を目指す。
	患者の精神的安楽を保つための工夫を計画できる	2	

## 8. 提出物一覧

1) 事前課題：実習ポートフォリオにファイリングし、実習前に学習したものを提出する。

※ 実習で活用する最低限の知識であるため、実習前に必ず全項目学習しておくこと！

- (1) 主な疾患の学習 ① 統合失調症  
② 気分障害（うつ病、双極性気分障害）
- (2) 精神科で行われる代表的な治療（精神療法、作業療法、薬物療法など）
- (3) 抗精神病薬の有害反応とその仕組み
- (3) 地域における生活支援の方法（テキスト 精神看護の展開② P120～178）

### 2) 実習記録物

- |               |                                   |
|---------------|-----------------------------------|
| ① 実習評価表       | ⑨ プロセスレコード (3回：実習2日目、6日目、9日目)     |
| ② ルーブリック      | ⑩ テーマカンファレンスレポート：『患者の支援者の理解とその看護』 |
| ③ 実習総括        | 『患者が安全で安心する環境とは』                  |
| ④ 全体像         | ⑪ 精神科デイケア 実習記録                    |
| ⑤ 全体情報用紙      | ⑫ 就労継続支援B型事業所                     |
| ⑥ 発達段階とその達成度  | ⑬ 施設実習レポート：                       |
| ⑦ 看護するうえでの着眼点 | 『精神に障がいを持つ人が地域で生活するための支援』         |
| ⑧ 必要と考える援助    | ⑭ ラベル台紙                           |
|               | ⑮ 日々の実習記録 (5日分)                   |

## 9. ラベルのタイトル

実習開始前：テーマ『精神看護実習を前にした気持ち』(1枚)

実習10日目：テーマ『精神看護で大切なこと』(4枚)

※ 桃色のラベルを「⑬ラベル台紙」に貼り、自己保管とする。白色はラベルワークに使用する。

## 10. その他

### 1) 精神科病棟実習 (8:30～17:00)

#### (1) 実習記録物の提出

- ① 日々の実習記録、実習ポートフォリオ、ルーブリックは、毎朝提出する。  
実習記録は、看護実践に活かすことができたいタイミングでまとめて提出しない。  
毎日ルーブリックを用いて自己評価し、目標達成に向けた課題と改善策を考える。
- ② 患者の理解を深め、看護実践のために計画的に提出し、指導を求める。
- ③ プロセスレコードは、実習2日目、6日目、9日目における受け持ち患者との関わり場面を再構成する。戸惑い、困りなど、自分にとって違和感のあった場面を取り上げるとよい。  
※ プロセスレコードを記載する日は、日々の記録による振り返りをしなくてよい。

#### (2) カンファレンス

- ① 毎日のカンファレンスの司会・進行は学生が行う。(約30分程度1回)
- ② 実習指導者や教員、グループメンバーとテーマ、実施時間などの連絡・調整を図る。
- ③ テーマカンファレンスを実施した場合、翌日にテーマカンファレンスレポートを提出する。
- ④ 「プロセスレコードカンファレンス」は、教員が司会・進行する。2～3人ごと2日間に分けて行う。この2日間は、学生によるカンファレンスを行わない。

- ⑤ 実習7～9日目に「スタッフカンファレンス」を行う。病棟スタッフのカンファレンスの場で、患者紹介および患者に必要な看護を発表し、アドバイスをいただく。

※カンファレンスで発表する学生は、朝のミーティングの場で実施する旨を病棟スタッフへ伝える。

※実習記録物「全作像」・「必要と考える援助」を資料として提示する。

資料の印刷は実習施設内の指定されたコピー機を使用して行う。

(必要部数：病棟師長、実習指導者、教員、実習メンバーの半数、当日のスタッフ数)

- ⑥ 実習10日目のカンファレンスは「学びの会」とし、実習での学びや気づきをグループで共有する。

※このカンファレンスは、約60分間程度で行う。

### (3) ラベルワーク

- ① 実習11日目に、テーマ『精神看護で大切なこと』についてラベルワークを行い、実習での学びを明確化する。病棟スタッフへグループの学びを発表する。
- ② ラベルワーク前日に、自分のラベルに記入しておく。(当日、すぐにワークできるようにする)
- ③ ラベルワークの日は、朝のミーティングに参加し、その後は学生室でワークする。
- ④ 実習病棟で、ラベルワークによる成果物を発表する。  
発表時間は、実習病棟により異なるため、事前に教員に確認する。
- ⑤ 発表原稿の作成のために個人のPCを持ち込んでもよい。(しかし、プリントアウトできない。)  
原稿作成のための用紙(レーズリーフでも可)をグループで用意する。
- ⑥ 学生用の道具箱にあるもの(色画用紙、折り紙、のりなど)を自由に活用してよい。しかし、ハサミなどの刃物は各自で準備すること。

## 2) 精神科デイケア 実習 (8:30～17:00)

- (1) 集合時間 8:20に現地へ集合する。

- (2) 服装 活動しやすい服装(ジャージ、ボロシャツ、横浜病院はナースシューズ)

※駿府病院は着替えの場所はないので自宅から着てくる。上履が良い。

横浜病院は病棟の学生室で更衣する。ナースシューズに履き替える。

※名札を付ける。

※髪をまとめる。(病棟実習と同様)

- (3) 持ち物 実習要項・記録用紙、筆記用具、名札、弁当、飲み物、病院パンフレット

- (4) その他(留意事項)

・実習内容は、デイケアのプログラムに沿って行う。

昼食は利用者の方々と共に食べる。(感染症対策のため学生だけで食事をとる場合もある。)

プログラム終了後、カンファレンスを行う。

・プログラム中はデイケアスタッフの一員として参加する。

・プログラムの休憩や昼食時に、利用者の方々と積極的にコミュニケーションをとり、デイケアに違いながら生活する人の暮らしや気持ちを知る機会とする。

・メモはスタッフルームで行う。(活動するフロアではメモを取らない。)

・学生同士で固まらない。集団で行動することを極力避ける。

・私物の管理は病院ごとに違うので、それぞれの指示に従う。

・プログラムによって、自己負担費用がかかる場合がある。(施設外活動、遠足時など)

### 3) 就労継続支援B型事業所 実習 (8:30~17:00)

(1) 集合時間 8:20に現地へ集合する

(2) 服装 活動しやすい服装(ジーンズでない綿のパンツ(ジャージ系)、学校指定ポロシャツ)

\*上履きを用意する。

\*名札を付ける。

\*髪をまとめる。(病棟実習と同様)

(3) 持ち物 実習要項・記録用紙、筆記用具、名札、弁当、飲み物

(4) その他(留意事項)

- ・実習内容は、事業所のプログラムに沿って行う。  
昼食は利用者の方々と共に食べる。プログラム終了後、カンファレンスを行う。
- ・利用者の方々と共にプログラムに参加する。
- ・プログラムの休憩や昼食時に、利用者の方々と積極的コミュニケーションをとり、事業所に通いながら生活する人の暮らしや気持ちを知る機会とする。
- ・メモはスタッフルームで行う。(活動するフロアではメモを取らない)
- ・学生同士で固まらない。集団で行動することを極力避ける。
- ・私物の管理は病院ごとに違うので、それぞれの指示に従う。

### 4) その他

(1) 実習施設の鍵の管理

駿府病院・徳津病院のどちらの施設も鍵を使用するため、管理に注意する。

具体的な方法は、実習初日に伝える。

(2) 服装 : 実習病院、実習施設への出入りの服装は、肌の露出が多い刺激となるような服装は避ける。

(ミニスカート、タンクトップなど)

(3) 防犯ブザーの携帯

事前のオリエンテーションで各自に防犯ブザーを配布する。実習中は常に身に付け、身に危険を感じた場合は、躊躇することなく使用する。(実習最終日に回収する。)

また、ブザーの使用の有無にかかわらず、自己を言わされたり不快な体験をした場合は、速やかに実習指導者または教員へ伝える。

(4) 実習病院では、個人情報に関する誓約書、受付持ち患者への承諾書に記載する。

(駿府病院では実習初日に必ず印鑑を持参する。)

(5) 感染予防対策の徹底

病院、施設の感染予防対策に準じて行動する。各自、日本の感染予防行動に努める。

毎朝、実習記録物等の提出と併せて、行動履歴書、実習日誌を提出する。

(6) 物品管理の徹底

精神科病棟で実習する際、患者の自傷他害につながるような物品の管理を徹底する。

・各自のシャープペン、ボールペンを落とさない、患者と使用した色鉛筆の本数を確認する、など。

(7) 学生用の道具箱の確認

実習初日と病棟実習最終日に道具箱の物品・点数を確認する。不足しているものがあれば教員へ伝える。

# 在宅看護実習

## はじめに

少子高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は、施設から地域全体へとその範囲を広げている。在宅看護は、地域で暮らすあらゆる人々を対象とし、在宅という生活の場において看護を展開する。そのため、療養者の疾病や障がいを注視するのではなく、療養者の残存機能や家族機能を見極めながら在宅での生活が維持できるように支援する。また、在宅療養生活を支えるには、保健・医療・福祉に関わる機関や職種が、同じ目標に向かって連携・協働していくことが不可欠である。現在、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。その中で看護の果たす役割は大きい。病院で治療を完結するのではなく、疾患を持ちながら地域でその人らしく生活していけるようにすることが求められている。地域で安心して過ごせるためには住まい・生活支援・介護・医療・予防という広い視野を持てるようにしていくことが、今後の看護職に求められていることである。

在宅看護実習では、健康の保持増進に関わる保健活動、多職種との連携の在り方を通して地域全体を捉える視点を保健センター実習で学ぶ。また、訪問看護実習では、訪問看護活動を通して、さまざまな療養者と家族に触れ、在宅で生活することの意味やその思いを受け止め、各家庭の療養生活の違いについて理解し、在宅生活が円滑に行なわれるための看護援助方法について学ぶ。そして、地域包括支援センターでは地域で生活している高齢者の現状の理解と各事業への見学・参加を通して、地域包括支援センターでの役割と機能について学ぶ。

## 1. 実習目的

地域で生活している様々な療養者とその家族を理解する。地域包括ケアシステムにおける看護の機能と役割を理解することで、在宅看護実践の基礎的看護能力を養う。

## 2. 実習目標

### <保健センター実習>

- 1) 保健センターにおける地域保健活動の役割と機能を理解する。

### <訪問看護実習>

- 1) 生活の場で療養するさまざまな療養者と家族を理解する。
- 2) 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解する。
- 3) 施設内看護と在宅看護の違いを理解し、施設と在宅をつなぐ視点を考える。

### <地域包括支援センター>

- 1) 地域包括支援センターの役割と機能を理解する。

### <全体>

- 1) 他職種の役割を踏まえた連携・協働を理解する。
- 2) さまざまな対象との関わりや看護の実際から在宅看護の考え方に広がりを持つ。
- 3) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数等単位数

90 時間（全体オリエンテーション 1.5h 保健センター・臨地オリエンテーション 3h  
 保健センター実習 22.5h 訪問看護実習 44.5h 地域包括支援センター15h 学内実習 3.5h）  
 2 単位

4. 実習場所

藤枝市・焼津市の保健センター  
 藤枝市・焼津市・榛原総合病院の各訪問看護ステーション  
 藤枝市・焼津市の地域包括支援センター

5. 実習目標と実習内容、実習方法

<保健センター実習>

実習目標 1. 保健センターにおける地域保健活動の役割と機能を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 地域に生活している対象の健康問題について考える。	保健センターオリエンテーションで地域の特性・事業内容を理解し、地域保健活動に参加する。参加した保健活動を通して、地域の健康問題にはどのようなものがあるのかを考える。そして、「国民衛生の動向」を活用しながら少子高齢化や生活習慣がもたらす日本の健康問題と地域の健康問題を比較し、考察する。
② 地域住民への保健活動を理解する。	健康相談・健康教育・健康診査・家庭訪問などの地域保健活動に参加し、参加者との対話を通してその思いを知る。参加した保健活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を具体的に日々の記録に表現し、地域保健活動の役割を考察する。また、集団で行われる保健活動と個別に行われる保健活動の両方に参加し、参加者の反応や保健師の関わりを視察し、個別・集団を対象とする看護の特徴と教育的関わりについて考察する。
③ 地域住民の健康を支えるために必要な関連機関・職種・社会資源について理解する。	保健事業に関わる法律について事前学習する。地域保健活動がどのような法律に基づいているのか、どのような機関・職種が関わっているのかという視点で保健活動に参加する。そして、目的、法的根拠、保健活動の内容や方法を日々の記録に表す。また、事業内での協働や事業間・関連機関での連携・協働の必要性を考察する。

<訪問看護実習>

実習目標 1. 生活の場で療養するさまざまな療養者と家族を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 家庭・社会の中で療養者・家族の置かれている状況を考える。	訪問した療養者・家族とのコミュニケーションや訪問看護師・関連職種から、対象の地域や生活環境、家族成員とそれぞれの役割などの情報を収集する。そして、療養者・家族がどのように生活をしているのか、家庭や社会でどのような状況に置かれているのかを考察する。

②各家庭の生活習慣や価値観を知り各家庭の違いを理解する。	訪問した療養者・家族とのコミュニケーションや訪問看護師・関係職種から、訪問した家庭の生活史や生活習慣、生活信条、健康観などの情報を収集する。同行訪問した家族を事前学習した家族関係・家族機能・家族の発達段階と結びつけて考察し、各家庭の違いを理解する。
③療養者や家族の思いを理解し、療養や介護の継続意欲を左右する要因について考える。	訪問した療養者や家族が在宅療養を選択した理由や疾病や障害、在宅療養に対する療養者や家族の思いや希望、何を大切にしているのか、療養者の闘病意欲や社会資源の活用、地域とのかかわり、家族の介護意欲などの情報を収集し、在宅で療養することの意味や在宅療養の継続意欲が引き出される要因を考察する。

実習目標2. 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解する。

学習活動	学習内容と方法
① 受け持ち療養者を生活の視点を含めて理解した上で必要な看護を考える。	カルテ、訪問看護師からの情報提供、訪問時の観察やコミュニケーションを通し、訪問した療養者の身体状況、家族、生活背景、生活環境、生活信条、価値観や健康観、一日の過ごし方、日常生活自立度や思いなどの情報を収集する。療養者・家族を生活している人として捉える。『私の捉えた療養者』の用紙を用いて自立や生活の質、安全・安楽や経済性を考慮した分析を行い、療養生活上の問題を抽出し、療養者だけでなく家族も踏まえて優先順位をつけていく。
② 療養生活が継続するための個別の援助を考える。	受け持ち療養者の思いや願いを踏まえて、療養生活の継続するための目標を設定する。その目標に向けての援助計画を立案する。実際に行っている各家庭に合わせた援助の方法や工夫、療養者や家族への配慮、教育的指導などを参考にして立案する。また、訪問するさまざまな家庭にとって療養生活が継続するにはどのような援助が必要なのかを考える。
③ 看護師と共にチームの一員として援助に参加する。	様々な家庭を同行訪問し、療養者・家族と場に合わせたコミュニケーションを進んで行う。指導者と事前に調整し、自分のできる看護援助や介助については進んで参加する。療養者だけでなく家族の反応も受け止め、訪問看護師とともに安全・安楽の視点を援助に参加する。必要な報告・連絡・相談、情報の提供・共有を行う。自己の行動を振り返り、主体的に援助に参加できるよう努力する。
④ 実施した援助が対象の生活習慣や療養生活に適しているかを振り返る。	参加した援助や立案した援助計画の実施を通し、手順や物品、役割分担、物の配置、関わり方と援助時の療養者・家族の行動や言動、表情などの反応を具体的に振り返る。実施した援助が療養者・家族にとってどのように適していたかを、身体状況や生活状況、生活環境や背景、セルフケア能力、各家庭の方法の尊重を踏まえて考察する。



実習目標3. 施設内看護と在宅看護の違いを理解し、施設と在宅をつなぐ視点を考える。	
学習活動	学習内容と方法
① 施設と在宅をつなぐ視点を考える。	すべての訪問を振り返り、施設から在宅へ、在宅から施設へ、つなぎ目なく看護が提供されるには、看護師間ではどのように連携をしていけばいいか、また在宅療養が継続するには、入院時から何を行っていけばいいのかを考える。

<地域包括支援センター>

実習目標1. 地域包括支援センターの役割と機能を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 地域包括支援センターの活動内容を理解する。	事前学習とオリエンテーションを通して地域包括支援センターの活動を知る。相談業務、家庭訪問、予防支援のケアマネジメント業務などの見学実習に参加する。参加した活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を具体的に日々の記録に表現することで事業の必要性を考える。見学実習に参加する機会がないときは、事業所内での活動を見学し、また事業内容の説明を受けることで事前学習を踏まえて事業の目的、内容を知り、事業の必要性を考える。その上で地域包括支援センターの役割と機能を理解する。
② 地域包括ケアの必要性を理解する。	事前学習、オリエンテーション、さまざまな見学実習に参加することで自分の身近な地域の現状を知る。また『国民衛生の動向』を活用することにより、少子高齢化がもたらす核家族化による家族機能の低下、単独または高齢者夫婦世帯の増加、認知症高齢者数の増加、ニーズの多様化などを知る。現在の社会の情勢を知ること、地域包括ケアが求められる背景を理解する。これを踏まえて事業内容と関連づけて考えることで地域包括ケアの必要性を理解する。

<全体>

実習目標1. 他職種との役割を踏まえた連携・協働を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 社会資源の活用、関連機関・関連職種との連携や協働の必要性を理解する。	実習全体を通して、その人の生活を変えるためにどのような職種が関わり、どのような連携・協働が行われているかを知る。その中での看護が担う役割を考察する。

実習目標2. さまざまな対象との関わりや看護の実際から、在宅看護の考え方に広がりを持つ。	
学習活動	学習内容と方法
① 在宅実習体験を通して気づきや発見があり、学びに広がりがある。	一つひとつの体験を大切に丁寧に考えることで、体験・見学したことからの気づきや感じたことをどのような場面や状況からなのか踏まえて記録に表現する。

② 疾病からではない対象の捉え方に目を向ける。	実習を通して、身体状態・日常生活の状況・介護状況・介護者の生活状況・使用している社会資源などから、さまざまな対象の捉え方に気づく。疾病だけでなく療養生活の全体に目を向けようと努力し、どのように対象を捉えていくかを表現する。
③ 生活の場でよりよく生きることを支援するには看護として何をすべきかを考える努力をする。	カンファレンスで、保健センター・訪問看護・地域包括支援センターを通して体験した内容を振り返り、健康を支援する看護として何をすべきかを考えることで、在宅看護に対する自己の考えを表現する。

実習目標3. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

学習活動	学習内容と方法
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	挨拶や身だしなみなどのマナーを意識して実習に臨む。特に同行訪問するときには訪問者であるという姿勢を持つ。また看護者として実習で知りえた情報は個人情報として守秘義務を遵守する。 施設毎のルールを守り、訪問時間や訪問時の集合場所の確認は学生自身で行う。記録の提出場所を各施設の实習初日に確認し、記録物は毎朝施設毎の指定の場所に提出する。記録物は提出期限を守る。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生としての責任を持ち誠意ある行動をとる。	実習で関わる療養者、家族などの地域住民、スタッフ、教員、グループメンバーを一人の人として大切に思い、思いやりを持った行動をする。看護学生でもスタッフの一員であるという意識を持ち、実習で関わるすべての人に対して誠実な態度で行動する。
③ 主体的な学習姿勢をもち、他者と相互に高め合う努力をする。	実習に必要な事前学習や文献学習を行って実習に臨む。疑問や問題に気づく努力をし、自ら学習しわからないことは指導者やスタッフ、教員にアドバイスを求め、助言やアドバイスされた内容をさらに追及しようと努力をする。
④ より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	看護学生として療養者や家族、地域住民の知り得た情報をチームで共有する。必要時は適時に連絡・報告・相談する。同行訪問した家庭での知り得た情報の取り扱いを意識して行動する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	日々の自己の健康管理を行う。体調不良の場合は決められた方法で相談・報告をする。感染予防のために同行訪問する1軒または1処置ごとにスタンダードプリコーションを遵守する。学生自身が感染の媒介者にならないように意識して行動する。(実習中は必要時、毎朝体温測定をしてくる。)体調不良が他者に与える影響を考え行動する。

⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<p>自己の課題を明確にして実習に臨み、自己の課題を意識して実習に取り組む。実習を通して自己の課題への取り組みを振り返り、さらに新たな自己の課題を明確にする。</p> <p>日々の実習の取り組み状況や実習目標の達成状況を振り返り、翌日の実習へ自己の姿勢・態度を修正して行う。</p>
------------------------------	---

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画、実習内容

日程	1・2・3日目	4・5・6・7・8・9日目	10・11日目	12日目
実習内容	<p>地域の保健活動への参加</p> <p>地域保健活動の役割と機能の理解</p>	<p>訪問看護実践</p> <p>在宅療養者とその家族の理解</p> <p>在宅療養を支える看護</p> <p>社会資源の活用と地域ケアシステムの連携・協働の理解</p>	<p>相談、訪問などの事業の見学</p> <p>地域包括支援センターの役割と機能の理解</p>	<p>学びの共有のカンファレンス</p> <p>テーマ「地域で安心して生活するために看護として何をすべきか」</p> <p>個人面接</p>
時間数	7.5時間×3	7.5時間×5 7時間×1 (OHP)	7.5時間×2	3.5時間×1
実習場	保健センター	訪問看護ステーション	地域包括支援センター	学内
提出物	<p>日々の記録</p> <p>事前追加学習用紙</p>	<p>日々の記録、私の抱えた職責者、在宅生活支援のネットワーク図、在宅療養上考えられる看護問題、看護援助計画用紙、同行一巡り</p>	<p>日々の記録</p> <p>事前追加学習用紙</p>	<p>日々の記録</p> <p>事前追加学習用紙</p>
服装	<p>ポロシャツ、ジャージズボン、エフロン、白の靴下(天候・汚染の可能性もあるため予備を持つ)、運動靴、カーディガン(必要時)</p>	<p>訪問看護</p>	<p>保健センター・訪問看護</p> <p>実習の服装。</p> <p>【実習服装に含むべき服装】 (ブラウス・スラックス等)</p> <p><u>産産中課</u> <u>産産課</u></p>	
持ち物	<p>訪問バック(家庭訪問時)</p> <p>インソジガーグル</p> <p>含嗽用コップ</p> <p>アルコールジェル</p> <p>雨具(折りたたみ傘等)</p>	<p>訪問バック、魚肝油、アルコールジェル、アルコール綿、手袋、聴診器、ビニール袋(処置後の手袋等を入れる)、器具(折りたたみ傘等)、インソジガーグル、含嗽用コップ、含嗽用スリッパ、携帯電話</p> <p>【室内履き持参】</p> <p><u>池ちゃん家</u> <u>産産</u> <u>産産北</u></p> <p><u>スポーツ</u></p>	<p>名札(私服の場合は必ず付けること)、インソジガーグル、含嗽用コップ、アルコールジェル、携帯用スリッパ</p> <p>雨具(折りたたみ傘等)</p> <p>【室内履き持参】</p> <p><u>大井川</u></p> <p><u>魚塚の郷</u></p>	

\*実習12日目は、メンバー全員で学びの共有をするため学内でカンファレンスを行う。

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

チェックリストを参照し、訪問先で行える援助を事前に指導者と相談し決める。訪問する家庭は訪問当日に決まることも多く、各家庭で行う援助は多様なため、常に看護技術の事前学習をし、指導者へ積極的に技術についての相談をする。

## 8. 提出物一覧

最終記録は下記を参照しファイルに関じ、インデックスを添付しファイルに綴じて定時に提出。

- ① 在宅看護実習評価表
- ② 在宅看護実習総括レポート
- ③ 在宅生活支援のネットワーク図
- ④ 私の捉えた療養者
- ⑤ 在宅療養上考えられる看護問題
- ⑥ 看護援助計画用紙
- ⑦ 訪問看護実習記録（日々の記録）
- ⑧ 訪問看護事前・追加学習
- ⑨ 訪問看護実習同行一覧表
- ⑩ 保健センターオリエンテーション記録
- ⑪ 保健センター実習記録（日々の記録）
- ⑫ 保健センター事前・追加学習
- ⑬ 地域包括支援センター実習記録（日々の記録）
- ⑭ 地域包括支援センター事前・追加学習

## 9. その他

### 1) 事前学習

- ・実習施設の地域の特性と健康問題についてのレポート
- ・保健所と市町村保健センターの機能・役割、事業内容
- ・関連する法律等（高齢者医療確保法・介護保険法・地域保健法・健康増進法・健康日本21・ゴールドプラン21・母子保健法・健やか親子21等）
- ・難病対策          ・訪問看護制度          ・家族の捉え方          ・施設内看護と在宅看護の特徴
- ・在宅療養者に多い疾病・症状          ・在宅における看護援助技術
- ・地域包括支援センターの機能・役割、事業内容、従事する職種についてのレポート
- ・地域包括ケア          ・地域包括ケアシステム

### 2) 保健センター

- ・朝のミーティングに参加し、挨拶・自己紹介・参加事業の発表をする。
- ・各事業においては、担当者・目的・対象者・内容を事前（前日）に確認しておく。

### 3) 訪問看護ステーション

- ・ミーティング後、挨拶、実習目標の発表をする。
- ・オリエンテーションは訪問予定状況により時間を調整して行われる。

#### 4) 地域包括支援センター

- ・カンファレンスの時間は指導者と調整して行う。カンファレンスのテーマは学生が決定し、見学した事業から感じたこと、学んだこと、疑問に思うことなど指導者を交えて学生同志で共有できるようにする。

#### 5) 貸出について

- ・実習前に物品定数表に記入の上、訪問バッグ・血圧計・体温計・アルコール綿・を借り、実習終了翌日に返却する。(在宅看護実習室の棚)

#### 6) 安全対策について

- ・訪問看護実習時のみ、訪問看護ステーションの電話番号を登録した携帯電話を持参して同行訪問を行う。実習中は電源をオフにして訪問バッグに入れておき、緊急時のみ訪問看護ステーションに連絡が取れるようにする。実習中の個人的な使用は認めない。

#### 7) その他

- ・カンファレンスは毎日実施する。
- ・各施設の実習最終日に学びの会を設ける。

# 統合実習

## はじめに

統合実習は3年間の最後に行う実習で、臨床で働く自分を想像しながら3年間の総体を実践的に学ぶものである。統合実習では、複数患者を受け持つ状況のもと、それぞれの患者を尊重した看護を実践する中で、看護をマネジメントする方法や、看護優先度の判断について学ぶ。また、チーム医療および多職種との協働、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップの在り方などについて学ぶ。さらに、組織における医療安全や感染管理の取り組みや看護管理の実際を学び、組織の一員としての自己の在り方を考察する。本実習における学びによって、臨床看護実践力の向上を目指す。

## 1. 実習目的

看護チームの一員としての体験・夜間実習・複数患者の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し、看護を必要とする人々に対して看護を実践する力を養う。

## 2. 実習目標

- ① 複数患者を同時に受け持ち、看護を必要とする人々の療養生活や治療を考慮し、個別対応や複数援助の優先順位の判断や時間管理を意識した看護実践を学ぶ。
- ② 既習の知識・技術・態度を統合し、看護処置や診療の補助技術を安全性・正確性・経済性を考慮して実践する。
- ③ 夜間実習の経験を通して、患者の療養生活の理解を深める。
- ④ メンバーとしての役割、チームリーダーとしての役割を理解し、看護チームでの一員としての役割や業務の調整、多職種との連携・協働の実際を学ぶ。
- ⑤ 病棟での看護管理の実際および安全管理の実際を学ぶことで、組織としての視点で看護を考える。
- ⑥ 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 時間数と単位数

90時間

(オリエンテーション 1.5時間、夜間実習 6時間、病棟実習 7.5時間×11日=82.5時間)

2単位

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院・焼津市立総合病院・徳原総合病院

5. 実習内容・実習方法

看護 実践力	学習活動	学習内容・学習方法
ニーズを捉える力	①それぞれの患者の身体的側面における特徴、ニーズを捉え、必要な看護を明らかにする。	その時々々の患者の身体的側面の状態を捉え、必要な看護を見出す。看護の思考を用いて、収集した情報をもとに多面的・多角的にアセスメントし、患者の身体的特徴、状況を捉え、必要な看護を明らかにする。 思考の内容・プロセスは、情報整理用紙、日々の実習記録に表現し整理する。 活用する知識は実習ポートフォリオにファイリングする。
	②それぞれの患者の心理・社会的側面における特徴、ニーズを捉え、必要な看護を明らかにする。	その時々々の患者の心理的側面、社会的側面の状況を捉え、必要な看護を見出す。看護の思考を用いて、収集した情報をもとに多面的・多角的にアセスメントし、患者の身体的特徴、状況を捉え、必要な看護を明らかにする。 思考の内容・プロセスは、情報整理用紙、日々の実習記録に表現し整理する。 活用する知識は実習ポートフォリオにファイリングする。
	③それぞれの患者の状況や変化を捉える。	患者の現状を捉えるために必要な情報を精選し、適切な方法を判断して情報を収集する。 継続的な観察により、患者の状況、状態をアセスメントし、患者に生じている変化を捉える。 収集した情報とそれに基づきアセスメントは、情報整理用紙、日々の実習記録などを用いて整理する。
	④夜間の療養環境を知り、患者に与える影響を理解する。	実習5日目の夜間実習において、夜間の生活環境の変化、患者の様子を知り、夜間の療養環境が患者に与える影響を考察する。 また、考察した内容を受け持ち患者と関連付け、必要な看護を考え実践につなげる。 思考のプロセスは、「夜間実習記録用紙」に示し思考を整理する。さらに、日々の実習記録や情報整理用紙も併用し活用する。
ケアする力	①病棟の看護計画をもとに、患者の状況を踏まえた個別性のある看護計画を立案する。	病棟の看護計画を参考にしながら、患者の状況を踏まえた個別性のある長期目標、短期目標、看護計画を立案する。また、看護問題の優先順位についても、病棟の看護計画を参考にして考える。 自己の患者アセスメントに基づき、長期目標、短期目標、看護問題の優先順位、看護計画などについては再考する。 思考した内容は、看護計画用紙に表現する。 看護実践の結果を基に評価し、計画内容を修正していく。 評価・修正を看護計画用紙に示していく。

<p>②複数の患者を受け持ちながら、それぞれの患者の状況に応じて随時調整しながら看護援助を実施する。</p>	<p>複数患者の状況を捉え、それぞれの患者の状況に応じた適切な時間、方法を判断し、予定していた援助計画を随時調整しながら看護援助を実施する。</p> <p>なぜそのように判断するのか、判断の根拠を明確にする。</p> <p>実践を日々振り返り、改善策を考え行動修正していく。</p> <p>実践内容、振り返りによる自己評価は日々の実習記録に表現し、思考を整理する。</p>
<p>③実践を振り返り、複数患者受け持ち時の看護援助の優先順位、時間管理の判断の仕方について考察する。</p>	<p>日々の様々な実習体験を振り返り、複数患者受け持ち時に、患者の状況に応じた優先順位や時間配分の判断の仕方について考察する。</p> <p>日々の実習記録を用いて考察する。</p> <p>実習2日目・8日目のカンファレンスを活用し考察を深める。</p>
<p>④看護援助を安全に実施する。</p>	<p>患者の状況や患者の反応を捉え、看護援助の原理・原則を踏まえた確かな技術により、安全な援助を実施する。</p> <p>援助計画を別紙に表し、確認・検討する。また、参考資料は実習ポートフォリオにファイリングする。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p>
<p>⑤看護援助を患者の意思や状況に配慮して安楽に実施する。</p>	<p>患者の個別性や状況、患者の意向を考慮し、安楽性を保証した看護援助を計画する。</p> <p>援助場面では、患者の反応を捉え、効果的なコミュニケーションを取りながら、苦痛を最小限にした援助を行う。</p> <p>援助計画を別紙に表し、安楽性の視点からの留意点を明確にして内容を確認・検討する。また、参考資料は実習ポートフォリオにファイリングする。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p>
<p>⑥看護処置や診療の補助技術を安全に実施する。</p>	<p>看護処置や診療の補助技術を既習の知識を活用し、原理・原則に基づいて安全に、かつ正確に実施する。</p> <p>正確な看護技行を行うため、事前または事後学習を行い、援助計画を立案する。</p> <p>援助計画は別紙に、学習の軌跡はポートフォリオに残す。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p>
<p>⑦看護処置や診療の補助技術を対象の身体侵襲に配慮して実施する。</p>	<p>看護処置や診療の補助技術実施する際、患者の状況や反応に応じて、効果的なコミュニケーションをとり、患者の身体侵襲による苦痛を最小限にできるように援助を実施する。</p> <p>事前に、援助を実施する際に必要な留意点を明確にする。</p> <p>援助計画は別紙に、学習の軌跡はポートフォリオに残す。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p>



	⑧看護援助を行う際、経済性を考慮して準備し、工夫して実施する。	看護援助を行う際、患者や病院の経済性を考慮し、必要最低限でかつ無駄のない準備ができるように工夫する。
	⑨看護実践後に患者の満足度、効果を確認し、看護援助を改善する。	看護実践後、その効果や患者の満足度を確認する。 確認した内容に基づき、実践した看護援助を評価する。課題を明確にし、具体策を考え、次に実践する。 日々の実習記録を活用して日々の実践を振り返り、思考を整理する。日々の看護援助のみならず、看護計画も同様に、評価・修正し、実践していく。
協働する力	①看護チームの一員として責任ある行動をする。	看護チームの一員として、適切な相手に、適切な時に、必要な情報を報告・連絡・相談する。 情報共有や依頼をしながら、チームスタッフと連携し協働する。 日々の記録の中で、看護チームに一員として重要なことや自己の課題について考察し、行動変容を目指す。
	②チームメンバーおよびチームリーダーとしての役割を考える。	看護チームの一員としての体験およびリーダー役割の見学実習から、看護チームにおけるメンバー、リーダーの役割、意義について考察する。 考察には、日々の実習記録や「リーダー役割同行実習記録用紙」を活用し、思考を整理・表現する。 実習4日目のカンファレンスやリーダー役割同行実習日のカンファレンスにより、考察を深める。
	③夜間の看護の特徴と看護の役割を考える。	実習5日目の夜間実習において、夜間の看護援助、看護チームの連携の実際などを見学し、夜間における看護の特徴と目的や根拠を明らかにする。 「夜間実習記録用紙」に実習体験と考察内容を表現する。 実習6日目カンファレンスにより、考察を深める。
	④各病棟における管理者の役割と看護管理の必要性を考える。	実習9・10・11日目のいずれか1日に、病棟看護師長に同行し、管理者の業務の実際を見学する。同行実習の体験をもとに、病棟における管理者の役割と看護管理の必要性について既習知識を活用しながら考察する。 「管理者役割同行実習記録用紙」や日々の実習記録を活用し、実習体験と考察内容を表現する。 実習当日のカンファレンスにより、思考を深める。
	⑤医療チームの一員として看護師の役割について考える。	実習期間中、医療チームが連携・協働する場に積極的に参加する。 実習体験を意味付け、医療チームの一員として看護職に求められる役割について考察する。 日々の実習記録を活用し、自己の考えを整理・表現する。

<p>協働する力</p>	<p>⑥病院施設における医療安全管理、感染管理の実際を知り、組織的な活動の目的や根拠を考察する。</p>	<p>実習9・10・11日目のいずれか1日に、病院内の医療安全管理室、感染対策室において見学実習をする。実習体験に基づき、医療安全管理、感染管理の組織的な活動の目的や根拠について考察し、自己の考えを明確にする。</p> <p>さらに、看護専門職として自分自身がなすべき行動は何かについて明らかにする。</p> <p>「安全管理室実習記録用紙」「感染対策室実習記録用紙」に実習体験と考察内容を表現する。</p> <p>実習当日のカンファレンスにより思考を深める。</p>
<p>意思決定を支える力</p>	<p>⑦組織の一員として自己の在り方を考察する。</p>	<p>実習期間全体の体験や既習の知識を活用し、組織の一員として期待される姿勢や態度について考察する。</p> <p>あるべき姿と現在の自己を比較検討し、自己の課題や取り組むべき内容を明らかにする。</p> <p>管理者同行実習、リーダー役割同行実習、医療安全・感染対策室実習での記録や実習ノート、総括表に自己の考えを表現する。</p>
<p>意思決定を支える力</p>	<p>⑧患者や家族の思いや考え、希望を確認し、看護援助に反映させる。</p>	<p>患者や家族の思い、考え、希望を主体的かつ意図的に確認する。</p> <p>確認したことを患者の状況を踏まえて看護援助に活かすよう検討し、実践する。</p>
<p>振り返る力</p>	<p>⑨複数の患者を受け持ちながら、個人を尊重する看護援助について考察する。</p>	<p>実習体験に基づき、複数患者を受け持つ中で患者一人ひとりを尊重するために必要なことは何か考察する。</p> <p>自らの課題を踏まえ、今後どのように行動し、取り組む必要があるのか明らかにする。</p> <p>日々の体験・振り返りから考察し、日々の実習記録や雑話にて思考を整理・表現する。</p>
<p>振り返る力</p>	<p>⑩常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。</p>	<p>看護者として、一人の人間として成長できるように、常に目標を持ち実習に臨む。</p> <p>看護実践、学習の仕方、生活の仕方、実習への取り組み姿勢などについて客観的に振り返り、自己の課題や強みを見出す。</p> <p>不足や課題については具体的な改善策を考え、行動変容を目指す。</p> <p>また、自己の成長や強みも確認し、活かしていく。</p>
<p>振り返る力</p>	<p>⑪社会人として、ルールやマナーを守る。</p>	<p>社会人として求められる社会的なルールやマナーを守る。</p> <p>自己の言動が他者に及ぼす影響を考え、場や状況に適した行動をする。</p> <p>不足があれば、自己を振り返り、周囲から求められる姿とは何かを考え、行動を修正する。</p>

看護学生としての基本的態度・姿勢	②患者を中心に考えた行動をする。	<p>看護師を目指す者としての自覚をと責任を持ち、あらゆる場面において患者を中心に考え、倫理的に行動する。</p> <p>迷いが生じた場合は、ケアの対象となる人々の利益を最優先に考え、躊躇せず相談し助言を求める。</p>
	③主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<p>自身のなりたい看護師像を目指し、自己の目標を意識しながら学習に取り組む。</p> <p>指示されなくとも、実習に必要となる知識や技術について事前に学習し実習に臨む。</p> <p>実習中に経験したことの意味や価値を考え、看護として汎用できる知識となるように努める。</p> <p>日々の気づきや学びは、学生間や教員、指導者などと意見交換し、学びを深める。</p> <p>学びの軌跡は日々の実習記録などに整理し表現する。</p> <p>看護チーム、実習グループの一員として、他者と協働しながら学ぶ。他者から学ぶ姿勢を大切にする。</p>
	④心身ともに安定した状態で実習をする。	<p>自己の体質や傾向を理解し、実習が継続できるように心身ともに健康管理に努める。</p> <p>生活時間や生活習慣を整え、時間管理をし、計画的に自己学習を進める。</p> <p>必要に応じて、教員や指導者に相談し助言を求める。</p>

## 6. 実習計画

### 1) 実習日程・内容

日程	月・日	実習場所	時間	内 容	カンファレンス テーマ
事前		学内	1.5	事前実習オリエンテーション	
1日目	11/27 (月)	病棟	7.5	オリエンテーション 個人面接 受け持ち患者の決定、情報収集・関わり	
2日目	11/28 (火)	病棟	7.5	<b>同行実習</b> 複数患者への看護実践の実際を知る。	実習グループ 複数患者を受け持つ ために必要なこと
3日目	11/29 (水)	病棟	7.5	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの1員(メンバー)として動く	病棟グループ 自由テーマ (学生が設定)
4日目	11/30 (木)	病棟	7.5	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの1員(メンバー)として動く	実習グループ 看護チームにおける メンバー役割とそ の在り方
5日目	12/1 (金)	病棟	6.0	<b>夜間実習</b> 13:00~20:00 夜間帯の看護師へ同行 夜間帯における看護の実際を知る。	
6日目	12/4 (月)	病棟	7.5	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの1員(メンバー)として動く	実習グループ 夜間の看護の特徴と 役割を考える
7日目	12/5 (火)	病棟	7.5	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの1員(メンバー)として動く	病棟グループ 自由テーマ (学生が設定)
8日目	12/6 (水)	病棟	7.5	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの1員(メンバー)として動く	実習グループ 看護援助の優先順位 や時間管理の刷新に おいて大切なこと
9日目	12/7 (木)	病棟 各部署	7.5	3日間日によって以下の実習内容を行う ①管理者(病棟師長)同行実習 ②看護チームのリーダー同行実習 ③医療安全管理室・感染対策室にて 同行実習	各種実習グループ ①管理者役割から考 える看護管理の必 要性
10日目	12/8 (金)	病棟 各部署	7.5		②看護チームにおけ るリーダー役割と その意義
11日目	12/11 (月)	病棟 各部署	7.5	*実習グループを解体し、実習内容ごとの グループでカンファレンスを行う。	③組織的な安全管理 の意義
12日目	12/12 (火)	病棟	7.5	3年間の学びと成長、今後の展望の確認	学びの発表会

\*毎日、以下のものを病棟の指定の場所へ提出し、実習指導者および教員の指導を受ける。

① 日々の実習記録（記録用紙1枚に、受け持ち患者2名分を記載する。）

指定の用紙に日々の実習目標、計画、1日の振り返り、患者のアセスメントなどを記載する。自己の振り返りや患者の理解、必要な看護の抽出など、思考を整理していくための道具として活用する。実施する看護援助、看護処置、診療の補助技術を安全・安楽に実施するために、必ず援助方法の計画を立案し別紙に記す。実施後は、評価・修正する。

カンファレンスの実施後は、カンファレンスにおける気づきや学びを整理する。

② 情報整理用紙（受け持ち患者1名につき1枚）

患者と患者への看護などの思考課程を、患者1名につきA3用紙1枚に表す。

受け持ち患者の状態、個別性、看護上の問題、必要な看護などを考えるために必要な情報の整理、情報と情報の関連付けの思考などに活用する。記載の形式に関する約束事はない。自由に使用する。日々の実習記録と関連させながら、看護実践に活用する。

③ 実習ポートフォリオ

事前に事前学習を進め、ポートフォリオにファイルする。実習開始後においても、患者や患者に行われている治療、検査、看護技術などに関する学習は、随時的にファイリングする。

ファイリングする資料には、学習した自身の意図や目的を付箋に記載し貼付する。

実習終了後には、受け持ち患者に実施する看護援助計画もファイリングし提出する。

講義「総合看護実践」の学習に役立つような資料、物品なども自由にファイリングしてよい。

④ ルーブリック

毎日、実習後にルーブリックを確認し、自己の到達度や不足、課題を明確化する。さらに、改善していくための方法を明確にする。必要時、実習指導者や教員に助言を求める。

ルーブリックの各学習活動の評価基準の枠に、自己評価した日付を記載し到達度を確認していく。

\*以下の実習においては、指定の用紙に自己の学びや気づきをまとめ、考察する。

なお、記載に当たっては、学習内容・学習方法、ルーブリックを確認し熟考すること。

① 夜間実習 : 「夜間実習記録用紙」

② 管理者（病棟師長）同行実習 : 「管理者役割同行実習記録用紙」

③ 看護チームのリーダー同行実習 : 「リーダー役割同行実習記録用紙」

④ 医療安全管理室・感染対策室における同行実習  
: 「安全管理室実習記録用紙」・「感染対策室実習記録用紙」

※ 関連する学習活動の内容について、当日の経験に基づき、既習の知識を活用しながら自らの考えを明らかにする。

### \*夜間実習

実習5日目（12月1日（金）） 13:00～20:00

13:00～ 複数受け持ち患者とコミュニケーション・情報収集

15:00～16:00 休憩（軽食をとる）

16:00～20:00 夜間実習

※ 夜間であるため、帰宅時間は厳守する。

## 7. 看護技術の到達度と実施

実習開始前に、必ず「看護技術経験録」を確認し、未経験であったり経験の少ない看護技術の確認をする。実習1日目の個人面接の際、自分が学習したい看護技術について実習指導者および教員に申告する。実習期間中に主体的かつ積極的に経験していく。実施する看護技術については、必ず事前に学習し、物品や方法などについて実習指導者に相談し助言を求める。

## 8. 提出物

### 1) 実習ファイル

- ① 臨地実習 目標シート
- ② 統合実習評価表
- ③ ルーブリック
- ④ 統合実習総括表
- ⑤ 情報整理用紙（患者2名分）
- ⑥ 看護計画用紙（患者2名分）
- ⑦ 夜間実習記録用紙
- ⑧ リーダー役割同行実習記録用紙
- ⑨ 管理者役割同行実習記録用紙
- ⑩ 医療安全管理室実習記録用紙
- ⑪ 感染対策室実習記録用紙
- ⑫ 日々の実習記録

### 2) 実習ポートフォリオ

### 3) 実習に使用したメモノート